

官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命
ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ
得十五年第六十八號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十七年第十八號布告ヲ以テ更
得(每年一度)ノ下(三月)ヲ(十一月)ト改メ十八年一月ヨリ施行セシム

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコ
トヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ同上

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルト
キハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ
終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ
施行スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加シ
十五年第六十八號布告ヲ以テ全項改正

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ閉クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ
其事由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ十四年第四號布告ヲ
以テ本項ヲ追加ス

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄
ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之
ヲ施行スルコトヲ得十五年第六十八號布告
ヲ以テ本項ヲ追加ス

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ

內務卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得十四年第四號布告ヲ以テ
前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定
セシムヘシ同上本
項追加

第三十五條 內務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ
更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員以下十三年第四十九
號布告ヲ以テ追加

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ
常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スル
ヲ得十五年第十號布告ヲ以
テ本項及次項ヲ追加ス

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ郡區各部ニ之ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支
出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經
費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得十五年第六十八號布
告ヲ以テ全條改正

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ
報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會
議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳內ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四類 府縣會及町村會郡區町村

第四十條 常置委員諮同會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス十五年第十號布告ヲ以テ之常置委員ノ下ニ二字ヲ加フ

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ撰舉スヘシ同上全條改正

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得同上(トシ)ノ下三字ヲ加フ

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス同上(議事縣令)ニ改ム

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會規則心得十三年九月無號達

府縣會規則ノ儀ニ付左ノ二件爲心得相違候事

一 本項ハ府縣會規則第十條へ追加相成候ニ付自然消滅シタル旨十五年三月廿九日內務省ノ伺定アルヲ以テ略ス

一 議長副議長共欠席スルトキハ議員中ニ於テ臨時假議長ヲ公選シ其日ノ會議ヲ開クモ妨ケナシ

○十三年十二月內務省乙第四十八號達

本年第四十九號ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相違候事

一 (此一項ハ同年乙第五十三號達ヲ以テ取消シ更ニ左ノ通り改正ス)

一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ撰任スヘシ

一 十三年度中常置委員ノ月手當又往復旅費ハ委員ヲ撰舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ

一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區撰出ノ人員ヲ定ムルヲ得

一 常置委員補欠ノ爲メ相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ

一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ務ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得

一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖モ若シ議員本分ノ任期ヲ終リタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス

一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行ス可キモノトス

○府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議員選舉法

第九條第十條ニ記載官吏ハ在職者ニ限ル(二十二年六月四日閣令第十八號)

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルハ本廳長官ノ許可ヲ受ク可シ

參照 ○府縣會規則第七條(明治十三年四月第十五號)

通常會期中議員ノ内二入以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議

會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議員ノ名ヲ以テ道ニ内務廳ニ送附スルヲ得

參觀 ●全第十三條第二項(全前)
懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上其決ノ刑ニ處セラレタル者
但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

參觀 ●全第十四條但書(全前)
但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ屬ルモノハ選舉人タルコトヲ得ス

參觀 ●全第三十一條及第三十二條(全前)
府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會期
ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由テ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘシ事務アルトキ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其理由ヲ
請フヘシ

參觀 ●全第三十七條(十三年十一月第四十九號)
當置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ノ諮問ヲ受
ク其意見ヲ述ヘ及ヒ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議決シ道ヲ府縣會ニ
報告スルヲ得

參觀 ●香川縣會議員選舉及地方稅分割手續(二十一年十二月十八日)
勅令第七十九號ヲ以テ愛媛縣ヲ分割シ香川縣ヲ置カレタルニ付テハ該縣會議員選舉及地方稅分割等ノ手續左ノ通之
レヲ定ム

第一條 縣會議員ハ各改選ノ手續ヲ爲且當置委員ヲ選舉ス可シ但議員ノ數ハ知事之レヲ定メ次回改選ヨリ會議ニ於
テ定ム可シ

第二條 地方稅ノ收出豫算ハ各更正會議ヲ開キ之レヲ議定ス可シ但議定前ニ於テ事務施行上費用ヲ要スルトキハ否
縣會ニ於テ議定セシ豫算ニ依リ假ニ其機關ヲ徵收支出スルコトヲ得

第三條 前條收出豫算ヲ議定スル會議ハ各通常會トス但十三年當省乙第十二號達議員ノ任期計算ニハ算入セザルモ
ノトス

第四條 地方稅ハ土地人民引渡前日迄ニ屬スル實費ヲ引去リ其殘額ハ引渡前日迄ニ實收セシ歩合ニ依リ之ヲ分割ス
可シ

第五條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ對スル寄附ノ金穀物件ニシテ寄附者ニ於テ其費途又ハ使用ヲ指定シタルモ
ノハ該事業所屬縣ノ地方稅ニ組込ムヘシ

第六條 土地人民引渡前日迄ニ於テ地方稅ノ意納金アルトキハ一旦之レヲ除却シ精算ヲ了シ他日意納者所屬縣ニ於
テ之ヲ追徵シタルトキハ其地方稅雜收入ニ組込ム可シ

第七條 地方稅經濟ニ係ル物件ハ總テ其所在ノ縣ニ於テ之ヲ管轄スヘシ

第八條 前年度地方稅收出決算ニ至リ殘餘アルトキハ該年度各實收入ノ割合ヲ以テ分割ス可シ

第九條 前條決算ノ場合ニ於テ不足ヲ生シタルトキハ該年度各實收入ニ割合地方稅規則第五條第二項ニ依リ之レヲ
補充ス可シ但一地方ニ屬スル費額縣廳舍及監獄^{縣廳舍及監獄}_{繕費並病院費ノ類}^{建築修}ノ不足ハ各其所屬ノ縣ニ於テ之レヲ補充ス可シ

第十條 備蓄金ハ土地人民引渡前日迄ノ支出額ヲ引去リ其殘額ハ從來實收ノ歩合ニ依リ分割ス可シ但意納金ア
ルトキハ第六條ニ準シ處分ス可シ

第十一條 在監人ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ分割ス可シ

輕罪以下ノ已決囚ハ其裁判管轄ノ地

輕罪以下ノ未決囚ハ其裁判管轄ノ地

重罪囚ハ犯罪地逮捕地等土地ニ依リ其裁判管轄ヲ定ムルモノハ其土地所屬ノ縣ニ依リ之ヲ分割ス可シ其他已決囚

第四類 府縣會ヲ區町村會郡區町村

ハ其裁判官被シタル地未決囚ハ現ニ拘禁シアル地ニ依リ之ヲ分割ス可シ
不陸罪懲治人ハ其裁判官被ノ地
情願懲治人ハ其情願者所在ノ地
別房留置人ハ其留置ノ監獄

第十五章 府縣會議員選舉規則

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
内務大臣 伯爵 松方正義

法律第六號

府縣會議員選舉規則

- 第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ
撰舉人名原簿ニハ撰舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ
- 第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名原簿ヲ調製シ十月十五

日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會議規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縱覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セサリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ選舉スヘキキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕議員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

選舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所属ノ選舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其職ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會長トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ充ツスヘシ

第十九條 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命ズヘシ
第二十條 選舉會書記ハ選舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着

ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉録並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示ス
ヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用キ投票
ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
用紙ハ正議員ノ外補議員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正
議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補議員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 選舉人ハ自ら投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印
スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ
照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ルトキハ選舉會長ハ書
記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀開セ立ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得
ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレハ
キ裁判官渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧嘩ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸
誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從
ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入
ルコトヲ得

第三十條 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 選舉會場ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時
選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナキヤテ以テシ若シ
之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票
函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ捺印點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗
讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ捺線ヲ加ヘ一部分無効ノモノ
ハ其部分ニ捺線ヲ加フヘシ

第三十四條 撰舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ各欄撰舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ撰舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ撰舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被撰舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用キ其當撰ヲ定ムヘシ但即時ニ其當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムルモノトス

當撰タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被撰舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢簿ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ二年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ撰舉ニ關シ

訴訟又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ撰舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 撰舉開會ノ月日並ニ時刻
 - 二 撰舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人ノ住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其願末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其願末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被撰舉人ノ得點數
 - 八 當撰人ノ住所氏名若シ直ニ當撰ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 撰舉閉會ノ時刻
 - 十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 撰舉錄ニハ撰舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ照會シ被撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル
- 第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判官渡替ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

四 撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ

五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勲等其敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス

六 被撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

七 被撰舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被撰舉人其撰舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ

一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 撰舉人又ハ被撰舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ撰舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ撰舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ撰舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ撰舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ撰舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ撰舉人名簿中ニ各撰舉人所属ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他撰舉ノ手續會場ノ取締撰舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ撰舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會撰舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ撰舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ撰舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到著ヲ待テ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ

當撰者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當撰ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當撰ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當撰者ト爲スヘシ

第五十二條 撰舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當撰者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ増撰スルトキハ其撰舉ハ正議員撰舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員當撰ト爲スヘシ

第五十六條 當撰ノ査定ニ不服アル關係者ハ當撰者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十

日以内ニ控訴院ニ出訴スルトコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當撰者確定ノ後其當撰者ノ被撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 撰舉全會ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ命スルハ其撰舉ノ撰舉規定ニ違フ場合ニ限

ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ撰舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更

正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニ在ラス

撰舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ內務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齢其他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラ

レタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ

テ當撰者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者ト爲リタル

者六十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ

抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シ

タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シハ

直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ

投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三

十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者モ

亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコト

ヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮

ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰舉人ヲ脅嚇スル者又ハ撰舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留、毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第六十六條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 撰舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵触スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ撰舉人名簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ撰舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用フルコトヲ得ト雖モ其

他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

明治十四年二月十四日

第八號布告

○區郡部會規則

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年(五月)第貳拾六號及第貳拾七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得十四年第二號布告

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ增加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

第四類 府縣會及區町村會區町村

第六條 十五年第十二號

第七條 同上

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方税ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ
第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋税ト爲スコトヲ得同上

○府縣會其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會等ニ付スルヲ得明治十四年二月十四日 第六號布告

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ハ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ他議員ト往復通信

ヲ禁ス明治十五年十二月二十八日 第七十號布告

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス
其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ台ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス
右奉 勅旨布告候事

○府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選ノ上就職交替

手續明治十四年七月四日 內務省第四號布告

府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選之上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨布達候事

但常置委員ノ儀モ本文同様可取計事

○府縣會規則心得條件明治十三年十二月二日 內務省乙第四拾八號府縣會令

本年第四十九號ヲ以府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事
一 常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ撰任スヘシ同年乙第五十三號省令ヲ以テ第一項ヲ取消シ本項以下二項ヲ加フ
一 十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ撰擧セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ

- 一 郡區經濟ヲ異ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區撰出ノ人員ヲ定ムルヲ得
- 一 常置委員補欠ノ爲相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ
- 一 第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ勸ムト雖モ本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得
- 一 第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二年タルヘシト雖モ若シ議員本分ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス
- 一 常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

○府縣會審理事務手續十四年十月二十八日 第九十一號官省院使廳府縣會令

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

今般參事院ヲ被置候ニ付本年(二月)第六號達審理局ヲ被廢事務手續左ノ通被定候條此旨相達候事但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取纏メ法制局長官ニ當テ差出スヘシ十八年七月十八號達ヲ以テ參事院議長ヲ法制局長官ト改ム

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サ、ルコトアルトキハ府知事縣令若クハ其代理人及ヒ府縣會總代自ラ法制局ニ出頭シテ之ヲ辨明シ又ハ法制局ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ同上達ヲ以テ參事院ヲ法制局ト改ム

但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル

第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

○區町村費支辨條件十七年五月七日 內務省乙第二十四號達
本年第十三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戶長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○區町村費ノ賦課ニ應セサル地所十七年十一月十八日 太政官第九十四號達
凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村費之賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各適宜タルヘシ

十八年第七號達
十一號達
以テ參事院
ヲ以テ法制
局長官ト改
ム

○區町村會評決費怠納者處分方十七年五月七日 第十五號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年(十一月)第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ財產公賣ノ際買受留人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サヌ郡區長又ハ戶長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分スヘシ

○地方稅ニ關シ寄附スル金穀物件及雜收入ハ府縣會ノ議定ニ付ス

除地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年十一月四日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
內務大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第五十六號(官報十一月五日)

第一條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル用途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

○區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件

ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシム二十年十一月四日 內務省訓令第四十七號

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○區町村費ヲ以テ支辨スル金穀物件及雜收入ハ區町村會ノ評決ニ付セシム

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル用途又ハ使用ニ充テシムヘシ

區町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同シク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

○郡區町村編制法

明治十一年七月二十二日
第十七號布告

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方ヲ審シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ審シテ數郡トナス東西南北上中下某郡ト云カ如シ

第四條 三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クヲ得

第六條 每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得

但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ヌルヲ得

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得以下十三條同十四條

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ内務卿ノ認可ヲ受クヘシ

○高等中學校設置區域内府縣委員會規則

二十九年九月十二日
勅令第四十六號

朕高等中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵山縣有朋

明治二十年九月九日

高等中學校設置區域内府縣委員會規則

勅令第四十六號(官報九月十二日)

第一條 委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日

以內トス但各府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スル事ヲ得

第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

第三條 委員ノ任期ハ一會期限ヲノモノトス

但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其屬ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條 府縣會議規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條

項中府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

○公益ノタメ人民ノ設立セル學校病院等ノ外各府縣
公共財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議
定ニ付セサルモノノ管理方

明治二十二年一月二十四日
內務省令第一號

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條 前條ノ財産ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ該會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

○市制施行ニ付府縣會議員ノ撰舉及市公民ノ資格

朕市制施行ニ付府縣會議員ノ撰舉及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

法律第七號

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改撰セス

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員撰舉ノ區域及區部郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其増加スヘキ議員ハ新ニ撰舉スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員撰舉ノ區域ハ之ヲ變更

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

セス其撰舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ撰舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

第十六章

區町村會法

明治十三年(四月)第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス
明治十七年五月七日
第拾四號布告

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改撰及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム
第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不

適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改撰セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役者ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第四類 府縣會及區町村會郡區町村

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ區長戶長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事項アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戶長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

水利土功及學事ニ關スル會議存續

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

内務大臣伯爵松方正義

文部大臣伯爵大山 巖

法律第十一號

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年(五月)第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設ケルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

議會並議員保護

朕議會並議員護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月七日

内閣總理大臣公爵三條實美

司法大臣伯爵山田顯義

法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以

第四類 府縣會及町村會郡區町村

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第四條 職員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的
 ナリテ職員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以
 上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ檢ス
 第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ職員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ
 照シ一尋ヲ加入重キニ從テ處斷ス

◎伺指令

◎衆議院議員選舉人及被選舉人資格ノ件(高知縣)伺明治二十二年三月十一日
 本年法律第三號衆議院議員選舉法ニ由ルトキハ同法第十四條第四項五ノ項ニ於テハル者ハ選舉被選舉ノ資格ナク而
 シテ刑法第六十四條ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直ニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中罪狀ニ
 非サレハ復權ヲ得スト大赦特赦ノ分界判然セリ抑大赦ナルモノハ唯其罪ヲ免スニ止マラス其罪因テシテ免罪
 犯ヒシコトナキ純實ノ人トナシ以テ社會ニ出スノ精神ニ依リ直ニ復權ヲ得セシムルモ選舉法第十四條ニ關
 クル赦免ノ文字ハ大赦特赦同一視シ同條第四項五ノ項ニ該當スルモノハ復權條三箇年間ハ公選中ノ一部ヲ停止
 スルハ大赦ノ精神ニ對シ稍空當ヲ缺クモノト加シ然リト雖トモ文字上ノ見解ヲ下ストキハ議員選舉法第十四條ニ關
 クル赦免ノ文字ニハ大赦特赦ヲ包含セルモノト解釋致シ可然哉
 (內務省)指令 明治二十二年三月十六日
 大赦ヲ受ケタル者ハ法律第三號第十四條第四項五ノ項ノ赦免ニ包含ス

第五類

地所建物並道路橋梁

第十七章

地所名稱區別

明治七年十一月七日
 第百貳拾號布告

明治六年(三月)第百拾四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事
 官有地

第一種

地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(區入費)ヲ(地方稅)ト改

一 皇宮地

皇居離宮等ヲ云

一 神地

伊勢神宮山陵官國府社府縣社
 及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種

地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地
 券ヲ發セス唯帳簿ニ記入スヲ以テ(區入費)ヲ賦スルヲ(地方稅)ヲ賦セサルト改ム

一 皇族賜邸

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 官用地

官廳官使寮司府縣(本支)總裁判所警視廳陸海軍
 (本分)官其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種

地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ

一 山岳丘陵林原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサ

ル者

三十四號布告ヲ以テ(借地料)ノ下(及ヒ)以下(十字)ヲ(納メシムヘシ)ト改ム

一 鐵道線路敷地

一 電信線柱地敷

第五類 地所建物並道路橋梁

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法殴打創傷ノ各本條ニ照シ一尋ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

●伺指令

●衆議院議員選舉人及被選舉人資格ノ件(高知縣)伺明治二十二年三月十一日

本年法律第三號衆議院議員選舉法ニ由ルトキハ同法第十四條第四項五ノ項ニ於テ當ヘル者ハ選舉被選舉ノ資格ヲ有シテ刑法第六十四條ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ或ニ復讐ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ免罪ヲ得スト大赦特赦ノ分界判然セリ抑大赦ナルモノハ唯其罪ヲ免スニ止マラス其罪因テシテ免罪ヲ犯ヒシコトナキ純良ノ人トナシ以テ社會ニ出スノ精神ニ由リ自ラ或ニ復讐ヲ得ケルモノモ選擧法第十四條二項クル赦免ノ文字ハ大赦特赦ヲ同一視シ同條第四項五ノ項ニ該當スルモノハ復讐後尙三箇年間ハ公債中ノ一部ヲ停止スルハ大赦ノ精神ニ對シ稍妥當ヲ缺クモノノ如シ然リト雖トモ文字上ノ見解ヲ下ストキハ議員選舉法第十四條二項クル赦免ノ文字ニハ大赦特赦ヲ包含セルモノト解釋致シ可然哉

(內務省)指令 明治二十二年三月十六日
大赦ヲ受ケタル者ハ法律第三號第十四條第四項五兩項ノ赦免ニ包含ス

第五類 地所建物並道路橋梁

第十七章 地所名稱區別

明治六年(三月)第百拾四號布告地所名稱區別 明治七年十一月七日
第百貳拾號布告 明治七年十一月七日

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告ヲ以テ改正十二年第三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ(地方稅)ヲ賦セサル)ト改ム

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸

一 官用地 (官廳官署警察府縣(本支)監獄裁判所警視廳陸海軍(本分)官其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云)

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ(十二年第三十四號布告ヲ以テ(借地料)ノ下(及ヒ)以下十字ヲ)ナ

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル者

一 鐵道線路敷地
一 電信線柱地敷

第五類 地所建物並道路橋梁

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一尋ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

●何指令

●衆議院議員選舉人及被選舉人資格ノ件(高知縣) 何明治二十二年三月十一日

本年法律第三號衆議院議員選舉法ニ由ルトキハ同法第十四條第四項五ノ項ニテ當ル者ハ選舉被選舉ノ資格ナク而シテ刑法第六十四條ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直ニ復讐ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ私權ヲ得スト大赦特赦ノ分界判然セリ抑大赦ナルモノハ唯其罪ヲ免スニ止マラス其罪因テシテ付テ罪ヲ犯ヒシコトナキ純瓦ノ人トナシ以テ社會ニ出スノ精神ニ依リ直ニ復讐ヲ得ケルモノハ國選法第十四條二項ノ免免ノ文字ハ大赦特赦ノ同一視シ同條第四項五ノ項ニ該當スルモノハ復讐後尙三箇年間ハ公債中ノ一部ヲ停止スルハ大赦ノ精神ニ對シ稍妥當ヲ缺クモノノ加シ然リト雖トモ文字上ノ見解ヲ下ストキハ議員選舉法第十四條二項ノ免免ノ文字ニハ大赦特赦ヲ包含セルモノト解釋致シ可然哉

(內務省)指令 明治二十二年三月十六日

大赦ヲ受ケタル者ハ法律第三號第十四條第四項五ノ項ノ免免ニ包含ス

第五類 地所建物並道路橋梁

第十七章 地所名稱區別

明治六年(三月)第百拾四號布告地所名稱區別 明治七年十一月七日 第百貳拾號布告

官有地

- 第一種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費)ヲ(地方稅)ト改
 - 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
 - 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
- 第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セズ唯帳簿ニ記入ス八年第百十四號布告ヲ以テ改正十二年第三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ賦スル)ヲ(地方稅)ヲ賦セサル)ト改ム
 - 一 皇族賜邸 但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
 - 一 官用地 官院官使寮司府縣(本支)縣裁判所警視廳陸海軍(本分)營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云
- 第三種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
 - 但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ十二年第三十四號布告ヲ以テ(借地料)ノ下(及ヒ)以下十字ヲ)ナ
 - 一 山岳丘陵林原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル者
 - 一 鐵道線路敷地
 - 一 電信線柱地敷

第五類 地所建物並道路橋梁

十七年第七
號布告參看
第四百章ノ
第四條

十九年內乙第
百廿三號連
場以テ舊機
場從前ノ舊
地及ヒ新規
地拂下クハ
土地拂下ハ
租入レ種
Aニ有ル

一 證明臺敷地

- 一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權利ヲ失セシ土地
- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場

第四種

民有地

地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス同上(區入費ヲ賦スル)ハ地方稅ヲ賦セサルニ改ム

第一種

地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス同上(區入費)ヲ(地方稅)ト改ム

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云
但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ價シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣秣社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云從前第二種九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ價地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種

地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス八年第百拾四號布告ヲ以テ第三種ヲ以テ(區入費)ヲ(地方稅)ト改ム
一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云

一 民有ノ用惡水路溜池敷地及井溝敷地八年第百五十四號布告ヲ以テ本項追加

一 公衆ノ用ニ供スル道路十三年第四十三號布告ヲ以テ本項追加

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

● 伺指令

滋賀縣ヨリ開墾地許可以前着手候者處分方之儀ニ付伺明治十六年三月十六日

民有地ヲ開墾セントスルキハ明治七年第二十號布告ニ據リ出願許可ヲ請フヘキ等ノ處往々無願ニテ着手スルモノ有之夫レヲ問フヘキ法律アラサルカ爲メ反縮離相立ヲ以テ右等ノモノハ本縣限リ左ノ邊取扱度候

一 無願ニテ開墾着手セシモノハ其地ノ開墾地目(田畑)ニ改メ近傍同地目比準ノ地價ニ修正シ一切無願ニテ開墾シ後發覺シタルモノハ其開墾着手セシ年ニ過リ修正地價ニ依リ地租退還スルモノトス

右之通相定メ管下ヘ布達致度御差支無之候ハ、御尤可被下度此段相伺候也
(內務大藏兩省)指令明治十七年一月二十三日

同之趣無願開墾スルモノハ九年第六十七號公布第一條ニ據リ十四年第七十二號公布第四條ヲ以テ處分スヘキ儀ニ付別段取締向管内布達ニ不及候ト可心得事

第十八章

北海道土地拂下規則

十九年六月二十九日
閣令第十六號

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道土地拂下規則

- 第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ
- 第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ
- 第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數并事業ノ目的着手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントス

第五類 地所建物並道路橋梁

ル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ
 北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス
 第四條 貸下期ハ限十年以内トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸
 下年期ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ
 第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場及牧場ハ隨時其事業ノ現
 況ヲ點檢スヘシ
 第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成テサル片ハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返
 納セシメ海産乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成テサル片ハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ
 天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮
 ナ請フヘシ
 第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレ
 ハ相當ノ樹代木價ヲ納メシムヘシ
 第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其限期中ト雖モ之ヲ返納セシムルコトア
 ルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨以スルモノトス
 第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキ
 ハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸
 下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ
 第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後之ヲ拂下ケ地券ヲ下付スヘシ但其土
 地ハ拂下ノ翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス
 第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

附則

第十二條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則ニ依リ土地ノ拂下ヲ受ケ或ハ
 拂下人ヨリ買受ケタル土地ニシテ其事業未タ成テサルモノハ本規則第三條第一項ニ
 準シ明治二十年ヨリ向フ十年以内ニ成功ノ目的ヲ以テ方法書取調本年十二月迄ニ北
 海道廳ヘ申出ヘシ若シ其申出ヲ怠リ又ハ申出ノ後天災地變其他避クヘカラサル事故
 アルニ非スシテ該方法書ノ如ク成功セサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ當
 初ノ拂下代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ
 第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明
 治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

官有地拂下並貸下取扱方

十八年六月廿五日
 內務省甲第廿一號府縣へ達 (農務務卿連署)

官有地拂下并ニ貸下之儀左ノ通相定メ明治九年(三月)內務省乙第三十四號達ハ廢止ス
 此旨相達候事
 一凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地
 券ヲ官廳へ差出サシムヘシ若シ之ヲ差出サ、ルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス
 一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於
 テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等
 ナ下付スルコトアルヘシ
 一凡ソ官用地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ

ハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルヲナカルヘシ
一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルヲ得ル
ト雖モ他人ヘ書入又ハ質入ヲ爲スヲ得サル者トス但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テ
ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ

○官有地ハ所在區町村費ノ賦課ニ應セス
明治十七年十一月十八日
第九拾四號官署院廳府縣へ達
凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村費ノ賦課ニ應セサル
儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村へ手當金ヲ給與スルハ各適宜ナルヘシ

○耕地ノ用水溜池等耕作ノ分借地料及地方税ヲ

課セス
明治八年八月廿二日
第四百四拾六號府縣へ達

明治七年(十一月)第百二十號布告ヲ以テ地所名額區別改定民有地ニアラサル池澤溝渠等
ハ官有地第三種ニ編入候ニ付テハ耕地ノ養水溜池及ヒ井溝等ノ儀ハ從前ノ通水掛り地
民ニ所用セシメ耕作一途ニ相用候分ニ限り別ニ借地料地方税等賦課ニ不及候尤右地内
ニ生スル水草魚籃等取入利益トナスモノ其場所故障無之差許候節ハ相當借地料等收入
候儀ト相心得内務省へ可申出此旨相達候事

○市街郡村ニ屬スル揭示場敷地官有地へ編入方

明治八年五月九日
第七拾三號府縣へ達

市街郡村ニ屬スル揭示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將來官有地ニ新設候分ハ

官有地第三種ニ組入ヘク尤新設修繕等一切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事
但民有地ニ建設候節ハ夫々取調内務省へ可申出事

○鄉村社以下神社地民有地ニ編入方

明治八年八月二日
內務省乙第百四拾號府縣へ達

神社境内地名額區別ノ儀ハ明治七年第百貳拾號及ヒ本年第百十四號布告ノ通官民有ノ
區別被相定候處民有地ノ分ハ從前地稅相納來候處地稅改正後ハ鄉村社以上ノ社地ニ限
リ除稅相成候條右布告ノ通民有地第三種ニ編入可致尤鄉村社以上ニアラサル民有ノ社
地ハ民有地第一種一人持 又ハ第二種二人以上ニ編入シ成規ノ通取計候儀ト可相心得此旨
相達候事

○官營ニ關スル倉庫家屋等地種編入方

明治十年二月十五日
內務省乙第拾六號府縣へ達

明治七年乙第廿八號并同年乙第五十八號ヲ以テ相達候官營ニ關スル倉庫及ヒ家屋等將
來使用ノ目的ヲ以テ存置スルモノ又ハ拂下ケ殘ノ分ト雖モ追テ使用候敷或ハ拂下ケ候
迄ハ其敷地ハ總テ官有地ニ第三種拆置候儀ト相心得可申出此旨相達候事
但使用候節ハ其時々經伺之上官有地第二種官用地へ組替可申事

○道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス

八年十二月十七日
內務省乙第百六十五號府縣へ達

從來ノ因襲ヲ以テ是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有
無ニ拘ハラヌ新々ニ貸渡候儀難相成候條爲心得此旨相達候事

○道路河川變換ニ付民有地ヲ新道川敷ト爲ス并舊

十二年第
六號
以テ
所
示
ス
ル
所
以
テ
新
設
修
繕
等
一
切
ノ
費
用
ハ
其
村
市
ニ
於
テ
可
相
辨
此
旨
相
達
候
事
但
民
有
地
ニ
建
設
候
節
ハ
夫
々
取
調
内
務
省
へ
可
申
出
事

十六年乙第
四十五號省
令追加

道舊川敷テ代地トシ下渡サシム

九年六月三十日
内務省乙第八十一號府縣令

一般便宜ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民費ヲ以テ民有地ヲ新道川敷ト爲シ舊道河
河敷不用ニ屬シ土功着手者其地ヲ請求スル時ハ右舊道舊河敷ハ新道新川敷代地トシテ
悉皆無代價ニテ可下渡此旨相達候事

但官林内ニ在ル舊道舊川敷地ハ此限ニアラス

官用地貸渡方

十六年三月二十二日
内務省乙第十二號府縣令

官用地ハ貸渡サ、ル制規ノ處木材運漕ニ際シ不測ノ天災ヲ被ラントスル掛念有之場合
ニ當リ不得已人民ヨリ官林貯場ノ間地ヲ借用セント出願スル片ハ其現場ノ都合ニヨリ
一時應變ハ執計ヲ以テ相當ノ期限及ヒ料金ヲ定メ所用願ヨリ貸渡シ可相成儀モ有之候
條此旨可相心得但料金ハ成規之通大藏省へ上納スヘシ
右相達候事

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下ヲ禁ス

十八年十二月三日
内務省甲第三十六號府縣令

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下ケ又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下
ケタルモノハ當期ヲ限リ返地セシム可シ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ
貸下クルコトヲ得ルト雖モ治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル
儀ト心得可シ此旨相達候事

伺指令

官用地地種ノ儀ニ付兵庫縣伺十六年六月十二日

管下播磨國西垂水村ヨリ淡路國津名郡岩屋浦へ海底電信線布設ニ付全線室古村浦へ被設敷地地租租替ノ義成規ノ
通可取計旨御達相成處分後御届濟ニ有之候儀共右線室敷地ノ如キハ電信線柱並ニ燈明燈 地ト性質ヲ以テ各區
局等ノ敷地トハ所用万全ニ差別アルヲ以テ官有地第三種へ編入地裁ヲ發スヘキモノニ無之候儀存一應伺出候儀
急何分ノ御指揮有之度候也

指令 十六年七月四日

書而伺之趣通官應用地ト同様官有地第二種へ編入可致事

私費橋梁道路渡津等賃錢請求差止方ニ付熊本縣ヨリ内務省へ伺廿年六月廿日

明治十九年(十月)陸軍省令甲第三十九號陸軍召集條例第二十八條第三項ノ主旨タルヤ兵員ノ通行放逐ヲ期スルニ
外ナラサルノク思考致候儀ヲハ從來人民私費ヲ以テ開設セル道路橋梁渡津等ニ於テ賃金請求致候儀分ト雖モ近頃
鐵道充員及ト後備軍召集ニ際シ令狀所持ノ者並該令狀配達ノ脚夫等通行ノ節ハ賃金請求相成ラサル旨命令致シ可
然哉
指令 二十年七月五日

書而伺之通

第十九章 土地收用法

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義

十六年乙卯
四月十五號
省令
加

道舊川敷ヲ代地トシ下渡サシム

九年六月三十日
内務省乙第八十一號府縣へ

一般便宜ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民費ヲ以テ民有地ヲ新道川敷ト爲シ舊道舊河敷不用ニ屬シ土功着手者其地ヲ請求スル時ハ右舊道舊河敷ハ新道新川敷代地トシテ悉皆無代價ニテ可下渡此旨相達候事

但官林内ニ在ル舊道舊川敷地ハ此限ニアラス

官用地貸渡方

十六年三月二十二日
内務省乙第十二號府縣へ

官用地ハ貸渡サ、ル制規ノ處木材運漕ニ際シ不測ノ天災ヲ被ラントスル掛念有之場合ニ當リ不得已人民ヨリ官林貯場ノ間地ヲ借用セント出願スル片ハ其現場ノ都合ニヨリ一時應變ノ執計ヲ以テ相當ノ期限及ヒ料金ヲ定メ所用應ヨリ貸渡シ可相成儀モ有之候條此旨可相心得但其料金ハ成規之通大藏省へ上納スヘシ
右相達候事

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下ヲ禁ス

十八年十二月三日
内務省甲第三十六號府縣へ

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下ケ又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下ケタルモノハ當期ヲ限リ返地セシム可シ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下クルコトヲ得ルト雖厄治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル儀下心得可シ此旨相達候事

伺指令

官用地地種ノ儀ニ付兵庫縣伺十六年六月十二日

管下播磨國西垂水村ヨリ淡路國津名郡若尾浦へ海底電信線布設ニ付全線室古村浦へ被設敷地地租租額ノ義成規ノ通可取計旨御達相成儀分後御届濟ニ有之候得共右線室敷地ノ如キハ電信線柱並ニ燈明燈 地ト性質サ同フシ各縣局等ノ敷地トハ所用万全ニ差別アルサ以テ官有地第三種へ編入地課サ渡スヘキモノニ無之標被存一應伺出候儀至急何分ノ御指揮有之度候也

指令 十六年七月四日

書面伺之趣通官應用地ト同様官有地第三種へ編入可致事

私費橋梁道路渡津等貸錢請求差止方ニ付熊本縣ヨリ内務省へ伺廿年六月廿日

明治十九年(十月)陸軍省令甲第三十九號陸軍召集條例第二十八條第三項ノ主旨タルヤ兵員ノ通行被阻サ期スルニ外サラサルノク思致候儀候テハ從來人民私費ヲ以テ開設セル道路橋梁渡津等ニ於テ貸金請求被阻分ト雖厄近前領登充員及ヒ後備軍召集ニ際シ令狀所持ノ者並該令狀配達ノ脚夫等通行ノ節ハ貸金請求相成リサル旨命令致シ可

然哉

指令 二十年七月五日

書面伺之趣

第十九章 土地收用法

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月三十日

内閣總理大臣 伯耆黒田清隆
内務大臣 伯爵松方正義

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條 左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定、此限ニアラス

一 國防其他兵事ニ要スル土地

二 政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三 官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四 鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

五 河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六 防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條 前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ内務大臣ニ具

申シ内務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ内務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條 内閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章 土地收用ノ手續

第五條 工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條 工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

第五類 地所建物並道路橋梁

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ検査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 工事ノ仕様及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕様書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕様書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地ノ番號地目
- 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪畝量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ
- 三 土地臺帳登記簿ニ依テ知り得ヘキ所有者及關係人ノ氏名
- 四 收用又ハ使用ノ時期
- 五 損失補償金額並其内譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉

ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條 地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縦覧ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ヲシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條 收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以内ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ

土地收用審査委員會ハ仕様其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條 土地收用審査委員會ハ七日以内ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ但其期限内ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條 地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシ

第五類 地所建物並道務橋梁

テ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條 地方長官ヨリ裁決ノ趣ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕様ニ關スル裁決ニ服セス内務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條 土地收用審査委員會ノ工事仕様ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ趣ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終密トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ趣ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條 起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章 損失補償

第十七條 收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價値ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併せて其損失ヲ補償スヘシ

土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條 收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁柵欄及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條 收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部並建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併せて之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條 所有者補償金額ヲ増サンカ爲メ故ヲニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ増加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條 土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限り各別ニ之ヲ補償スヘシ

書入又ハ賣入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ竣テ拂渡スヘシ

第二十四條 補償金ノ受取人之ヲ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條 工事ノ仕様並補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人ノ力爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條 收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以内ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條 天災時變ニ際シ急務ヲ要スル公共ノ收益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條 國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章 土地收用審査委員

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故障ノルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ専門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條 起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人並其父子兄弟ハ土地收用審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條 土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人並第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ關レサル者ニ限ル

第三十二條 土地收用審査委員會ハ起業者並所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條 土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章 雜則

第三十四條 收用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條 起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條 前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サ、ルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條 起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却
讓與シタルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得
第三十八條 國防其他兵事上工事ノ急務ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スル
ハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル
第三十九條 北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長
官沖繩縣知事之ヲ行フ
第四十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲ス
ヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ
島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ
第四十一條 明治八年太政官第三百三十三號建公用地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ
廢止ス

第二十章

地所永代賣買ヲ許ス

明治五年二月十五日
第五拾號布告

地所永代賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀散差許候事

○地所外國人へ賣渡又ハ地所地券等書入ト爲スヲ禁

明治五年四月十四日
第百貳拾四號布告

御國內一般地所ノ儀銘々所持ノ分タリ共外國人へ對シ賣渡候儀ハ勿論金銀取引ノ爲メ
地所又ハ地券等書入致シ候儀ハ決シテ不相成候條未未ノ者ニ至ル迄心得違無之操各管
內無遺漏可觸示事

○地所年季賣買及地所賣買契約シ地券書替ヲナサ

七百八十八
五號布告
第一第三百
十三號

ル内賣主身代限ノ處分ヲ受タルキ處分方

明治十年七月七日
司法省丁第四拾九號大審院上等裁判所地方裁判所へ達

過般地所賣買契約等ノ儀ニ付甲號乙號ノ通り三重縣及ヒ熊谷裁判所ノ同ニ因リ丙號ノ
通り太政官へ上稟シ御裁令ノ上丁號戊號ノ通り及指令候條此段爲心得相違候事

甲號

地所年限賣買及賣買地證文ノ備ニ付同 九年八月
二十六日

三 五 條

第一條 茲二年季ヲ定メ地所賣得シタルモノアリ自作又ハ他人へ宛テ爲賣買租務役之レテ動ムルモノ其年季中ハ
地所所有ノ權買者ニ有スル者ニ似タリト雖モ明治七年第四百四號及ヒ明治八年第六號公布其地券書替ヲ爲サ
限リハ即チ未タ地所賣得ノ効力ナキモノニ付右地所賣得者ニ於テ其買得ノ證及ヒ小作地證文ヲ以テ小作米或ハ加地
子米淹漕ノ訴ヲナストモ准スヘカラサル乎

第二條 同上地所賣得者ニ於テ其買得ノ證ヲ有スト雖モ其租務役共依然賣者ニテ動ムルモノ右買得ノ證文ノミヲ以
テ買得者ヨリ地所代金取戻シノ訴ヲ爲ス者ハ明治六年第三百六拾貳號公布出訴期限第二條ニ照シ准不准ヲ決シ可
然乎

但シ第一條ノ場合ニ於テ地券書替ノ訴訟ヲナシ第二條ノ場合ニ於テ地所不該ノ訴訟ヲ爲スアリト雖トモ何レモ
先ツ其所有者タルノ確据ヲ前ニ置カサレハ裁判ノ結チ成ス能ハサルニ在ルチ唯モ其買得ノ證書而已チ以テシテ
之レカ確据タルヘキ地券狀ヲ書替ノコト我判ヲ得ント欲シ及ヒ地所ヲ受取ント訴フルカ如キ到底無著ノ裁判ニ
歸スヘキヲ以テ採用及ハスシテ可然乎猶又此ノ如キハ行政上ノ裁判上ノ裁判ニ屬スルモノト心得可然候哉
第三條 同上證文中年限相立チ元金返濟致サハ地所賣戻スヘキ旨及ヒ年限相立チ元金返濟致サハ無
異地所賣戻ス可キ旨ノ約定タルカ如キハ文中ニ代金受取リ正ニ地所賣戻ス云々トシテ其賣渡等ノ字句之レヲ

第五類 地所建物並道路橋梁

ルトモ約定ノ期限又ハ期限後元金ト原地ト交換ノ本約定タルモノニシテ買主即チニ於テハ元金返還ヲ受クレハ原
 地ノ儘差戻ス可クシテ未タ其買得ノ地所チ自己ニ變更シ或ハ之レヲ換却譲與等チ行フチ得サ
 ルモノニ在ルチ以テ視レハ純乎買主ニ所有ノ權ノ完備シタル者ニ非ス然レハ文中ニ賣渡時ノ字句アルモ餘スル
 所唯タ貸借金ノ買地ト看做サハルチ得サルチ覺ユ果シテ然ラハ右ノ如キハ年季賣買ノ名稱チ用ヒス之ヲ無年季買
 地ナルモノト類似トシテ而シテ其實際ニ就キテ買入又ハ賣入ノ區別ヲ審究シ明治六年第拾八號公布ニ照準シ取捨
 裁別及ヒ可然乎

但シ本文ノ如クナル時ハ設文中期限元金返シ地所差戻スノ明文之レ無クトモ既ニ年季ノ定メ之レアルモノハ同
 シク明治六年第拾八號公布第一二三條ニ照シ貸借チ行フタルモノト看做シ可然乎

第四條 前條々其實際チ開ハス總テ年限賣買ト看做ス可キニ於テハ假令ハ丁卯十二月以前ノ貸借ニシテ買地差入ル
 ノアランニハ設文上買地チ差入レタル貸借ナリト認メ丁卯以前ノ貸借ナリト雖トモ採上ケ賣列及ハサル可カラス
 而ルニ被告ニ於テハ設文上買地差入ル等ノ文字之レアルモ唯タ該地チ賣入ニナシタルマテニテ買租借役モ皆地主
 即チ被ニ於テ勸メ來ルニヨリ買地ニアラスト答辯ス依テ後場ノ續簿チ查スルニ會チ原告ノ買地ニ取リ置キタルノ
 證據視ル可キ無シ然ル時ハ地所賣入ノ貸借ト看做シ丁卯以前ノ貸金ナルチ以テ採上ケサルノ賣列ニ出テサル可カ
 ラス斯ノ如キモ尙實際ニ就カスシテ設文面ニ依リ買地ヨリ起ル貸金ノ賣列致ス可キモノニ可右之乎
 右迅速御指揮被成下度此段相伺候也

乙號 地所賣買ノ儀ニ付同十年一月十六日

第一條 爰ニ地所賣買約束ヲ爲スニ追テ地券書替相渡スヘキ云々記載戸長貞印ノ圖章ヲ授受シ未タ地券書換ノ手續
 チナサハル内賣主他ノ負債ノ爲メ身代限ノ成分チ受クル時ハ明治八年第百六號公布ニ依リ買主ニ其地所チ有ノ債

備谷裁判所

無之ニ付其地所賣買ノ上債主一同金高ニ應シ分配金チ受取リ若シ買得スル所ノ金額ニ不足相立時ハ該印書ニ加印
 スル保證人ヘモ辨償申付可然哉將タ地所賣買チ保證スルモノニ付右金返還ノ義務チ負担ヒサル者ニ可有之乎
 第二條 前條ノ圖章ヲ所持スルモノ身代限揭示滿期後ニ至リ其地代金取戻チ訴出ル時ハ出戻期限第二條ニ依リ處分
 致シ可然哉
 右至急御指揮有之度此段奉伺候也

丙號 太政官へ上申案

別紙三重縣及熊谷裁判所同ノ趣チ案スルニ設買ノ契約既ニ成リタルモノナレハ買主ハ其賣主ニ對シ地券ノ書換チ受
 取ズルノ權アルトハ固ヨリ不俟言ナリ八年第百六號ノ公布チ照閱スルニ未段ノ結局規則ノ違地券書換申請中ト明
 示セラレタルモノナレハ勿論賣買約束ノ成リタル上ハ其地券書換ノ請求チ爲シ得ヘキトハ疑ナ容ルル可カラサルナ
 リ因テ左ノ通指令イタシ度存候得共萬念一應相伺候也

明治十年三月八日

司法卿大木喬任

丁號

指令

三重縣裁判所

第一條 未タ地券ノ書換ナク共賣主ニ對シ既ニ買得ノ証アルモノニ付固ヨリ受理スヘキ事

第二條 伺之通
 但書既ニ買得ルノ證アルチ以テ地券書換又ハ地取所受ノ訴チナス者ハ受理スヘン固ヨリ行政裁判ノ限ニ屬之事

第三條 伺之通
 但書其實賣買ナレハ年季ノ定メ之アルモ賣買ノ圖章可致事

第四條 其實際ニ付成分可致事

第五類 地所建物並道路橋樑

戊戌號
指令

熊谷裁判所

同ノ邊地所賣買ノ約束既ニ成リ且長庚印ノ證書ヲ授受スル上ハ買得ノ證充テ著明ナルモノニ付買主身代限額賣ノ部
中ニ入ルノ得ス尤モ詐欺不其ノ所爲ニ出タル賣買ハ此限ニ非ラズ
但本條ノ題ノ二付第一條未段第二條ノ差支ハ無之者ニ候事

○官有地拂下及貸下方ヲ定ム

明治十八年六月二十五日
内務省事務甲第貳拾壹號付録ニ據

官有地拂下并ニ貸下之儀左ノ通相定メ明治九年(三月)内務省乙第三十四號達ハ廢止ス
此旨相達候事

- 一 凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニ拂下タルモノ其代金未完納中ハ抵當トシテ其地券
ヲ官廳ヘ差出サシムヘシ若シ之ヲ差出サ、ルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス
- 一 凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下ヲ取消スヘシ此場合ニ於
テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之カ爲メ金利賠償等
ヲ下付スルヲナカルヘシ
- 一 凡ソ官有地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ
ハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルヲナカルヘシ
- 一 凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルヲ得ル
ト雖モ他人ヘ書入又ハ質入ヲ爲スヲ得サル者トス但轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テ
ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ

○地所建物等書入質證書調理ノ際實印無之節公證

取扱方

明治九年八月十八日司法省達第六十三號大
熊谷裁判所事務甲第貳拾壹號付録ニ據

地所建屋書入質調印ノ儀ニ付別紙ノ通御達有之候條爲心得此旨相達候事

司法省

別紙内務省同地所建屋書入質調印ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

太政大臣三條實美

明治九年八月三日

地所建屋書入質ノ儀ニ付伺

地所建屋書入質ノ儀ニ付別紙ノ通山梨縣ヨリ伺出候ニ付勘辨致シ候處事實不得止場合ニ於テハ書入又ハ質入主ノ
親屬アルモノハ其親族ニテ代印親屬ナキ者ハ請人二人以上通印之上本人於テ其事由テ證書面ヘ手摺致置退テ
質印ノ證書ト引換フルト否ラサルトハ質取主ノ意ニ任セ置候共後日其證書ノ致ハ消滅可致箱ニ有之同敷ニ付其段可
及指令ト存候得共右ノ地所建屋書等ノ證書ノミニ無之公私一般關係ノ儀ニ付一應相伺候條至急御指撥ヲ仰候也
内務卿大久保利通代理

明治九年七月七日

内務少輔林 友幸

太政大臣三條實美殿

朱書

伺之趣本人區戸長役場ニ至リ調印ナシト雖モ自分承知ノ旨ヲ口頭流シメ區戸長其趣ヲ簡略ニ奥書中ニ書加ヘシムヘ
シ然レ上ハ其證書ハ他日書替ヲ要セス質印アル證書ト同一ノ効アリト看做スヘキ事

明治九年八月三日

地所建屋書入質之儀ニ付伺

地所建屋書入質證書調理ノ際ニ當リ其地主及ヒ建屋主質印違向不見當又ハ紛失代リ彫刻中ニテ右證書至急ト候ハ

第五類 地所建物並道路橋梁

ル節ハ其書入買取主承諾ノ上書入買主ノ父兄又ハ請人証人ニ代印爲致後日自己ノ實印蓋成ノ上証書ニ改換歟又ハ書入買取主承諾ノ上ハ其書據置候共不苦候哉右ハ即令何出ノ向有之ニ付至爲御指揮有之度相伺候也
明治九年四月廿日
山梨縣合津村役所

内務卿大久保利通殿

(附錄)

明治九年十一月廿五日司法省通第八十貳號 大審院上等裁判所 地方裁判所へ達

本年達第六拾三號ヲ以內務省何地所建屋書入買調印ノ儀ニ付正院御指令ノ趣相達置候處右御指令へ左之通但書加相達成候旨尙又御達有之候條爲心得此旨相達候事但シ實印ナキ旨ノ保證人二員以上連印ヲ要ス

第二十一章 社寺上地中内實買賣質地トナセシ者處
分方 明治九年五月十二日 第六拾六號布告

明治三年(十二月)社寺領現境内ヲ除クノ外上地ノ備布告候處朱黑印除地上地ノ中内實ハ實買又ハ實地ト相成候者モ有之哉ノ趣不都合ノ至ニ候得共此布告以前ニ係ルモノハ特別ノ詮議ヲ以其罪ヲ問ハス更ニ民有地トナシテ差支無之分ハ實買地ハ買得者へ洗買地ハ買取主へ其儘無代價ニテ下渡シ其民有地トナシテ差支アルモノ并實地年限中ノ分ハ上地セシムヘク若シ此布告以後ニ係ルモノハ律ニ照シ處分スヘク候條此旨布告候事
九年第八十三號布告ヲ以テ(下渡シ)ノ下十四字ヲ加ヘ(分)ノ下(贈還シ)ノ三字ヲ削ル

第二十二章 私費ヲ以テ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架設シ運輸ノ便ヲ興シタル者無税金
明治四年十二月四日布告

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物産蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上工費ノ多寡ニ應シ年限ヲ定メ税金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其他ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費税金ノ制限等篤ト取調大藏省へ可申出事
但本文ノ趣管内無洩可相達事

○橋梁渡船賃額揭示及受取方 明治八年七月二日 内務省甲第拾六號布達

諸道橋梁渡船賃ノ儀各種ノ賃額川場ハ勿論賃錢受取所へモ明瞭揭示可致且賃錢受取方ニ付テハ時間ヲ短シ通行人ノ迷惑不相成候様厚ク注意可爲致此旨布達候事

○川々渡船ノ儀一人タリトモ速ニ出船セシム

明治六年五月七日 大藏省第七拾五號布達

諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ請取越立候儀ニ付譬一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニテヨヒ候迄行旅ヲ阻礙候弊習有之趣相聞以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候様川場へ揭示可致置候事

○道路橋梁渡津等ニ於テ警部巡查區内巡行ノ節賃錢請求ヲ禁ス 明治九年三月五日 内務省甲第四號布達

道路橋梁渡津等ニテ公私ノ別無ク賃錢請求之儀許可致置候場所モ有之候處自今警部并

第五類 地所建物並道路橋梁

巡查持區內巡視之節制服用者ノ若ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

○民有架設ノ橋梁渡津又ハ新道軍隊行進ノ節賃錢請求ヲ禁ス 明治十三年四月九日 內務省乙第十七號府縣へ達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ハ無漏可相達候此旨相達候事 同年乙第三十三號府縣へ達

○民有架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節賃錢請求ヲ禁ス 明治十四年十二月二十日 內務省乙第六拾貳號府縣へ達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿之道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用之節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ハ無洩可相達候此旨相達候事

○民有開設ノ橋梁渡津及道路等電信配達人賃錢請求ヲ禁ス 明治十五年十二月九日 內務省乙第六拾六號府縣へ達

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達ル限リ賃錢請求不相成候條免許人共ハ遺漏無ク達シ置ク可シ此旨相達候事

○民有架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫印鑑所持ノ者賃錢請求方ヲ禁ス 明治十六年六月十九日 內務省乙第三拾號府縣へ達

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配ル限リ賃錢請求不相成候旨客年三月當省乙第拾八號ヲ以テ相

達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置候條右所持ノ者ハ制服ノ若否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候下可心得此旨免許人共ハ遺漏ナク達シ置ク可シ此旨相達候事

第一何國
何地郵便局脚夫
何之職

明治十六年
何何
何何
郵便局

○民有橋梁渡津及道路等制服着用ノ電報配達人印鑑携帶ノ節ハ賃錢請求スルヲ得ス 二十一年十二月廿二日 內務省訓令第二十七號北海道府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服着用シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相達候處左ノ離形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ若否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ハ示達ス可シ

第一何國
何地郵便電信(電信)局集配人
何ノ職

明治年月日
何何
何何
電信局

伺指令

○渡津橋梁賃錢ノ件群馬縣ヨリ內務省へ伺十九年三月五日十九年三月十二日受悉

明治十八年八月八日滋賀縣ヨリ同縣下ニ在ル渡津橋梁ニ於テハ府縣自他ノ差別ナク警部巡查ハ制服着用ノ節及看守押丁ハ囚人服装ノ節ニ限リ其囚人一同貸錢請求停止致シ度トノ伺ニ同十九年二月十三日伺ノ邊ト御指令相成候儀今般警保局ヨリ通牒有之候ニ付テハ本縣ニ於テモ自今同様取計申度就テハ囚人貸錢ノ儀モ固ヨリ看守押丁ノ押送スル時ノミニ限ラス巡查ノ護送スル囚人モ等シク貸錢請求セシメサル致度
 指令 十九年三月十日 書面伺ノ邊

第二十三章

國道等級ヲ廢シ幅員ヲ定ム 十八年一月六日 第一號布達

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕坂敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狹少ナラサルモノトス但國道線路ハ內務卿ヨリ告示スヘシ
 右布達候事

○道路等級ヲ更定ス

九年六月八日 第六十號府縣令

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内限詳細取調內務省ヘ可伺出此旨相達候事

但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ
 國道 (等級ハ前令ニ依リ除ク)

縣道

- 一等 各縣ヲ接続シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スルモノ
- 二等 各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ
- 三等 著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ開港等ニ達スルモノ
- 里道
 - 一等 彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ
 - 二等 用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ

三等 神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クルモノ

右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從フ國道並縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地名殊ナルモノナレハ今邊ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖凡豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其證據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定テ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ

國道 (幅員ハ前令ニ依リ除ク)

縣道 道幅四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要ス

橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フテ至當トス然レモ其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

○國道表ヲ定ム

十八年二月二十四日 內務省告示第六號

本年(一月)太政官第壹號ヲ以テ國道之儀布達相成候ニ付該線路別表之通相定候條此旨告示候事

別表

國道表

凡例

第五類 地所建物並道路橋梁

一路線中前號路線ト相通用スヘキ者(例ヘハ第一號東京ヨリ大坂港 中其神奈川驛迄ハ第一號
東京ヨリ大坂港
 號ニ達スル路線 同線ナル如キハ)之ヲ略シ其番號ヲ記ス
 一線路甲ヨリ乙ニ達スル中間ニ位スル府縣廳及鎮臺等(例ヘハ第一號東京ヨリ大坂港 中靜
 岡驛ハ靜岡縣廳大坂ハ大坂府廳及大坂鎮臺所在地ノ如キ者)ハ其包括シタル路線ニ
 讓リ別ニ之ヲ標出セス
 各府各鎮臺ヲ抱聯スルモノモ之ニ準ス (國道表略之)

第二十四章 國道新設又ハ變換ニ係ル築造保存方

法取調上申方

十九年八月五日
 內務省訓令十三號北海道府縣(沖繩縣ヲ除ク)

國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自今左ニ掲クル所ノ標準ニ從ヒ其築造保存方法等
 取調差出ス可シ但在來ノ道路ト雖モ可成此標準ニ據リ漸次改良ヲ加フル儀ト心得入シ

第一章 築造計畫

- 第一條 國道縣道ヲ新築若クハ改築スルハ左ノ圖面及書類ヲ調製ス可シ
 - 一 實測平面圖縮尺六千分一
 - 二 實測縱斷圖面縮尺長六千分一
 同縮尺二百分一
 - 三 實測橫斷面圖縮尺適宜
 - 四 橋梁隧道暗渠等ノ圖縮尺適宜
 - 五 堀割及盛土土坪計算書
 - 六 一位代價表

七 工費計算書

八 計畫說明書

- 第二條 實測平面圖ニハ國界、郡界、村界、地名、字、宿驛、市街、村落、人家、山脈、丘陵、
 水流、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地、橋梁、堤塘地等其外形ヲ顯ハスニ必要ナルモノ
 ハ之ヲ詳記スヘシ又高六尺毎ニ計畫路線近傍地ノ高低線ヲ記入シ計畫路線ハ赤線ヲ
 以テ記シ其丁抗并直線ノ長及方向、曲線ノ長及半徑等ヲ詳記スヘシ
- 第三條 實測縱斷面圖ニハ計畫路線中心地面ノ高低、計畫路線ノ高低、計畫路線ノ丁抗
 及水平距離、各高低線間ノ水平距離、計畫路線ノ勾配、堀割及盛土部分ノ高低及長、水
 平路線及阪路ノ水平距離、隧道及橋梁ノ長及高、其他國郡、村界、市街、村落、地名、字、
 水流、溝渠等都テ參照ニ必要ナルモノヲ詳記スヘシ
- 第四條 實測橫斷面圖ハ計畫路線長三丁毎ニ之ヲ製シ其他高低甚シキ箇所ハ其橫斷面
 圖ヲ製シ土坪計算ノ用ニ供ス可シ
- 第五條 橋梁ハ平面圖(橋梁前後河川ノ景狀ヲ記スヘシ)側面圖其他構造ヲ顯ハスニ必
 要ナル圖面及橋梁ヲ架設スヘキ箇所ノ河川橫斷面圖ヲ調製スヘシ
- 第六條 隧道暗渠溝渠等ハ其構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ
- 第七條 堀割及盛土土坪計算書ニハ橫斷面ノ番號、幅、高、平積、距離、立積ヲ記シ之ヲ
 表ニ製シ其計算法ヲ明瞭ニスヘシ
- 第八條 一位代價表ハ堀割、盛土、溝渠、石垣等其他各種共各其一位トナスヘキモノ(假

令ハ掘削盛土ハ立積一坪ヲ一位トナシ野面石垣ハ平積一坪ヲ一位トナスノ類)ヲ選
 ミ其一位ニ付テ必要ナル築品人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ一位ノ代價ヲ記スヘシ
 第九條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ其一位ヲ以テ算出シタル總數ニ一位ノ
 代價ヲ乘シ其計ヲ記スヘシ但橋梁、隧道、暗渠、其他諸雜費ハ別ニ部分ケテ爲シテ其
 工費ノ計算内譯ヲ記スヘシ

第十條 計畫説明書ニハ新道設開若クハ路線變更ノ必要アル理由、路線撰定ニ付テ地
 形、氣候、土質等ヲ酌量シタル理由并築造費及保存費ノ多寡運搬ノ便否ヲ比較シタル
 説明其他橋梁隧道等ニ付テ其構造ノ説明及強力ノ計算并其構造法選定ノ理由等ヲ詳
 記シ及橋梁、溝渠、暗渠等ノ計算ニハ水流最高水ノ面積及流量ヲ記スヘシ

第二章 路面ノ築造

第十一條 道路ノ表面ハ割石ヲ以テ築造スヘシ其馬車ノ通行頻繁ナラス搭載荷物重量
 ナラサル者ハ砂利ヲ以テ築造スルヲ得其築造法ハ概テ割石道路ト同一タル可シ
 第十二條 割石ノ厚ハ道路ノ中央ニ於テ五寸以上トナシ夫ヨリ兩端ニ向ヒ漸次減却三
 寸以上ト爲スヘシ

第十三條 横斷路面ノ形狀ハ楕圓形トス其勾配ハ平三十分一トスヘシ

第十四條 下水ノ深サト其底數ノ幅トハ各一尺五寸ヲ下ルヘカラス

第十五條 車道中央ノ高サハ下水ノ最高水面ヨリ一尺以上タルヘシ

第十六條 割石敷設ノ方法ハ先ツローラル或ハ蝸木ニテ地盤ヲ堅ムルノ後割石一層ヲ

敷キ其上ニ割石ト能ク密着スヘキ石屑又ハ砂利ヲ散布シ之ヲ堅メ然ル後再ヒ割石ヲ
 敷キ前同様ノ石屑若クハ砂利ヲ其上ニ散布シテ更ラニローラル或ハ蝸木ニテ堅メ法
 式ノ如ク仕上ルモノトス

第十七條 割石ハ能ク寒ニ堪ヘ且硬キモノニシテ混合物ナク多角ナルモノヲ採用スヘ
 シ

第十八條 割石ノ寸法ハ凡ソ一寸五分ヨリ大ナラサルヘク八分ヨリ小ナラサルヘシ

第十九條 散布スヘキ石屑若クハ砂利ノ割合ハ割石立積ノ三十分一ヨリ多カラサルヘ
 シ

第二十條 割石敷設ノ後ハ密着固結ニ至ル迄間斷ナク修治ヲ加フヘシ

第三章 勾配及屈曲

第二十一條 道路ノ勾配ハ成ル可ク左ノ割合ヲ超ヘサラシムヘシ

第一項 國道 勾配三十分一 卽長延登間ニ付二寸

第二項 縣道 勾配二十五分一 卽長延登間ニ付二寸四分

第二十二條 曲線ノ半徑ハ已ムヲ得スシテ減縮スル場合ト雖モ路線中心ノ半徑六間ヲ
 下ル可ラス

第二十三條 曲線ノ半徑拾間以下ノ者ト阪路ノ勾配四十分一以上ノ者トテ同所ニ兩存
 セシムヘカラス

第二十四條 曲線ノ半徑二十間以下ノ者ヲ背向直接セシメス必ス兩曲線ノ間ニ一ノ直

線ヲ置クヘシ

第四章 掘削及盛土

第二十五條 掘削若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草柵工若クハ野面石垣等ヲ設ケテ之カ破損豫防ヲ爲スヘシ

第二十六條 掘削斜面ノ勾配ハ其地質ニ從テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 盛土傾斜面ノ勾配ハ一割二分ヨリ下ルヘカラス

第二十八條 掘削及盛土ノ傾斜面ニ勾配ノ減少ヲ要スルカ若クハ其地質善良ナラサルハ基礎石垣ヲ築造スヘシ

第五章 橋梁暗渠及隧道

第二十九條 橋梁ノ構造ハ橋面平積登坪ニ付四百貫目ノ重量ヲ橋上滿面ニ積載シ得ルモノトナスヘシ

第三十條 長五間以下ノ橋梁ハ其幅ヲ(欄干ノ中心ヨリ中心ニ至ル)道路ノ幅員ト同一ニスヘシ長五間以ノ橋梁上ハ其幅ヲ(左右欄干内法)三間以上トナスヘシ

第三十一條 道路ヲ横斷スル小流ニシテ架橋ヲ要セサル者ハ必ス暗渠ヲ設テ之ヲ通スヘシ

第三十二條 隧道ノ幅員ハ濕拔ヲ除キ幅三間以上タル可シ

第三十三條

隧道内ノ路線ハ必ス適宜ノ勾配ヲ與ヘ下水ノ流通ヲ充分ナラシムヘシ

第三十四條

隧道内ノ高サハ路面ヨリ十五尺以上タルヘシ

第三十五條

隧道暗黒ニシテ危險ナル者ハ必ス返照燈ヲ點スヘシ

第六章 並木

第三十六條 並木ハ地方ノ形狀ニ依リ主トシテ雪ヲ防キ日光ヲ覆ヒ若クハ風ヲ防クノ目的ヲ以テ植付クヘシ其種類ハ成長速カニシテ且行人若クハ道路ニ障害ナキ者ヲ撰用スヘシ

第三十七條 並木線ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ

第三十八條 並木ハ下水ノ上線ヨリ二尺以上ノ距離ニ於テ植付ヘシ

第七章 保存及修繕

第三十九條 道路ハ平生注意シテ破損ヲ豫防シ若シ小破アルハ速ニ修繕ヲ加ヘ大破ニ至ラサシムヘシ

第四十條 割石道路ノ破損ハ路面ノ泥濘及ヒ粉細ノ土砂ヨリ生スルカ故ニ道路ヲ保存スルニハ主トシテ之ヲ掃除スヘシ

第四十一條 路面ニ少シク凹所ヲ生シタルハ直チニ其凹所アル部分ヲ少シク掘起シ然ル後割石ト石屑若クハ軟質ナル砂利トヲ適意ニ散布シローラル或ハ蝸木ヲ以テ之ヲ堅メ且其修繕ノ部分ト修繕ヲ加ヘサル部分ト結合シ易キヲ務ムヘシ

第四十二條 前條ノ修繕ハ一方ヨリ順次ニ着手セスシテ必ス凹所ノ最モ甚シキ部分ヨリ先ニスヘシ

第四十三條 路面ノ一方ニ修繕ヲ加フルハ馬車ハ好テ他ノ一方ヲ通行スヘキカ故ニ

第五類 地所建物並道路橋梁

之レカ爲メ其一方ノ破損ヲ來スノ患アリ又一時ニ路面ノ全幅ヲ修繕スルハ通行ノ馬車多クハ同轍ニ由ルヘキカ故ニ其修繕シタル部分ノ未タ固結セサル前ニ於テ破損ヲ生スルノ患アリ故ニ一時ニ廣キ面積ノ修繕ニ着手スヘカラス且馬車ノ通行偏倚セサル様修繕スヘキ箇所ヲ區分スヘシ

第四十四條 修繕ハ路面ノ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テ施工シ若シ降雨ナキトキハ適宜水ヲ注テ施行スヘシ

第四十五條 保存及修繕ヲシテ完全ナラシムルニハ第一管守人ヲ置キ平素技術者ノ指揮ヲ受ケ之レカ保存ニ從事セシム可シ第二保存及修繕ニ使用スヘキ器具築品人夫等ヲ常ニ各所ニ配置シ使用ニ便ナラシム可シ

第四十六條 妙利道路修繕ノ方法ハ概テ割石道路ト異ナルヲナシ但其保存ニハ一層注意ヲ加フヘシ

第六類 警察及取締

第二十五章 皇宮警察署官制

明治十九年五月一日 宮内省第五號

主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補消防警導消防手ヲ廢シ同寮中更ニ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

- 皇宮警察長 一人 奏任 皇宮警察守門ノ事ヲ掌ル
- 皇宮警察次長 一人 奏任 皇宮警部 判任
- 皇宮警部補 判任 皇宮警手 等外
- 皇宮警察長 皇宮警察次長官等俸給
- 皇宮警察長 奏任二等 上貳千圓 中千八百圓 下千六百圓
- 皇宮警察次長 奏任三等 上千五百圓 中千四百圓 下千三百圓
- 皇宮警察次長 奏任四等 上千二百圓 中千百圓 下千圓
- 皇宮警察次長 奏任五等 上九百圓 中八百圓 下七百圓

○皇宮警察官服務規程

明治十九年五月六日 宮内省第六號

- 第一條 皇宮警察官ハ皇居離宮禁苑ノ巡邏查察詔御門ノ開閉通行人及出入物品ノ檢査惡疫流行病ノ豫防火災及消防ノ事ヲ掌ル
- 第二條 警察長ハ主殿頭ノ命ヲ承ケ前條ノ主務ヲ總管シ警部以下ヲ指揮監督ス警察次長ハ警察長ノ職務ヲ佐ケ其事故アルハ之ヲ代理ス
- 第三條 警部以下甲乙ノ二部ニ分チ非番番番ヲ設ケテ隔日ニ出勤シ輪次第一條ニ掲ル職務ニ服セシム

第六類 警察及取締

交代時限ハ時々警察長ノ定ムル所ニ依ル
 第四條 非常員ハ自宅外ニ出ツルヲ禁ス
 第五條 非常員ハ自宅外ニ出ツルヲ禁ス
 第六條 警察長ノ認可ヲ得テ講習ニ從事スルハ此限ニアラス
 第七條 警部ハ各部二人ヲ以テ定員トシ警察長ノ命ヲ承ケ各其部内半数ノ長トナリテ
 警部補以下ヲ指揮監督シ第一條ニ掲クル職務及署中ノ庶務ヲ整理ス
 第八條 警部補ハ警部ノ命ヲ承ケ警手ヲ指揮監督シ諸門ノ管輪ヲ主管シ署内ノ庶務ヲ
 分掌シ交番所ヲ巡視シテ警手ノ規律及勸怠ヲ監察ス
 第九條 警手ハ各上官ノ命ヲ承ケ第一條ニ掲クル職務ニ服ス
 第十條 皇宮警察官第一條ニ掲クル職務ヲ施行スルノ際事例規ナキモノハ警部以下之
 ナ警察長ニ上申シ警察長ハ之ヲ主殿頭ニ上申シ各其指揮ヲ得テ之ヲ施行スヘシ
 第十一條 皇宮警察官出勤ノ節ハ制服ヲ着シ制帽ヲ戴キ及制劍ヲ帶フヘシ
 第十二條 警部補ハ交代時限ノ際警手ノ姓名ヲ點呼シテ其服務及缺勤ヲ查覈シ及其職務
 上必要ノ携帶品ヲ點檢シ交番所ヘ派出ヲ命スヘシ
 第十三條 各部ニ日記簿ヲ備ヘテ毎日執務ノ事項ヲ登錄シ毎朝警察長之ヲ檢閲シテ其
 緊要ヲ抜抄シ主殿頭ニ報告スヘシ
 第十四條 前條服務規程ニ關スル細則ハ主殿頭ノ認可ヲ經テ警察長之ヲ定ム

○皇宮警察官服制及提燈旗章

明治十九年六月十六日
 宮内省附九號達

正		帽				皇宮警察官服制
上	略	正	略	正	略	
製式	地質	前章	略	前章	略	皇宮警察官服制
襟部左右各二箇ヲ縫シ 胸鈕七箇ヲ縫シ 腰圍ニ三條ノ幅ニ 寸ノ金線ヲ施ス	黒又ハ紺羅紗	正帽同シ 但金線ヲ黒線ト	同	同	同	皇宮警察長
同	同	同	同	同	同	皇宮警察次長
同	同	同	同	同	同	皇宮警部
同	同	同	同	同	同	皇宮警部補
同	同	同	同	同	同	皇宮警手

第六類 警察及取締

改倉買務ノ警以破十(宮)一年十
正二小地夏手テテ四(第)月十九

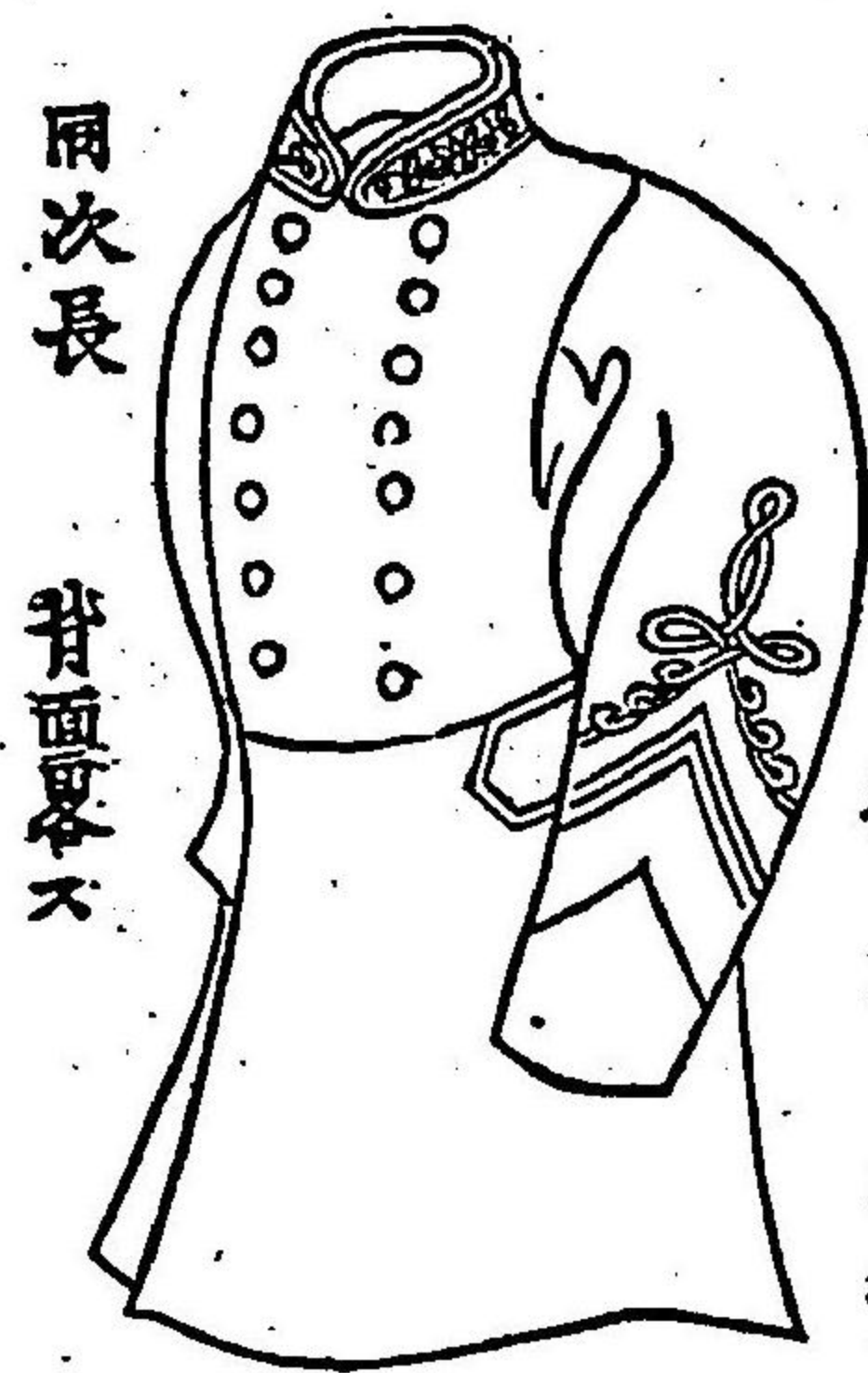
服 正		服 略		服 略		服			
劍		袴 夏		袴 冬		衣 上 服 夏			
鉤帶	飾具	側章	製式	地質	側章	製式	地質	袖章	袖章
表黒革適宜前章金色 七七桐ヲ付ス餘ハ圓 ノ如シ	柄白銀精磨鍍金物金 色胸貫ノ緒繞金餘ハ 圓ノ如シ	略略服ニ同シ	略略服ニ同シ	黒又ハ紺絨地質適宜	正服ニ同シ 但金線ヲ黒線トス	普通ノ製	地質 黒又ハ紺絨適宜	前	前
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	正服ニ同シ 但金線ヲ黒線トス	同	同	同	正服ニ同シ 但金線ヲ黒線トス
但前章五三ノ桐ト ス	但柄黒胸貫ノ緒繞 金トス	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
同	同	同	同	同	○	○	○	正服ニ同シ	○
黒革前章眞鍮五三 桐ヲ付ス餘ハ圓ノ 如シ	柄黒銀精磨鍍金物 其餘胸貫茶餘ハ圓 ノ如シ	略略服ニ同シ	略略服ニ同シ	上等白晒小倉	○	○	○	正服ニ同シ 但裏ハ胸貫ニキ 袖裏ヲ付ス	黒又ハ紺ヘル地 但裏黒毛織子

第六類 警察及取締

五

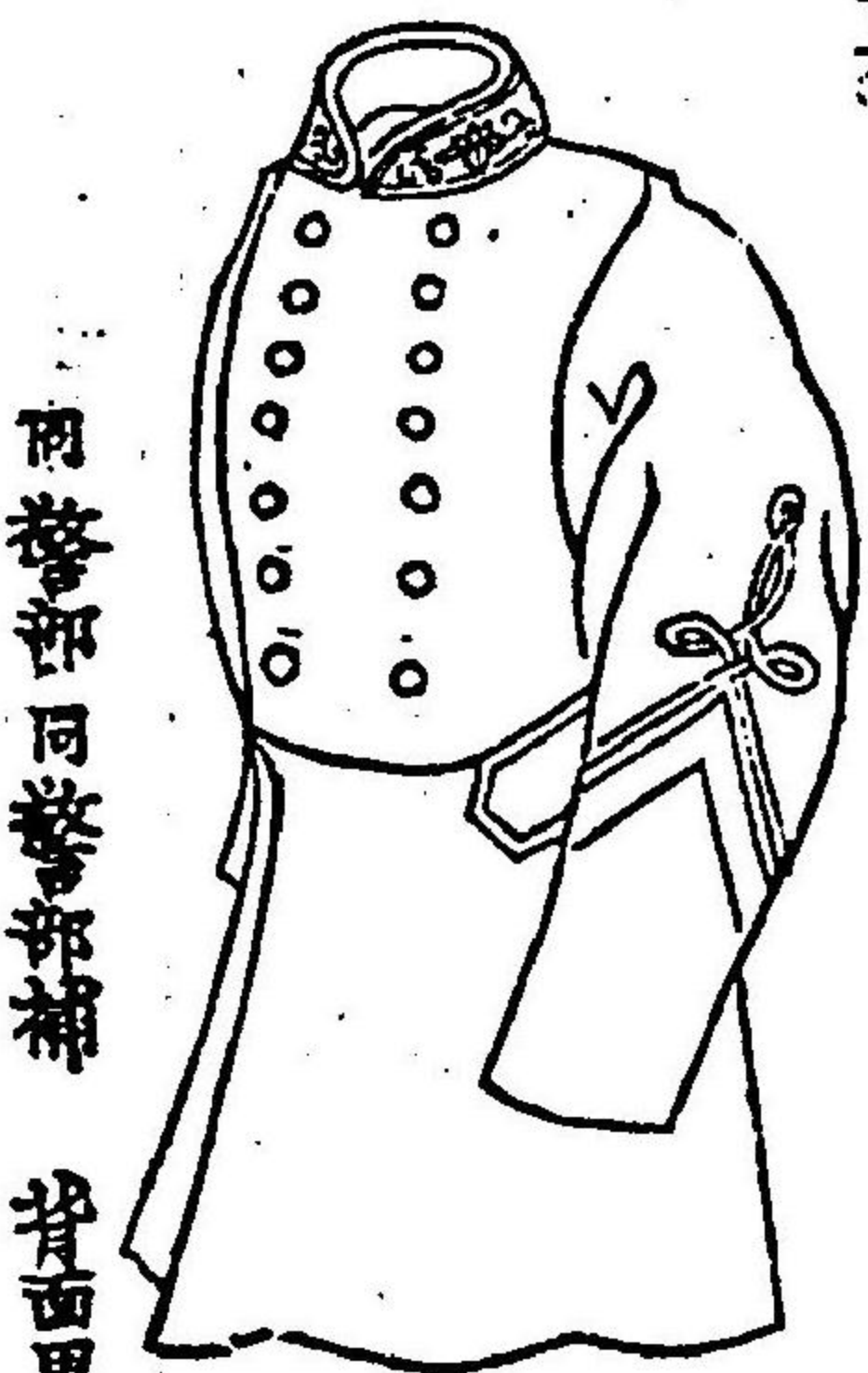
略 冬 上 服		服 正		服	
製式		袴		衣	
製式	地質	側章	製式	鈕釦	袖章
長シヤケツト製丈ケ 手ヲ型レテテ首ニ遠 スルヲ以テテ度トス 部ニ毛織ヲ以テテ五箇 ニ行ニ揚ケ巻結ノ飾 チ施行シ全體ノ周圍ハ 一寸後面ハ五分ノ毛 織ヲ左右ニ行ニ縫シ 餘ハ圓ノ如シ	黒又ハ紺絨適宜	幅七分ノ金線二條ヲ 付シ内ニ幅三分ノ白 線一條ヲ挟ム 但一分ツノス	普通ノ製	金色鉄磨キ中石目地 形徑七分五厘三號形 徑三分五厘	幅一寸ノ金線一條幅 二分金線二條ヲ付ス 他ハ圓ノ如シ
同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上
同	全	同	同	同	同
但胸部ノ飾ヲ五箇 ノ行トス餘ハ圓 ノ如シ	上	幅七分ノ金線一條ヲ 付ス	同	但五三桐ヲ付一號 形徑六分五厘トス	幅五分及二分ノ金線 二條ヲ付ス圓ノ如シ
同	上	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上
○	○	幅二分ノ白羅紗一 條ヲ付ス	同	金色鉄中石目地ニ 五三桐ヲ付ス一號 形徑三分五厘三號 形徑三分五厘	幅二分ノ銀線一條 付ス圓ノ如シ

四



同次長

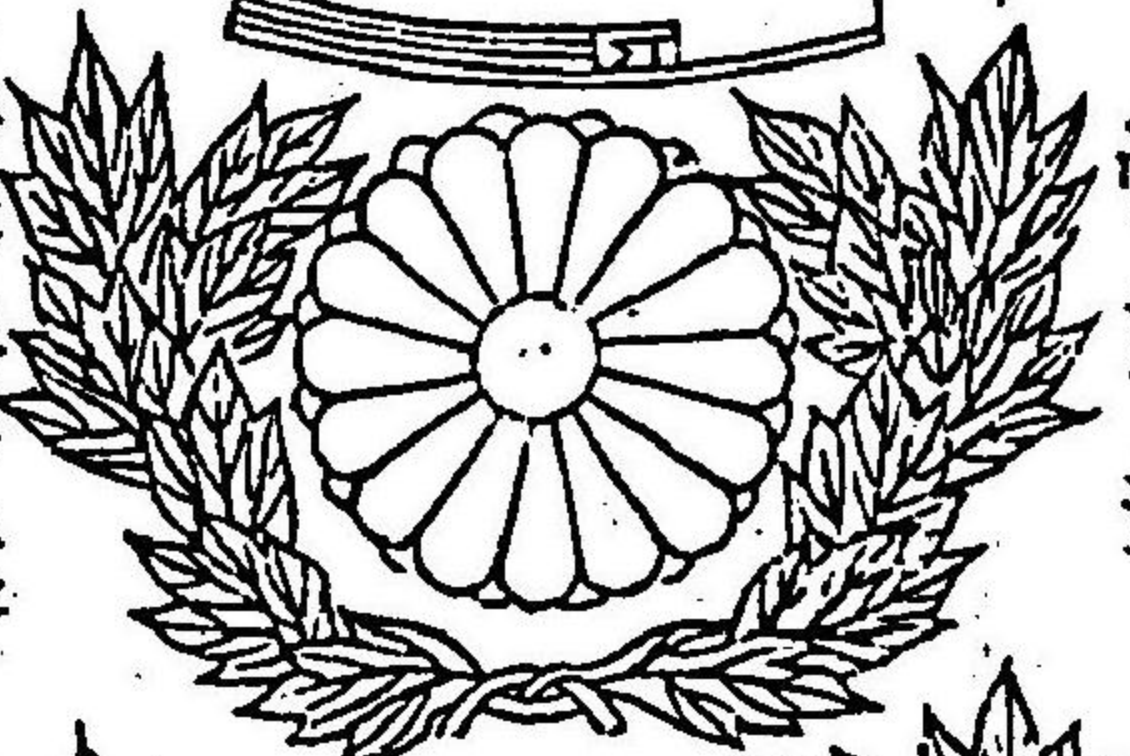
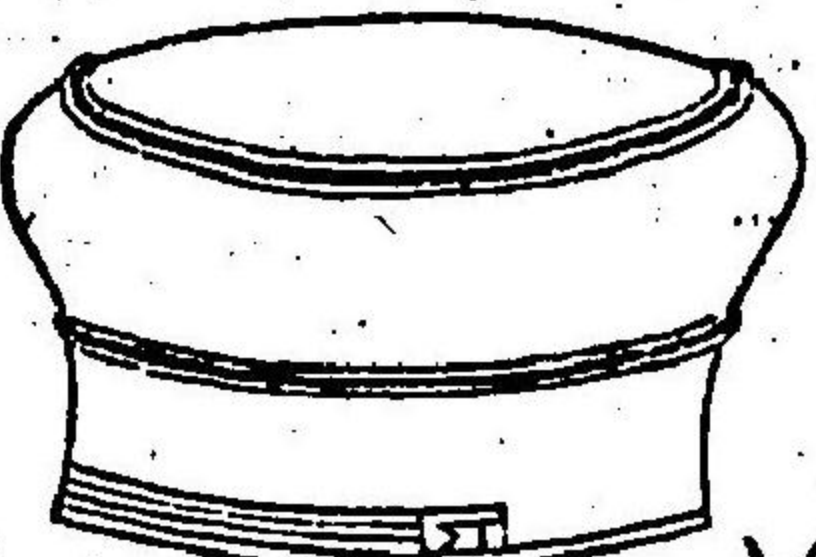
背面佩刀



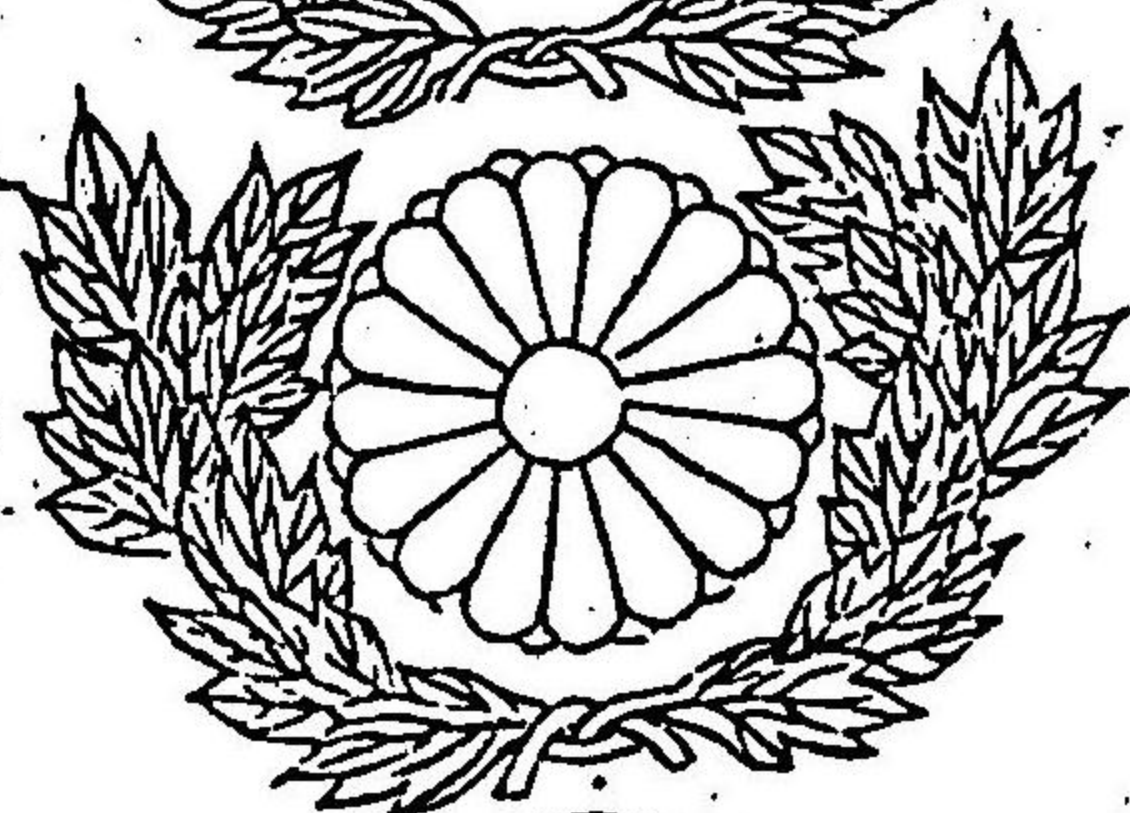
同警部同警部補

背面佩刀

同 上 後 面



帽前章

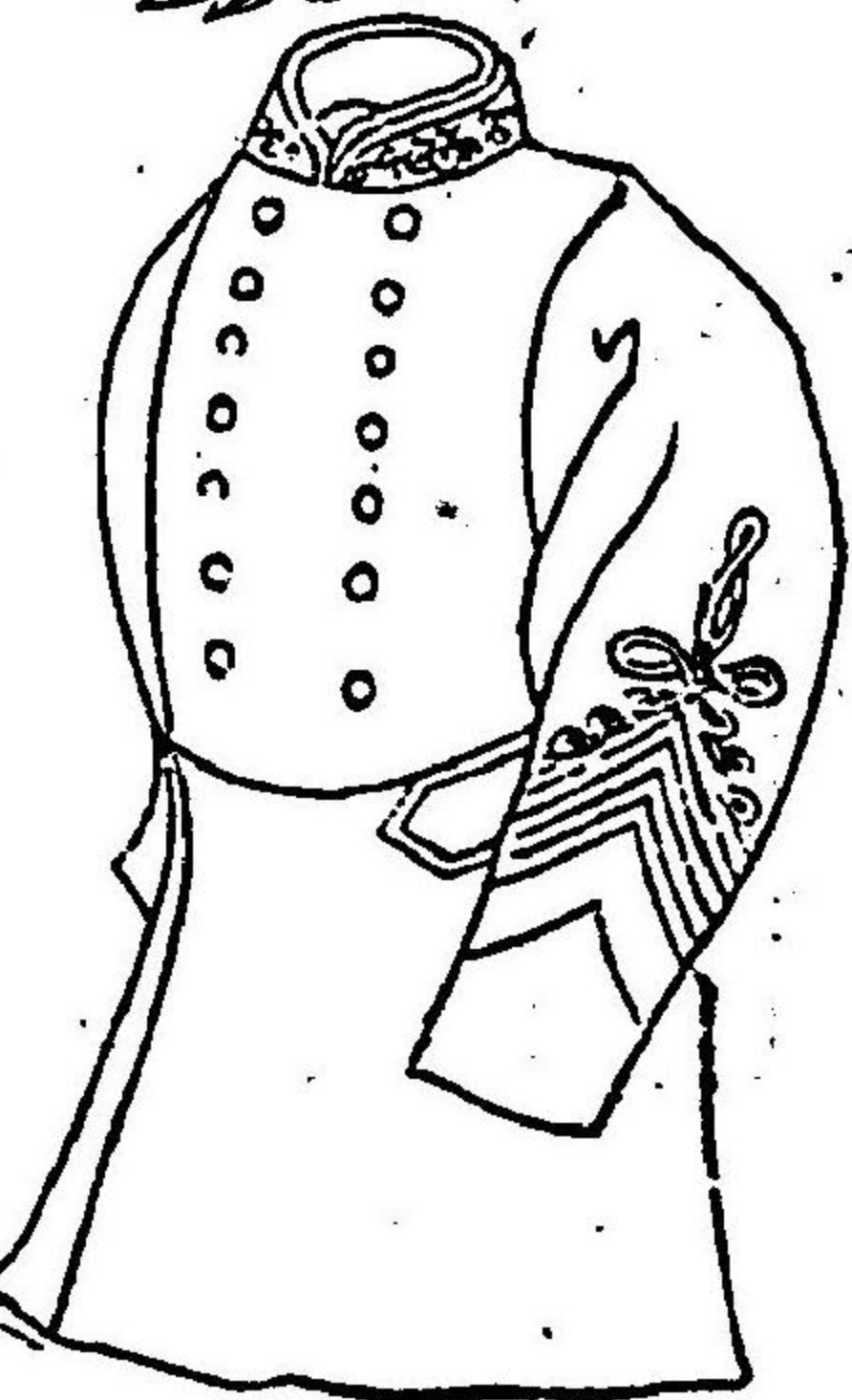


皇宮警察同次長

同警部同警部補

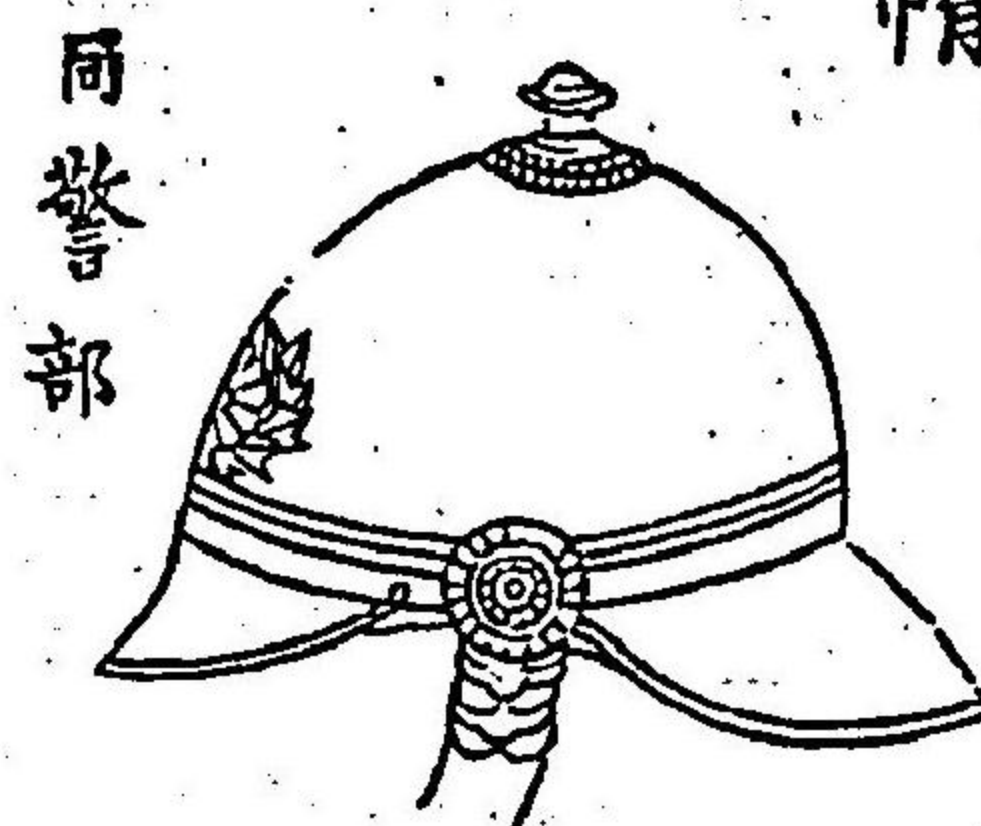
皇宮警察長

背面佩刀

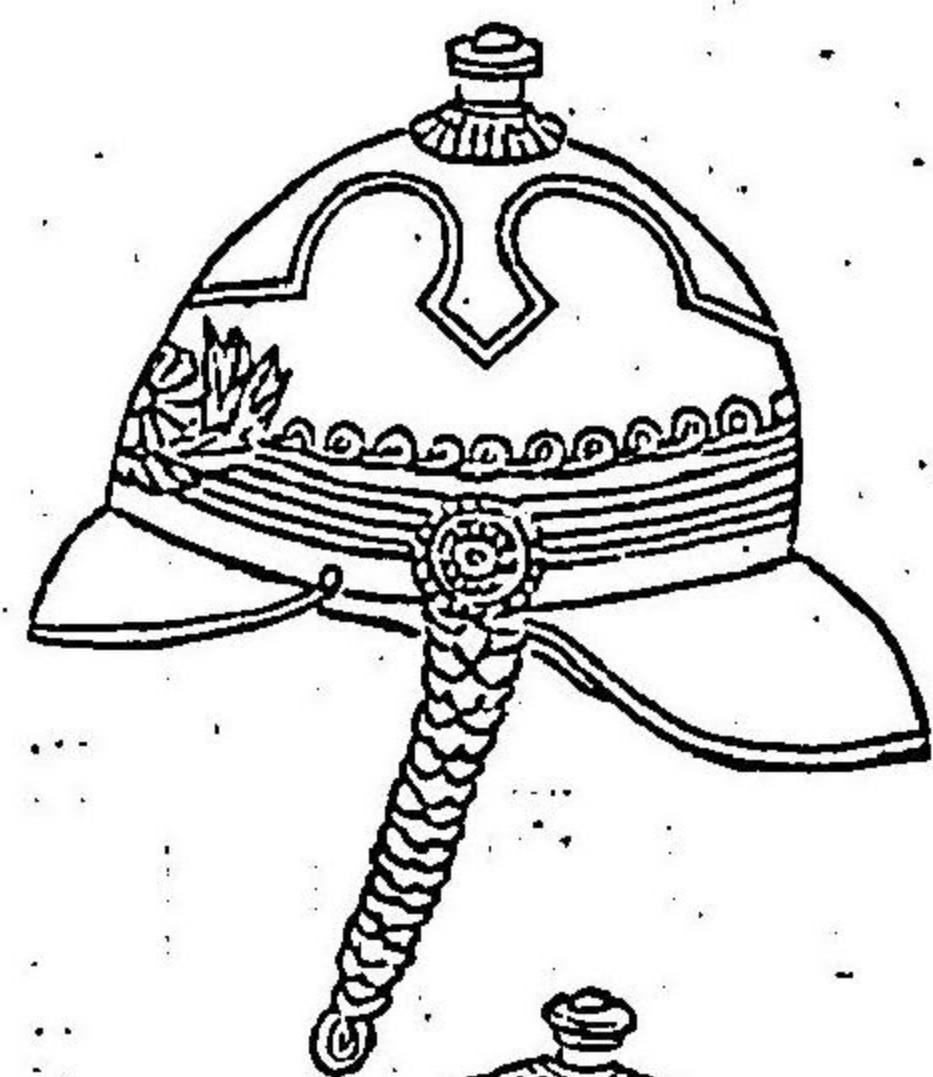


正服上衣

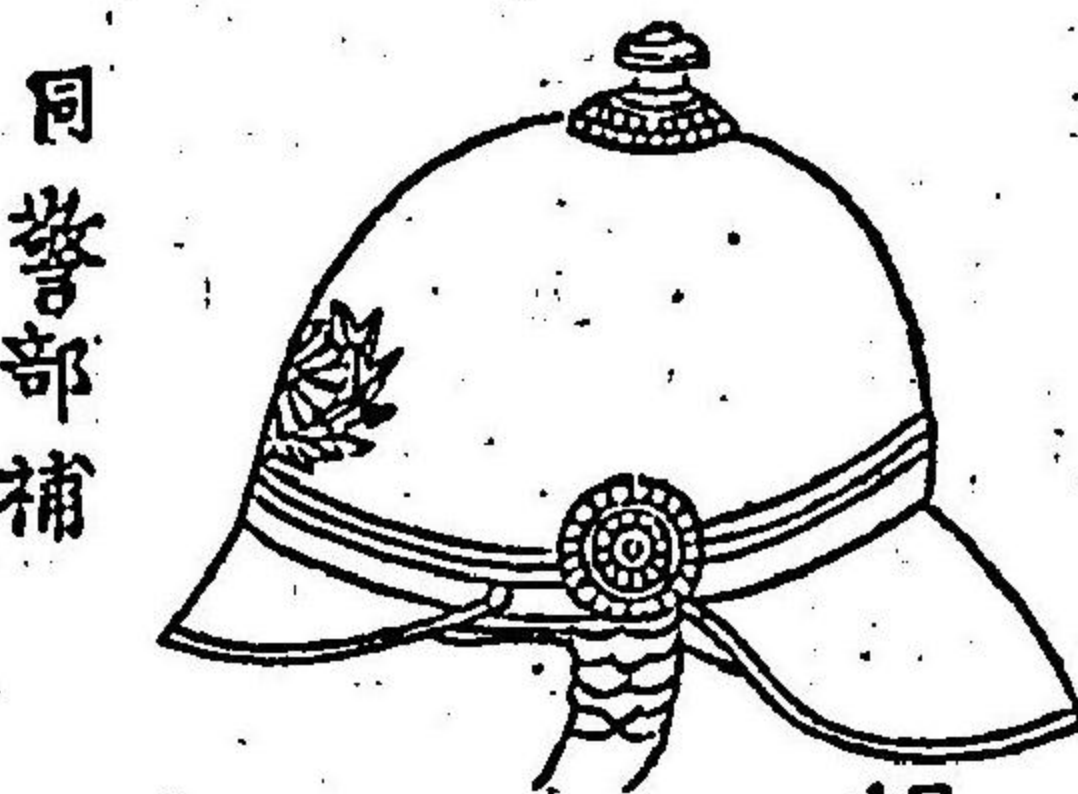
正 帽



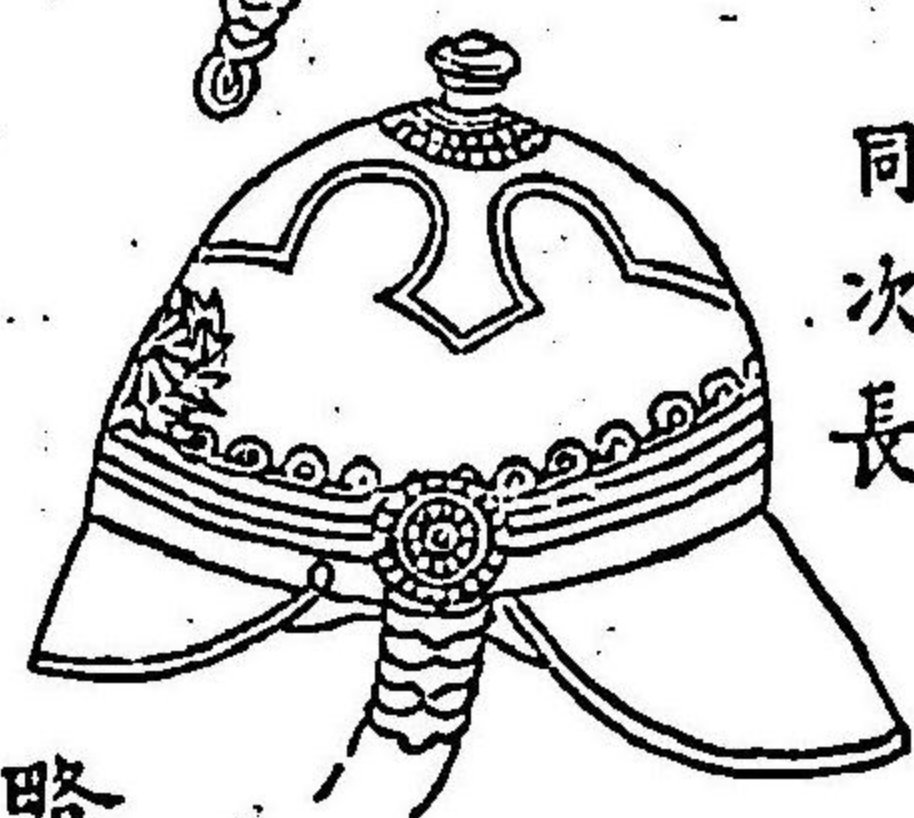
同警部



皇宮警察長



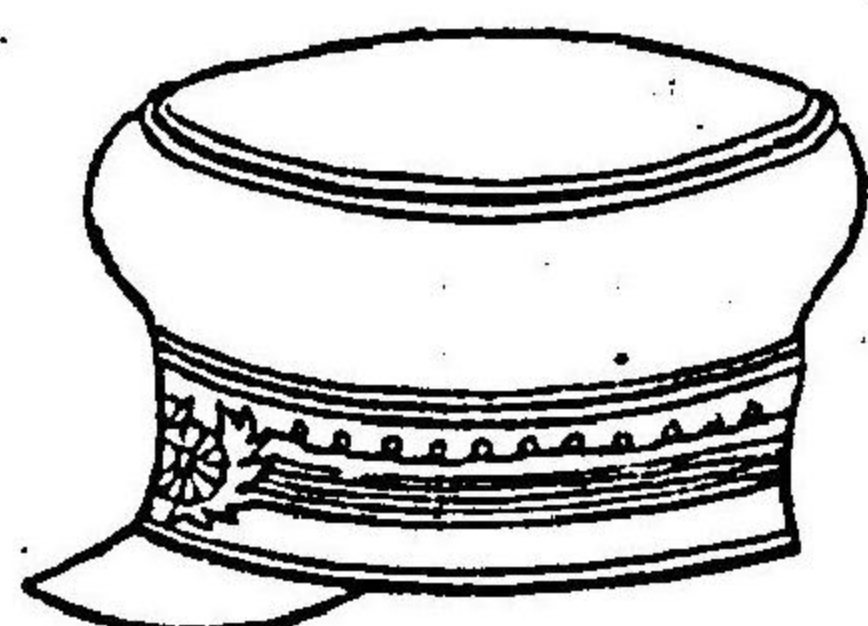
同警部補



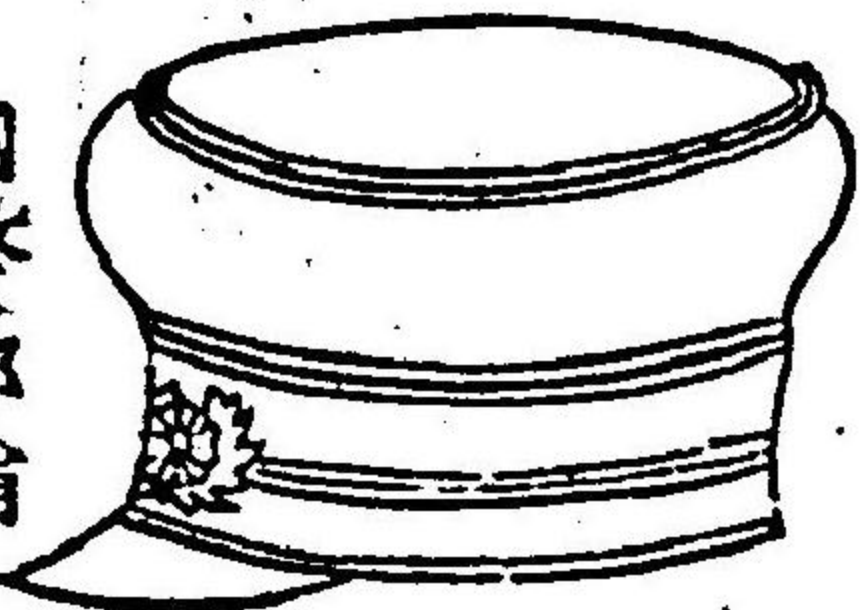
同次長



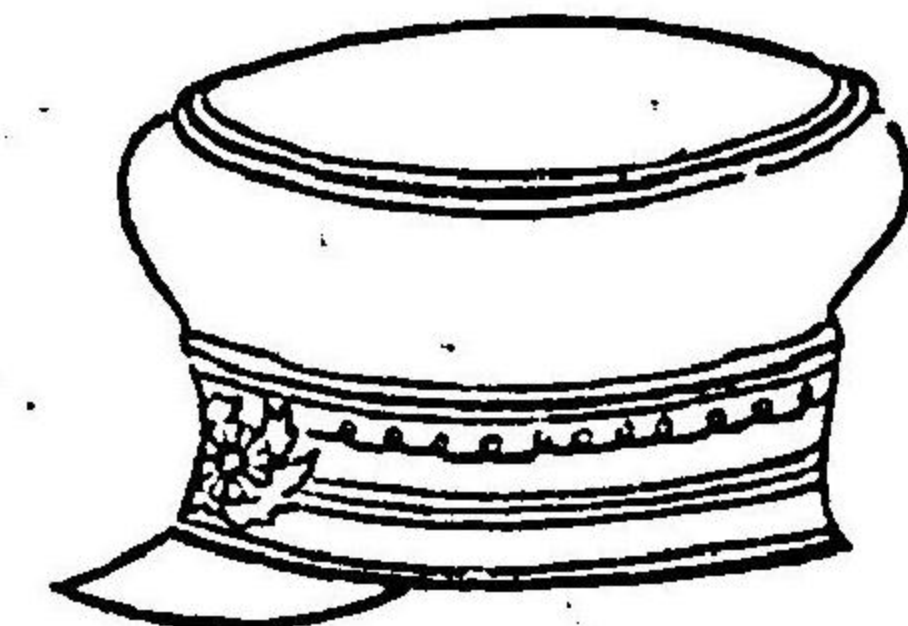
同警部



皇宮警察長

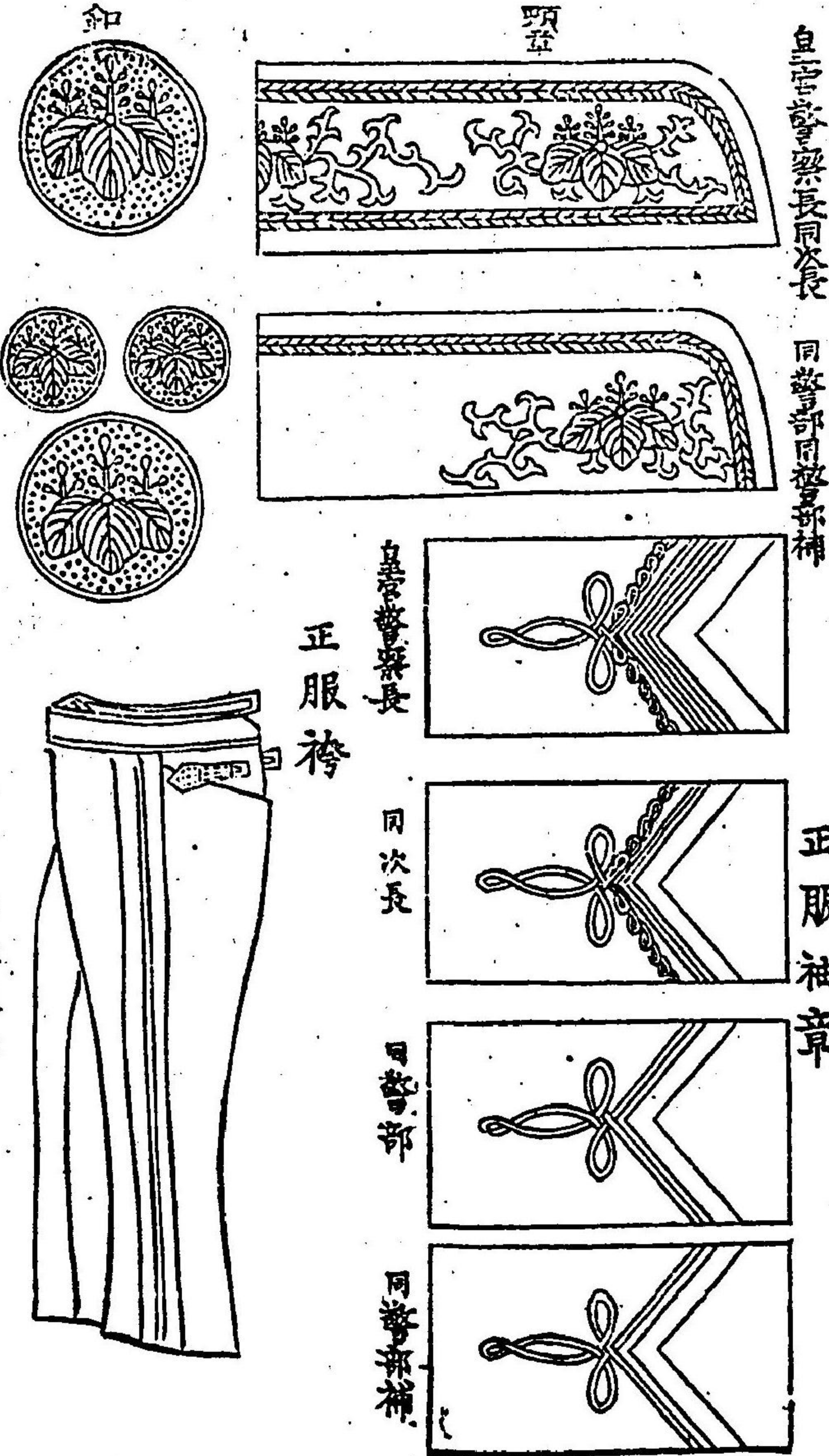
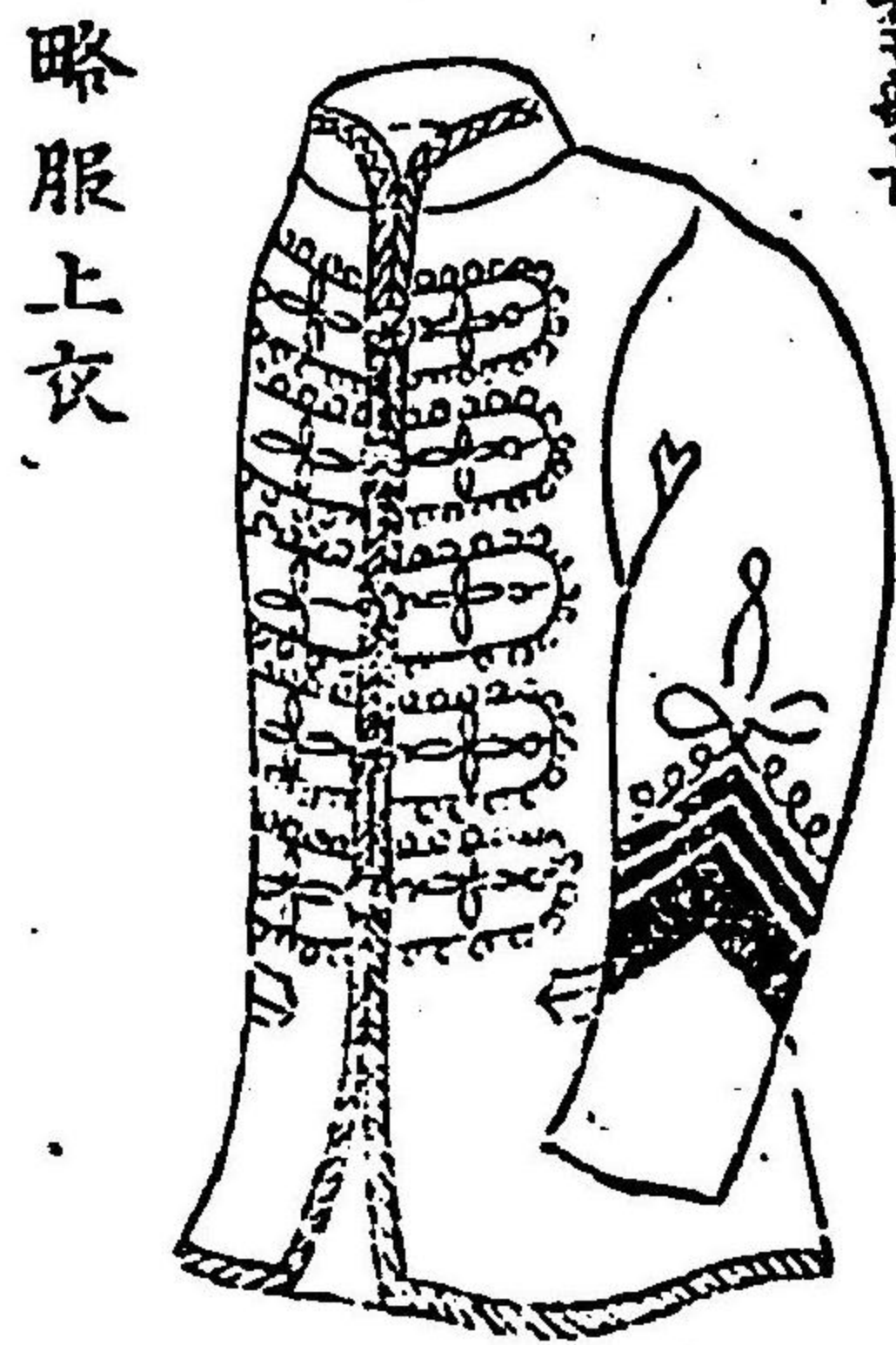
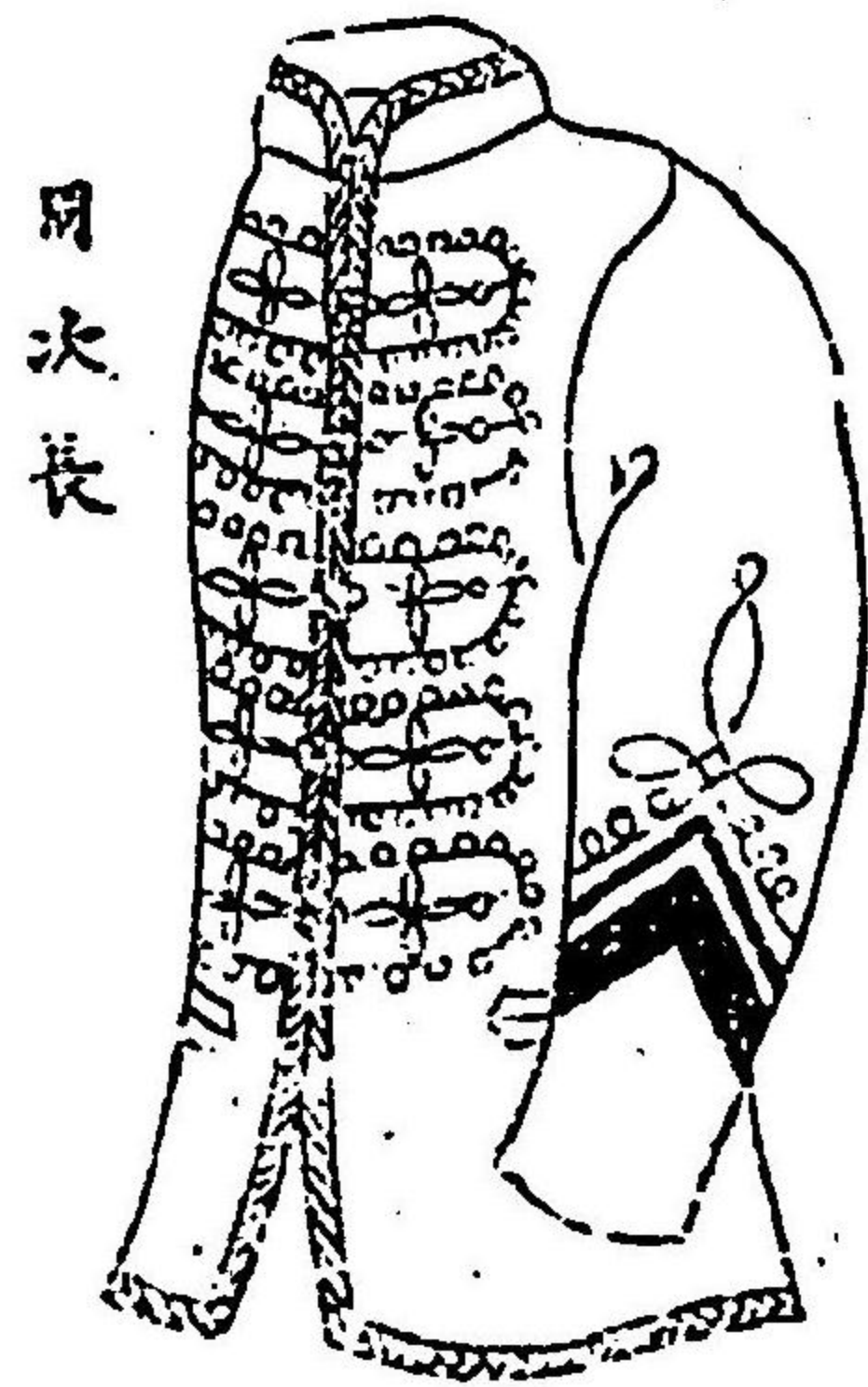
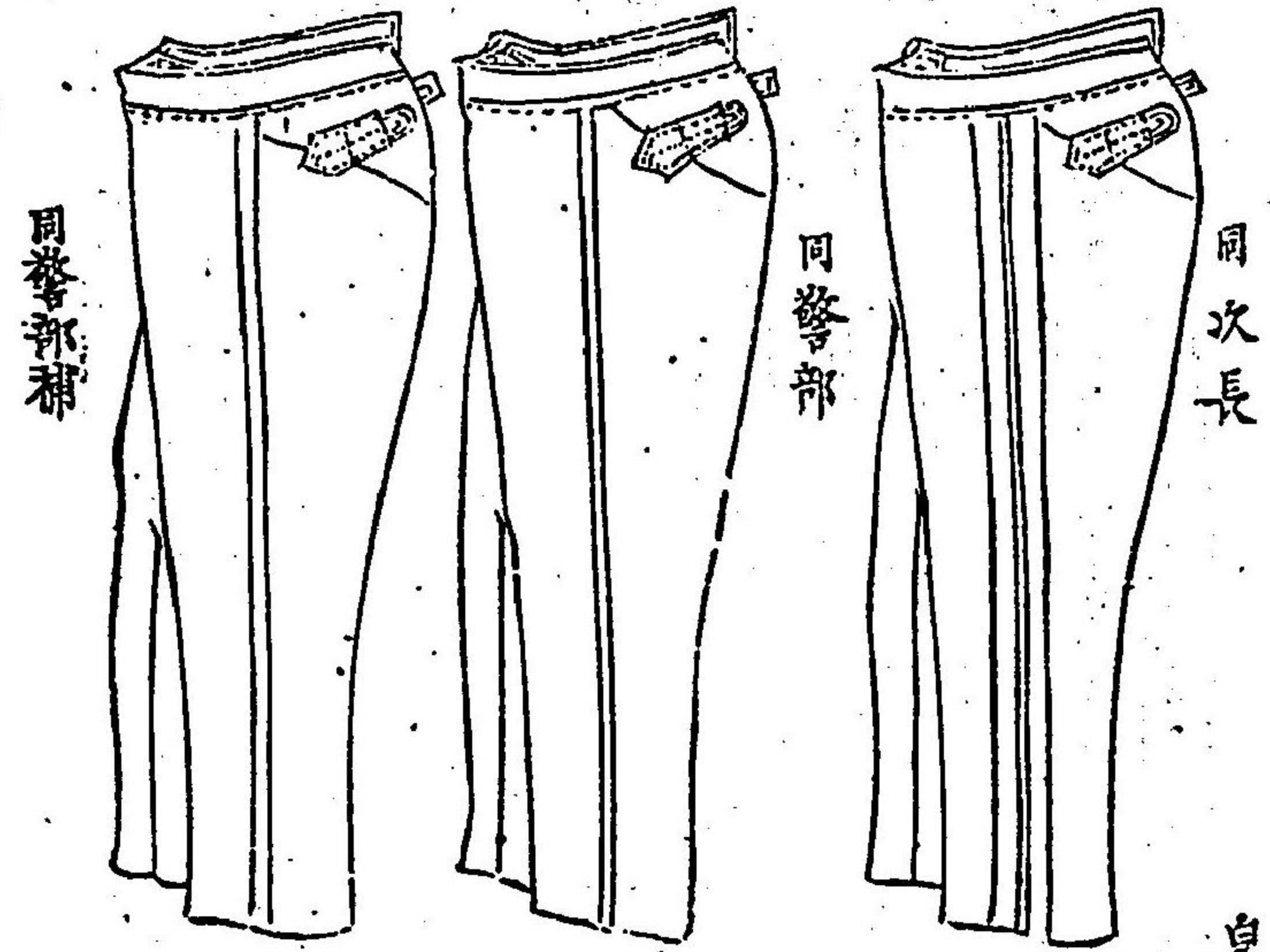


同警部補



同次長

第六類 警察及取締

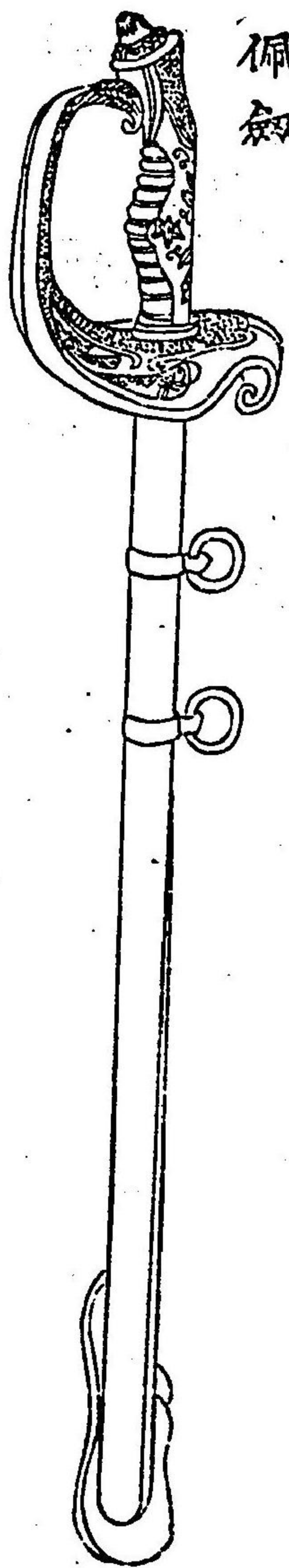


同警部補

同警部

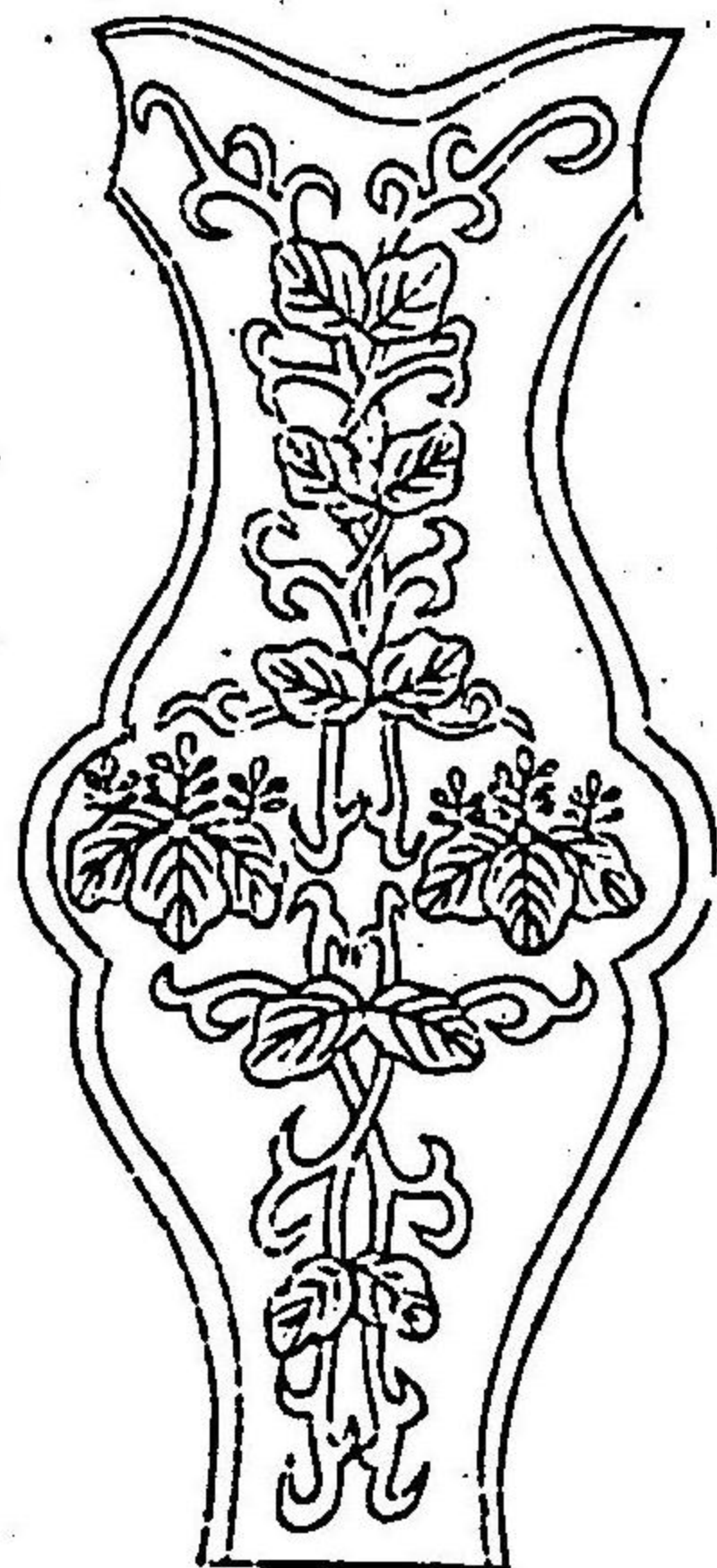
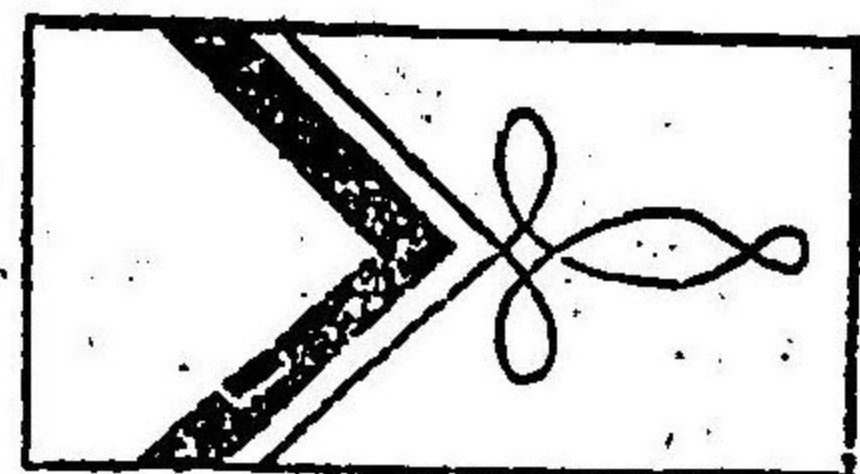
正服袴

正服袖章



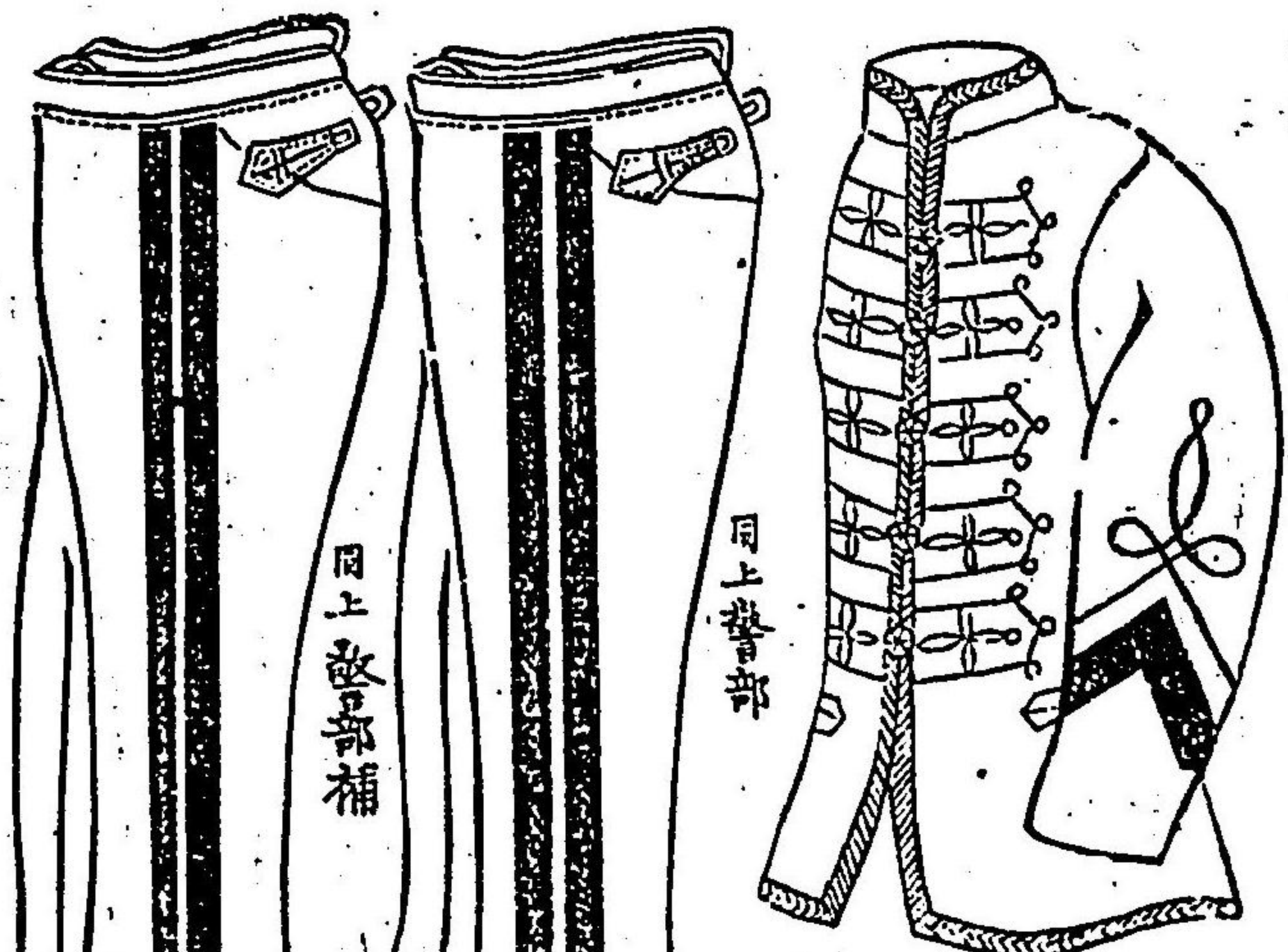
佩劍

同警部補



皇宮警察長同次長
警部同警部補

同警部同警部補



同上警部補

同上警部

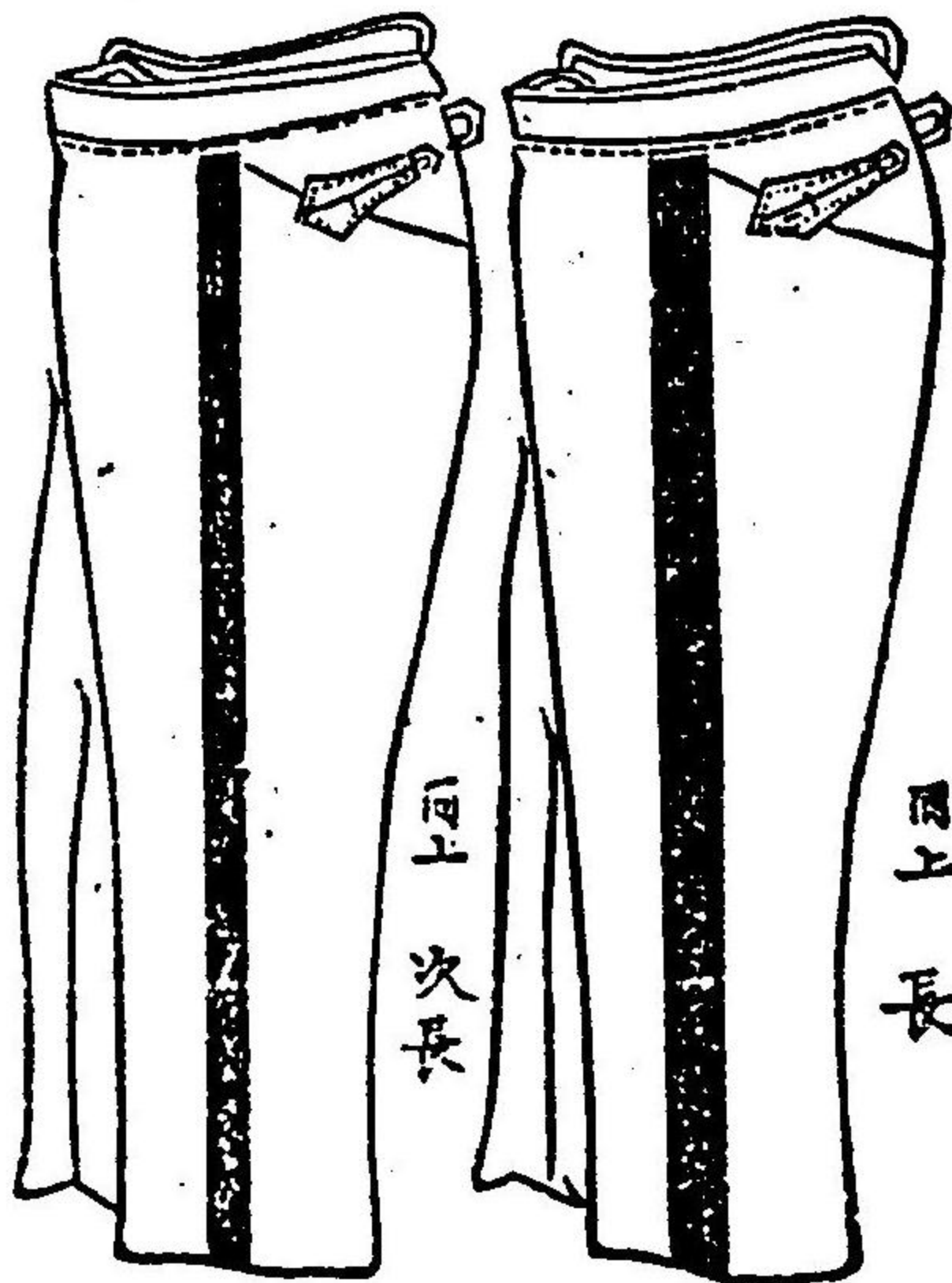
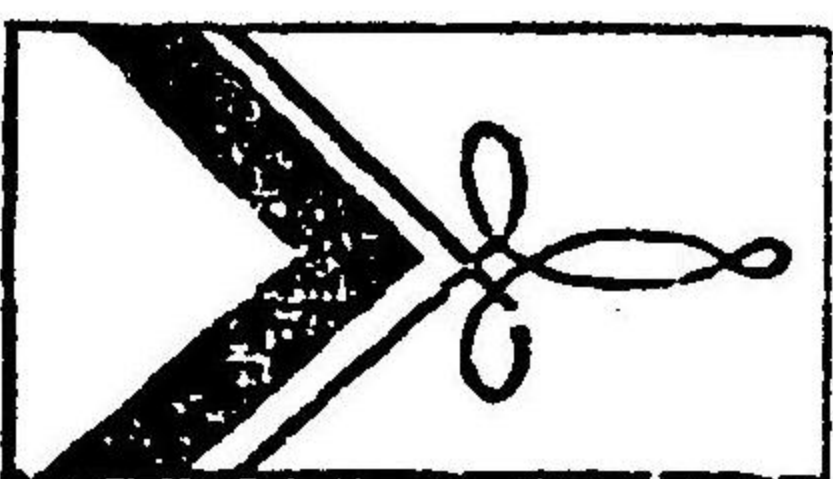
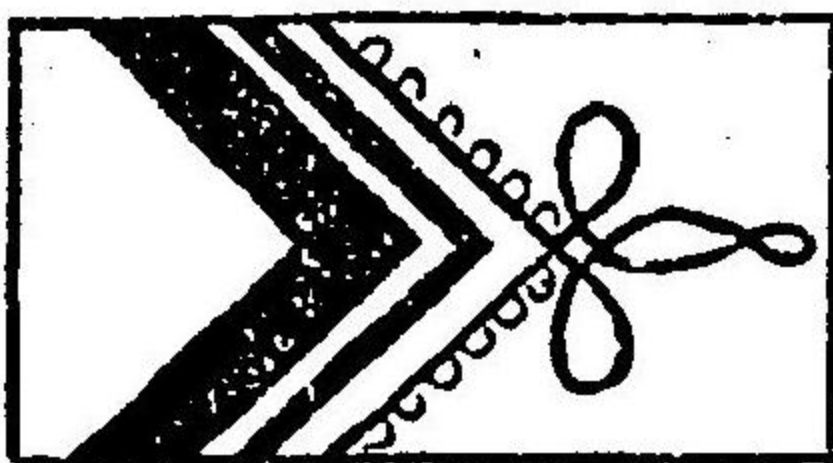
同上

同上袖章

同長

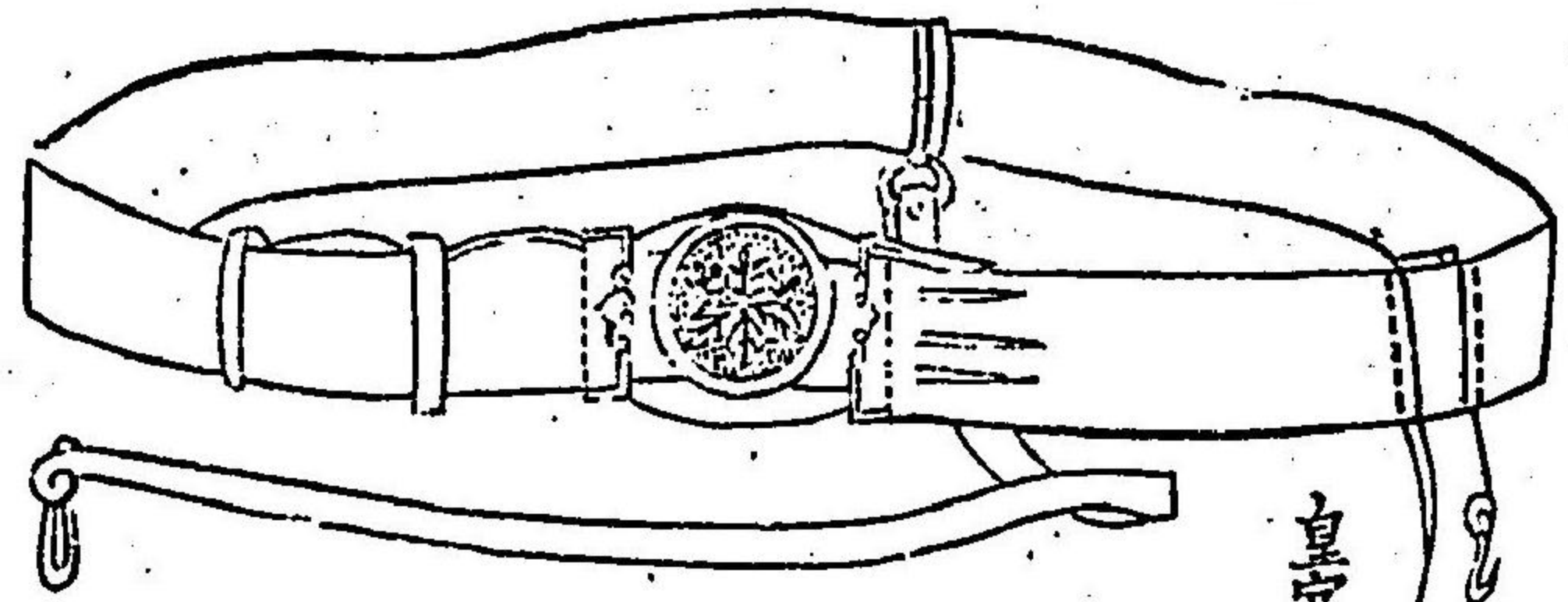
同次長

同警部

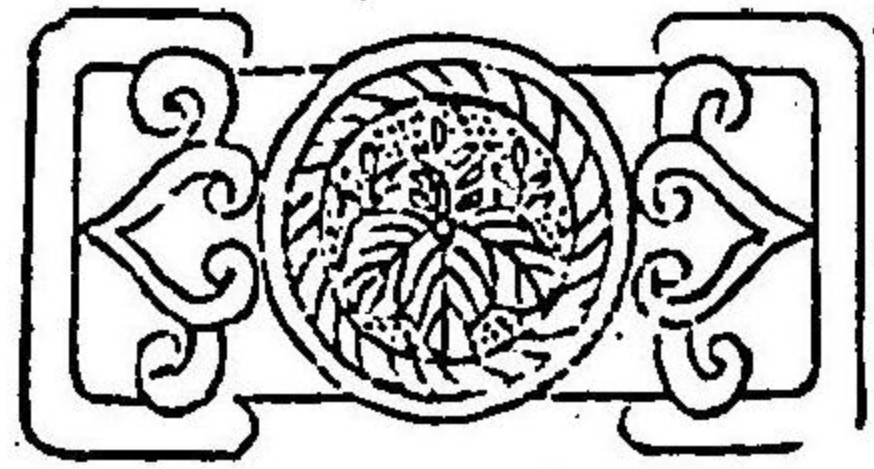
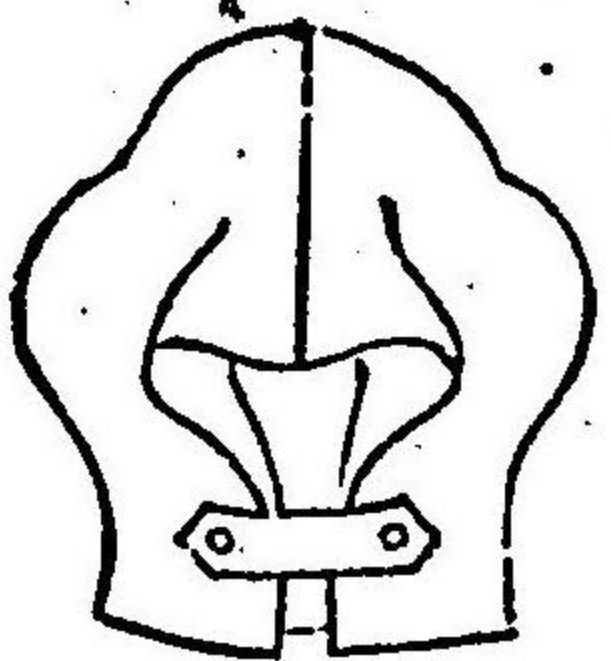


同上次長

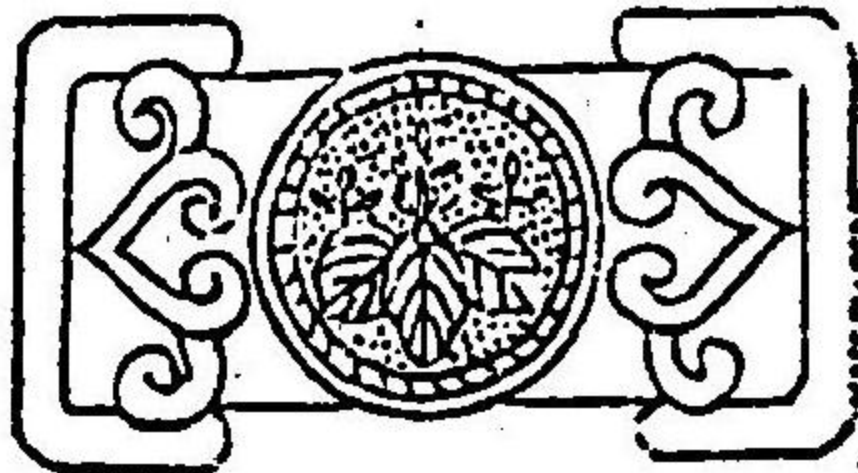
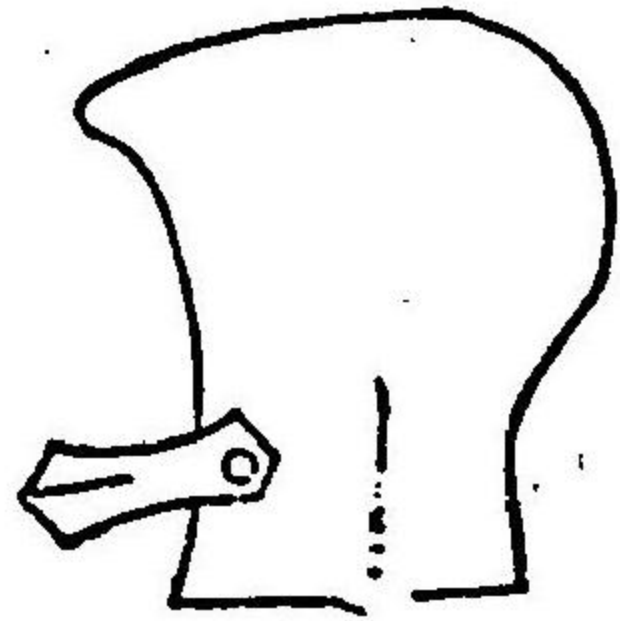
同上長



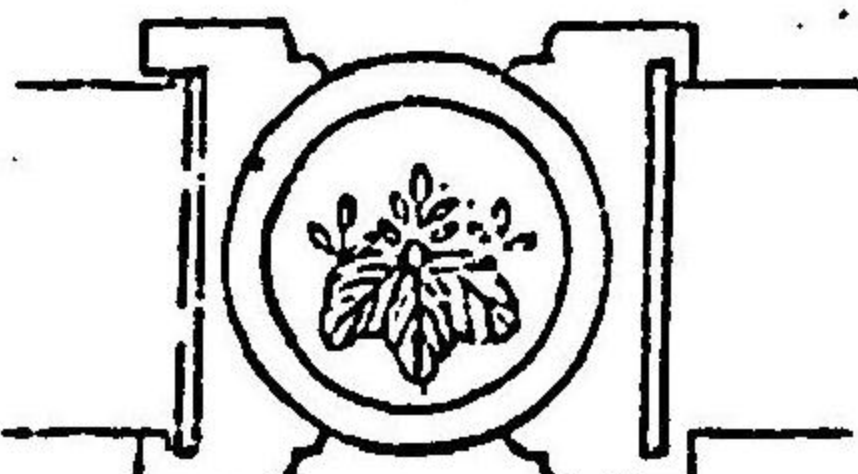
鈎釵帶前章



皇宮警察長同次長

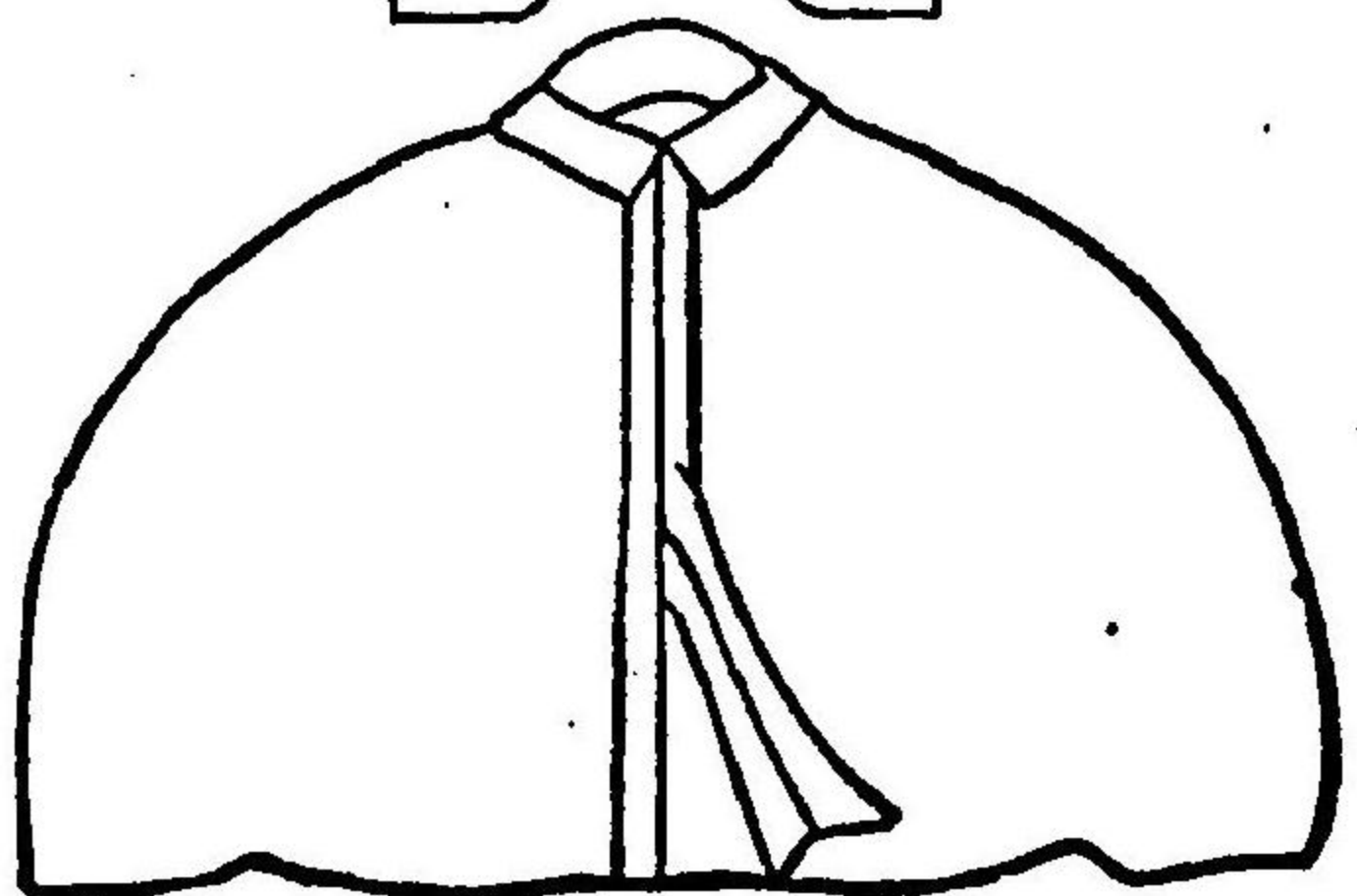


同警察同警部補

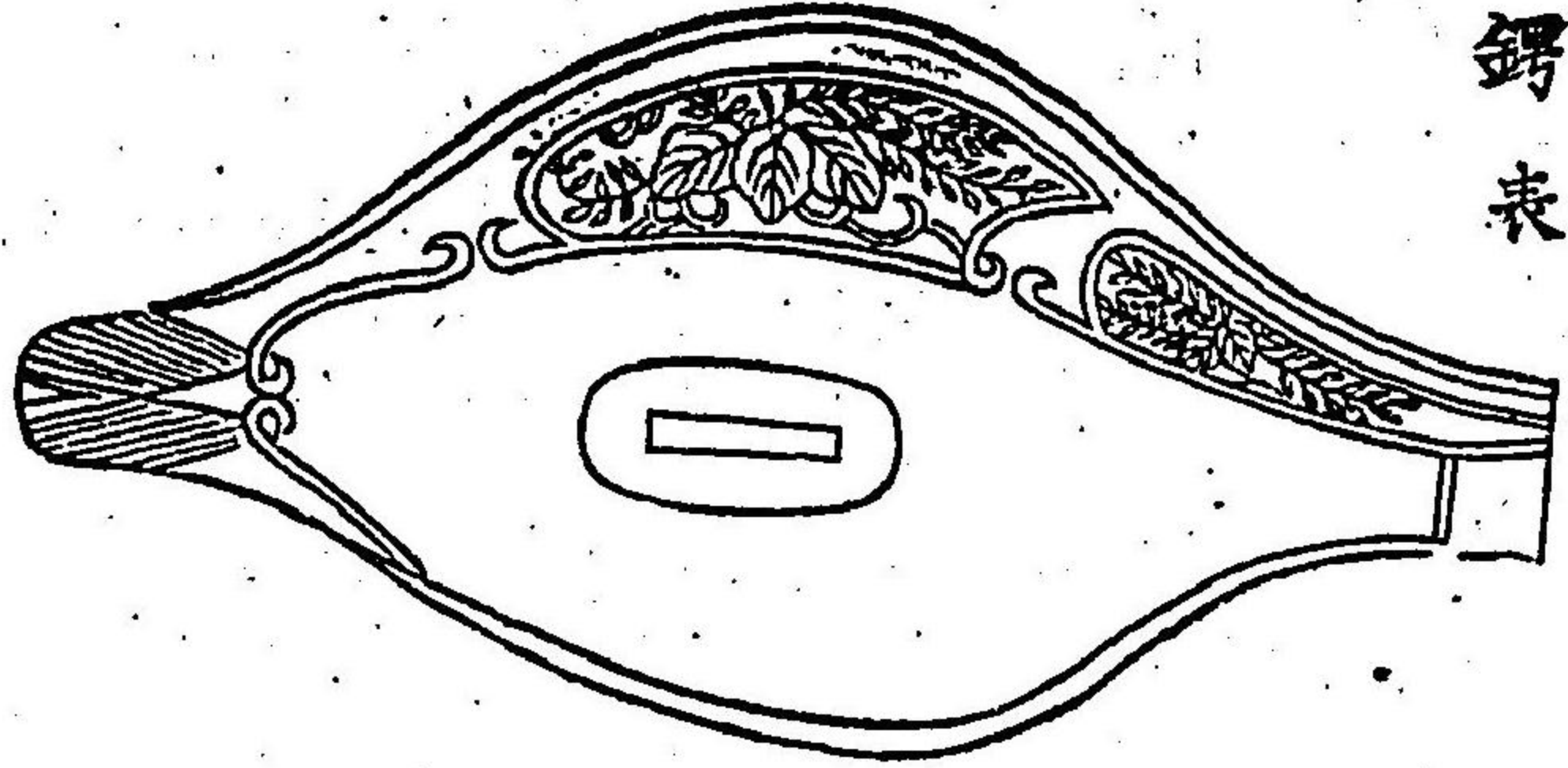


同警手

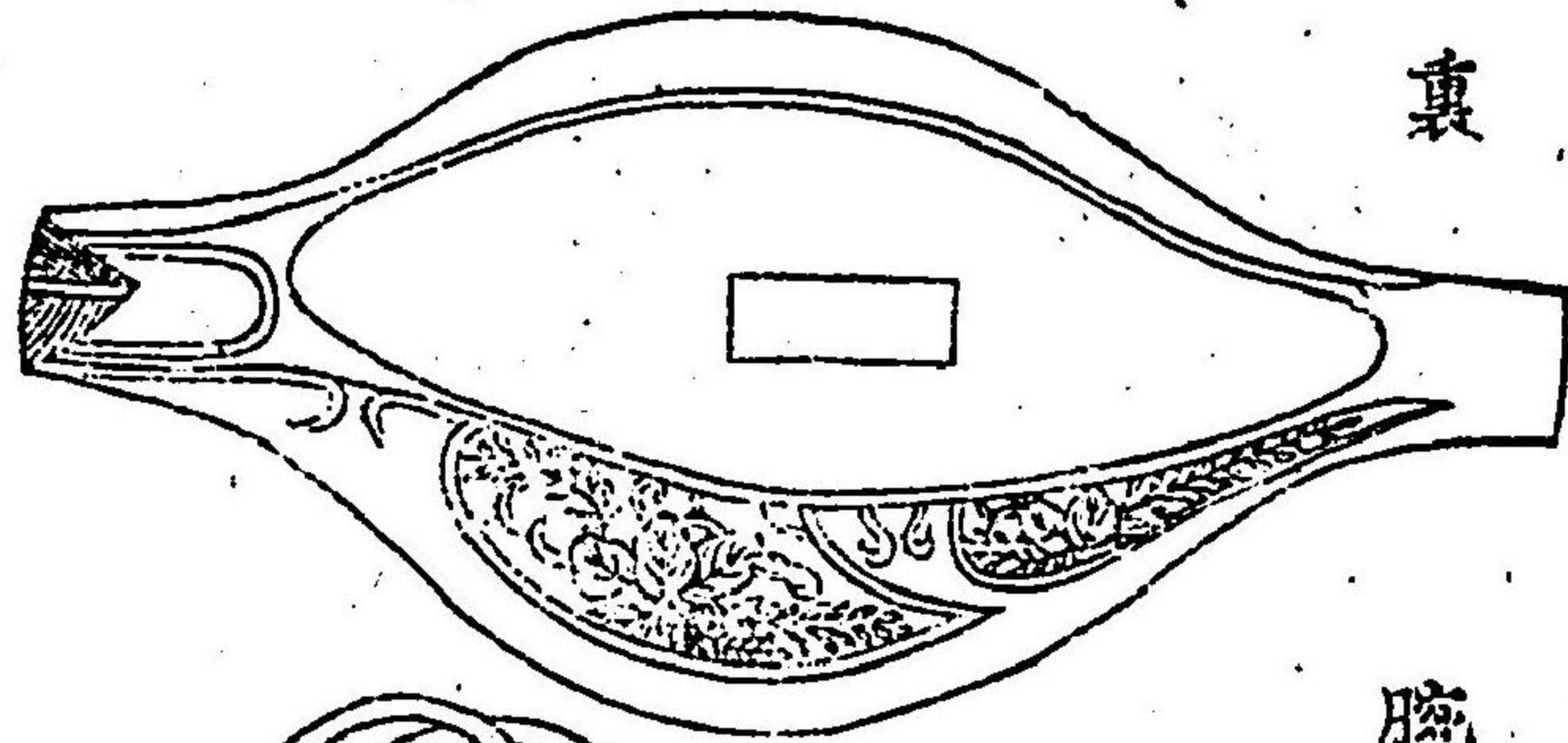
外套



鍔表

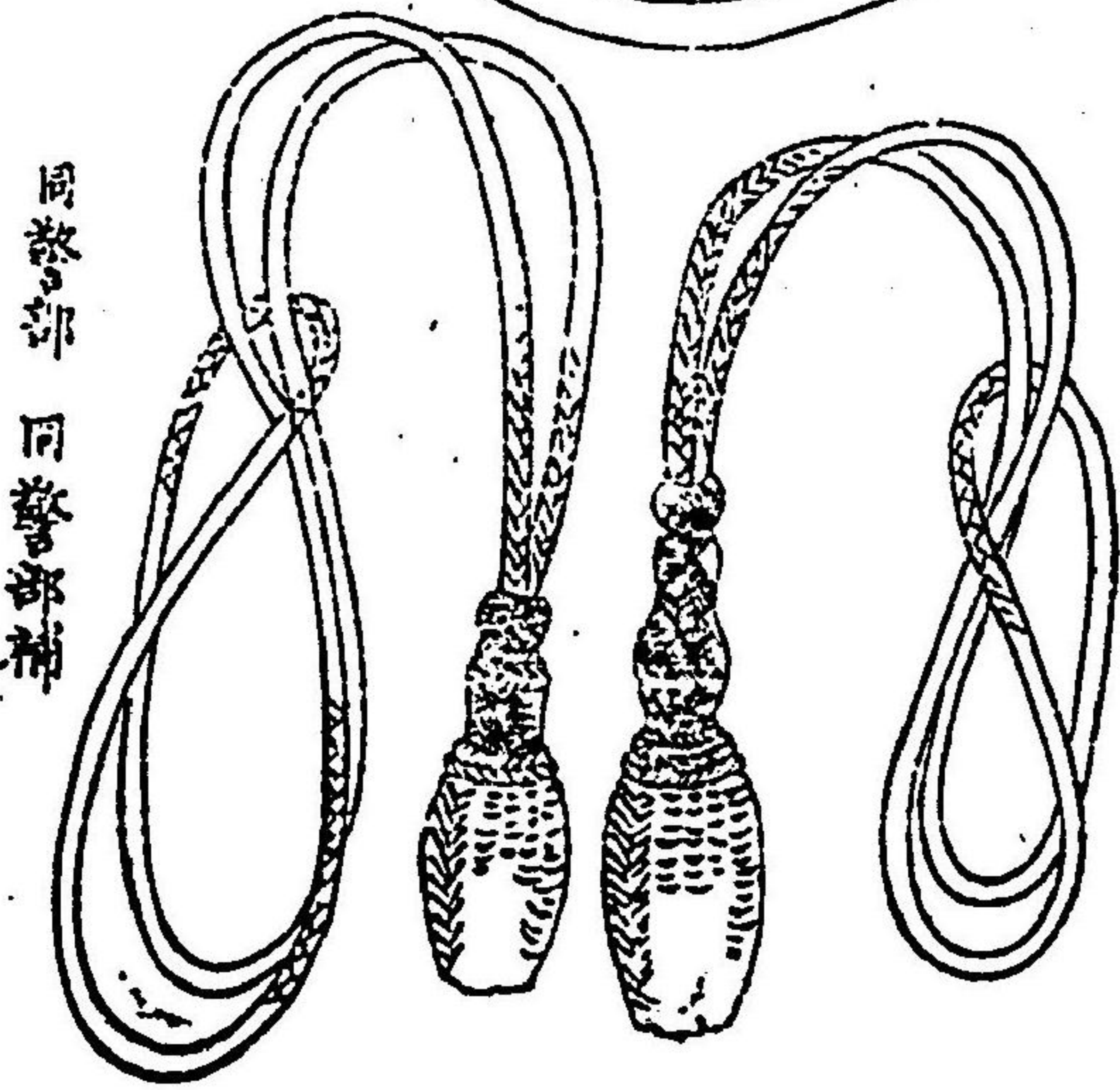


裏

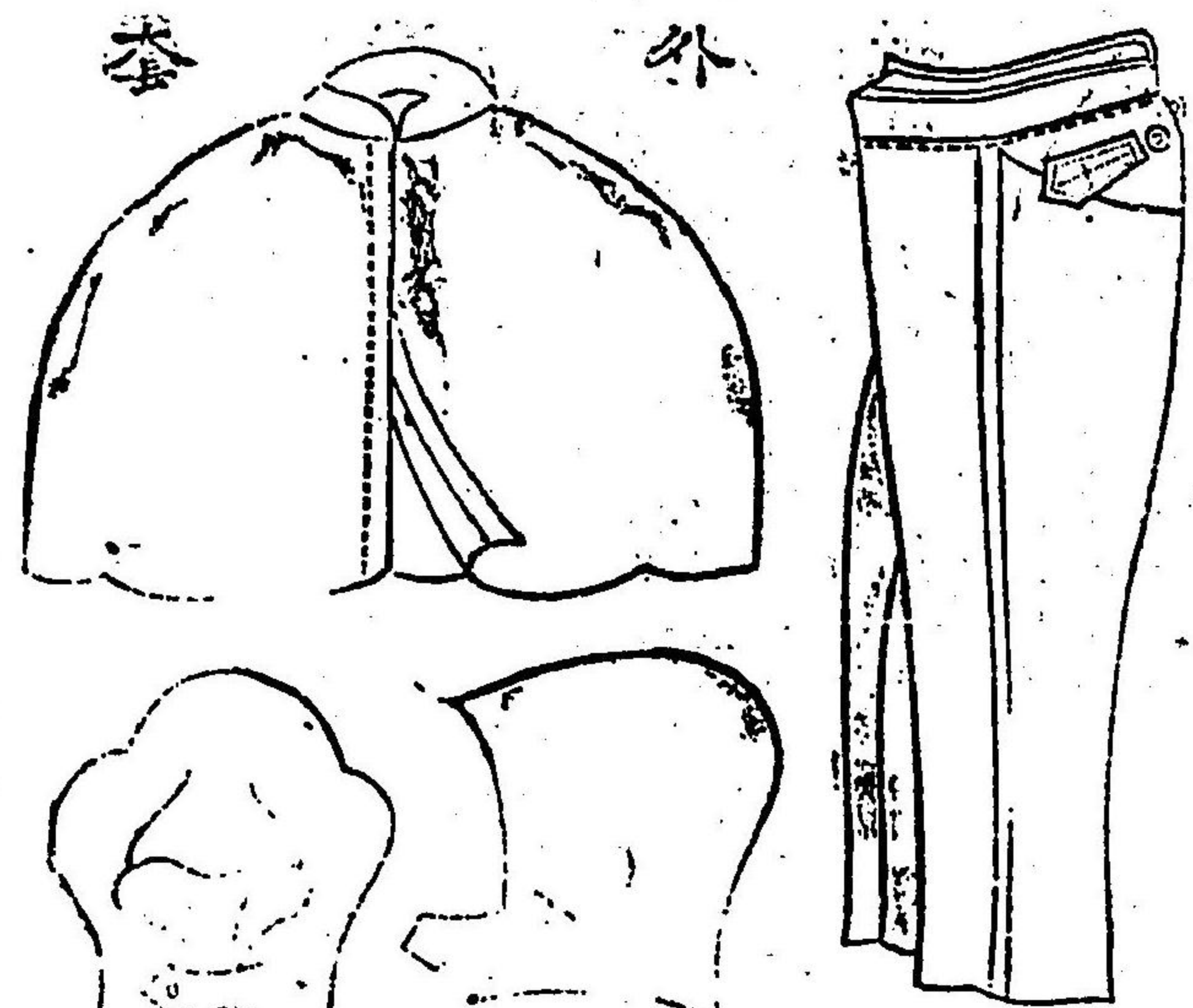


脇貫

皇宮警察長同次長

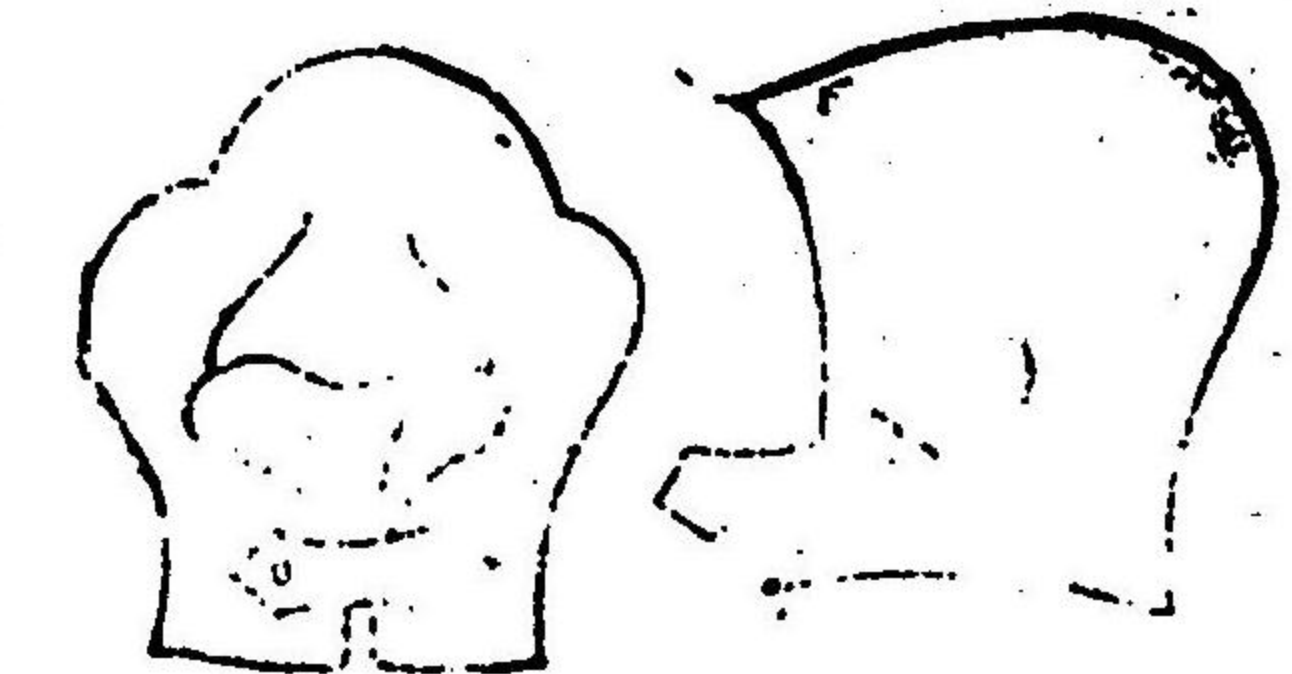


同警部 同警部補



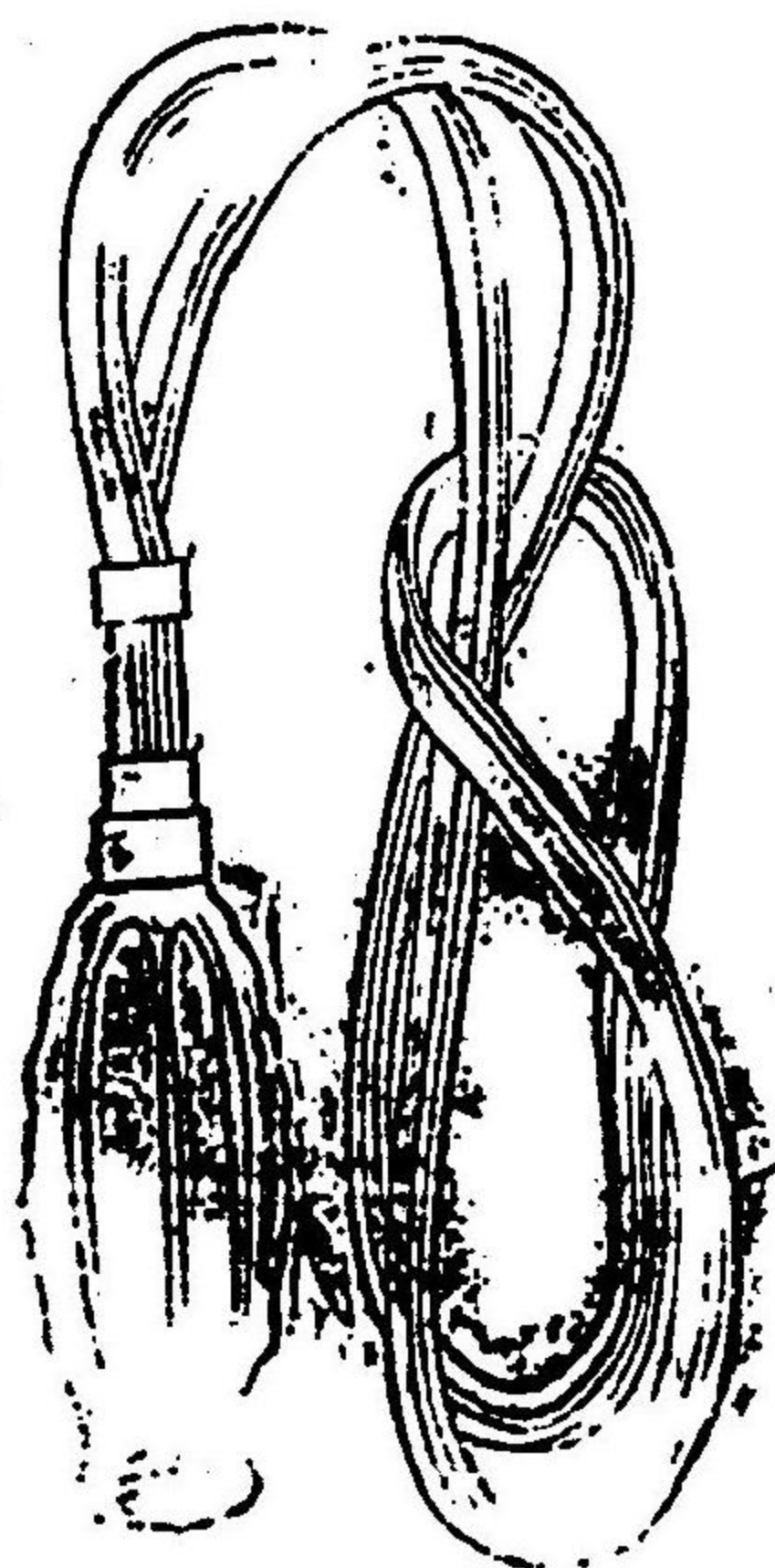
外 套

同袴

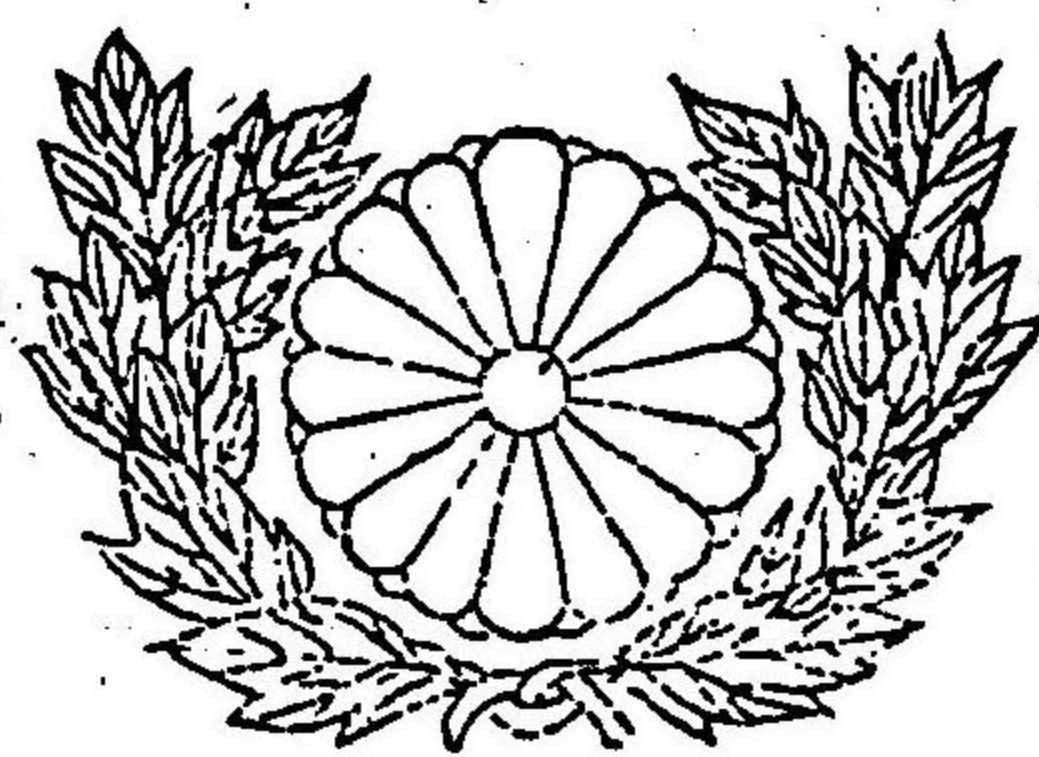
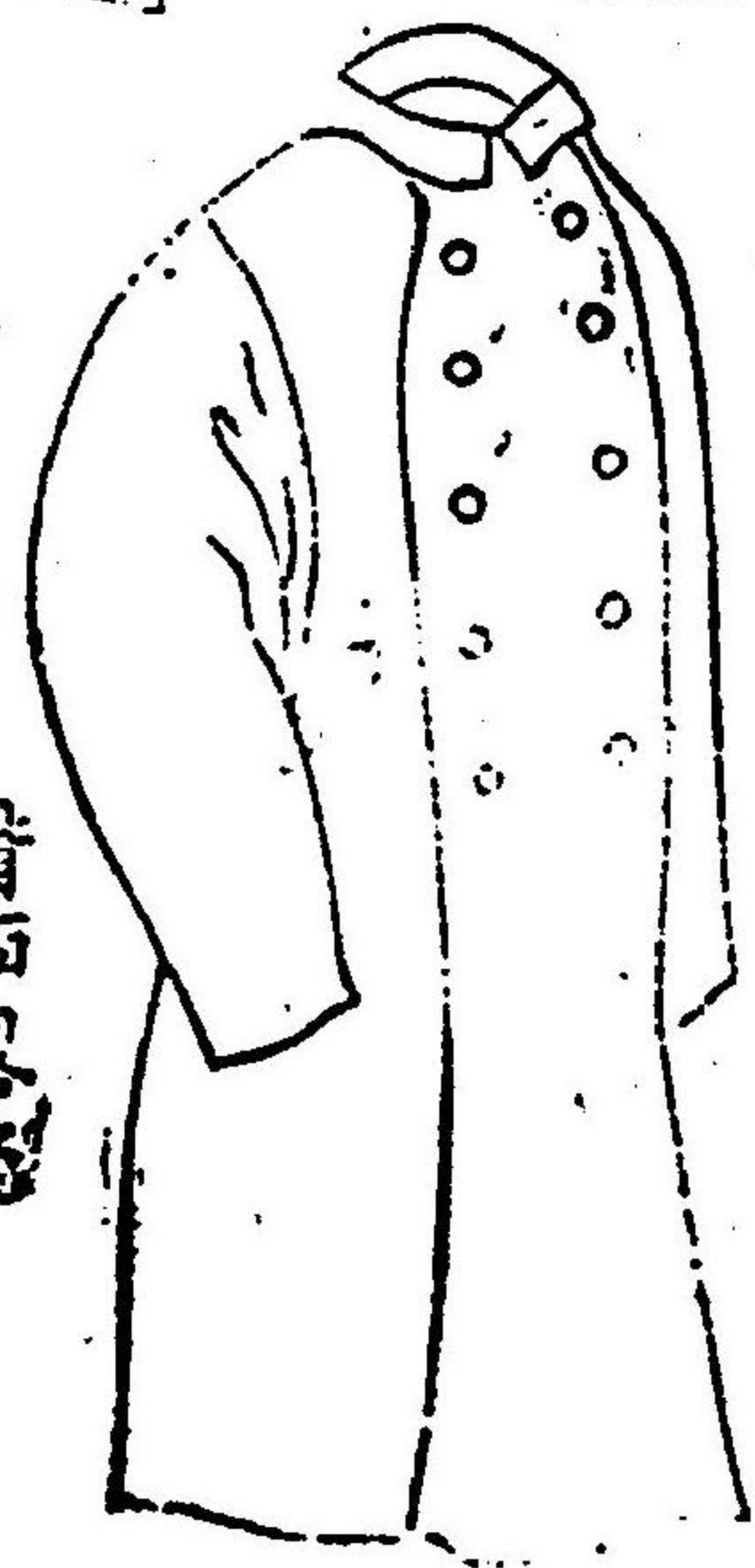


白玉宮袴手

腕袋



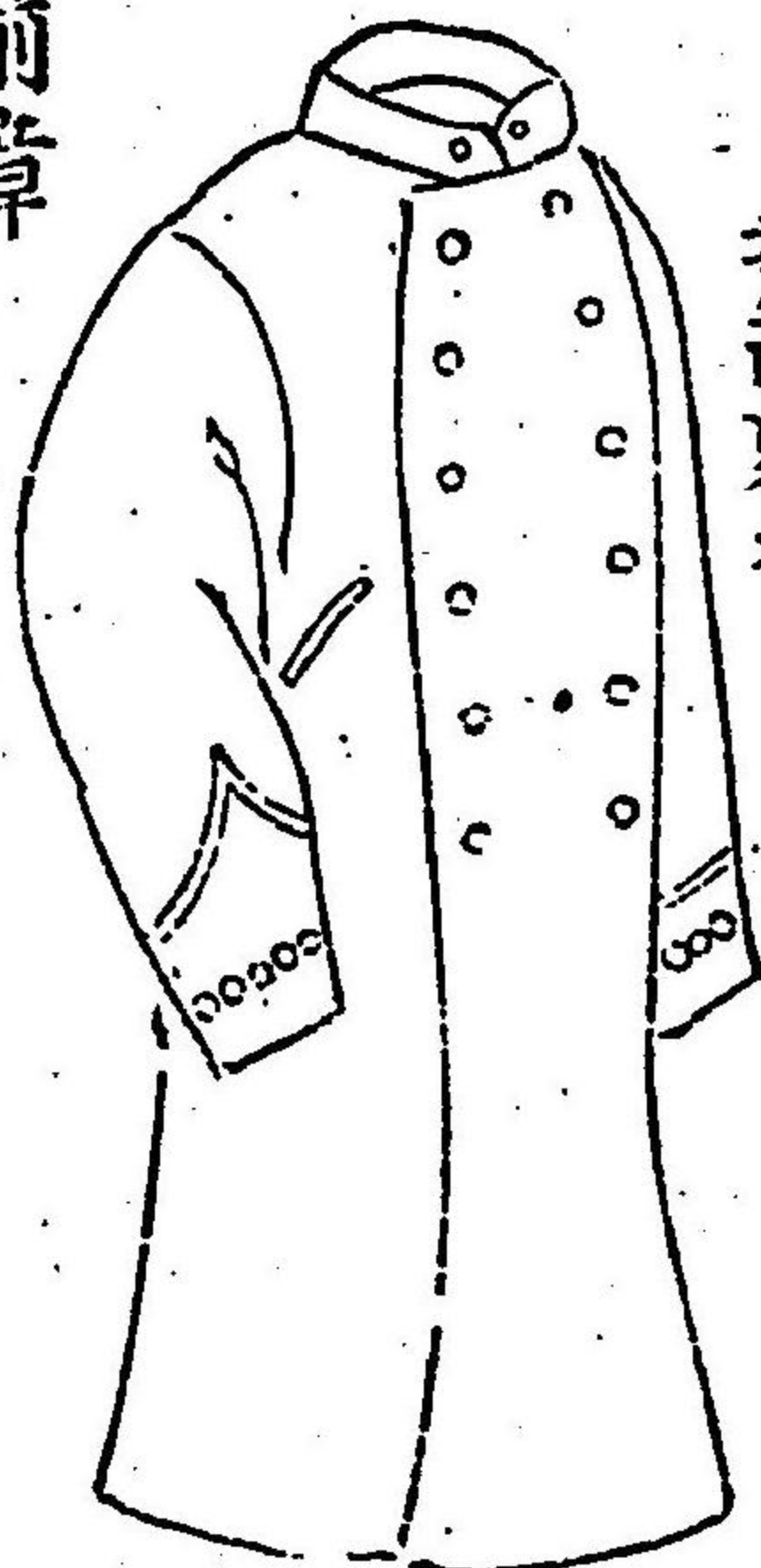
背西恩



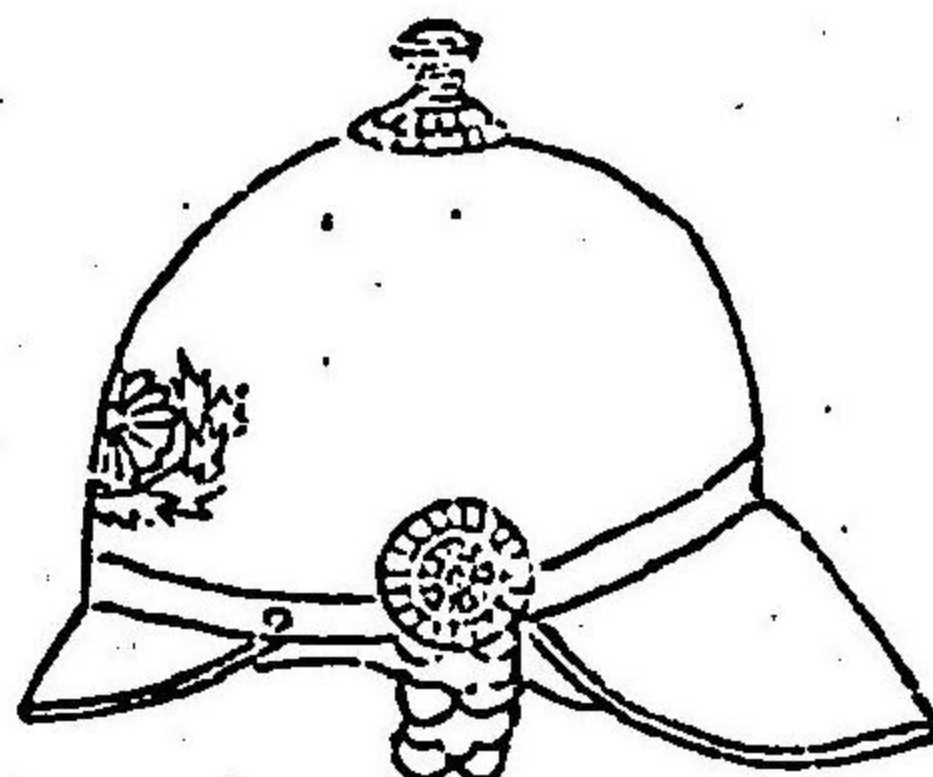
前章

皇宮御手

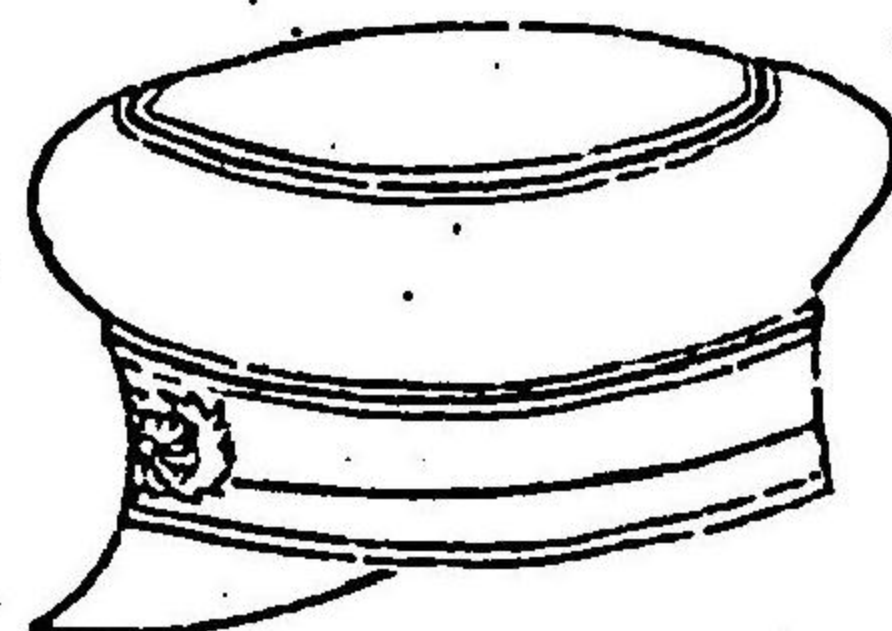
皇宮御手及衣類御手



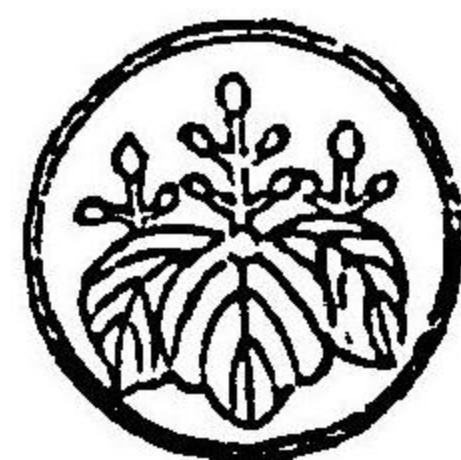
同正帽



同界帽

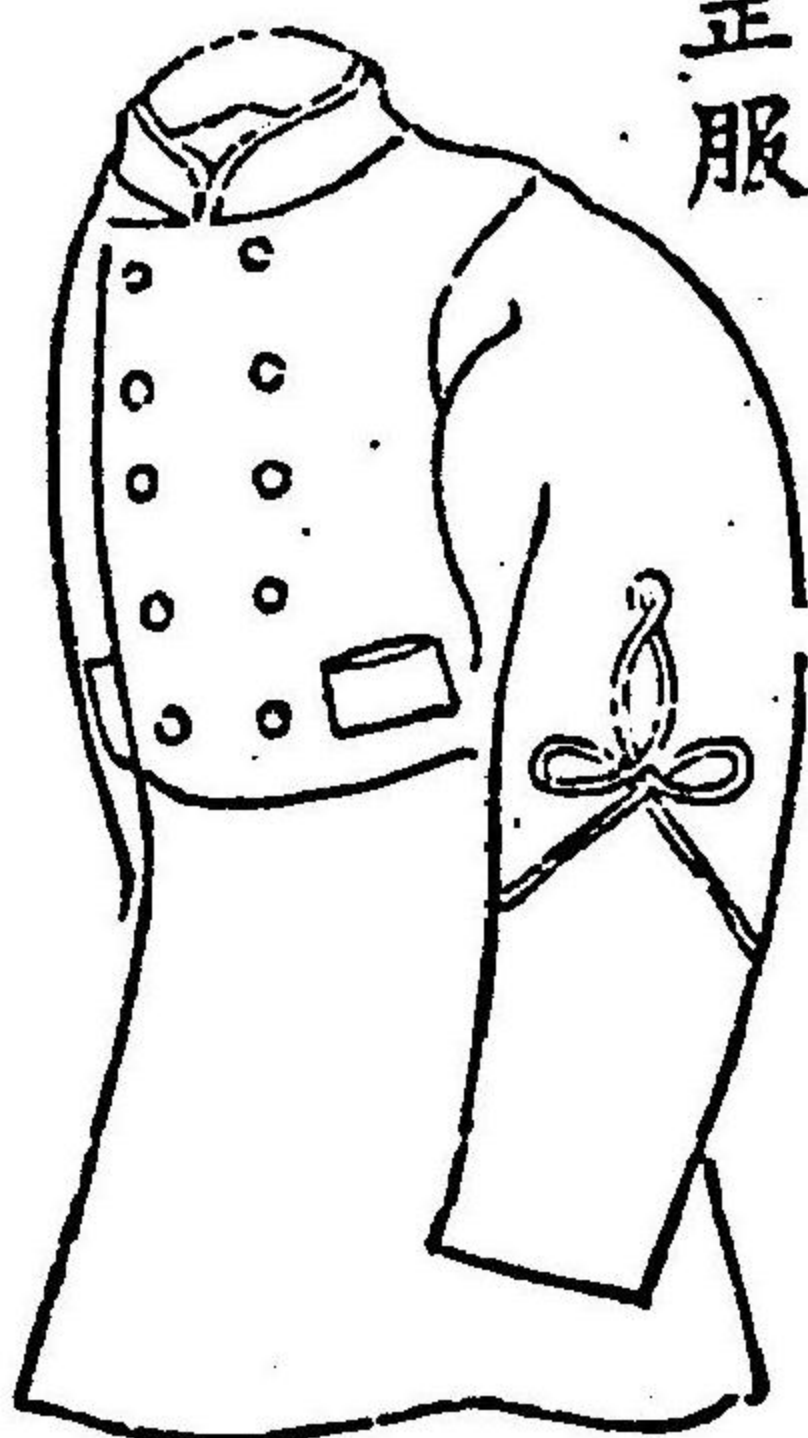


同鈕

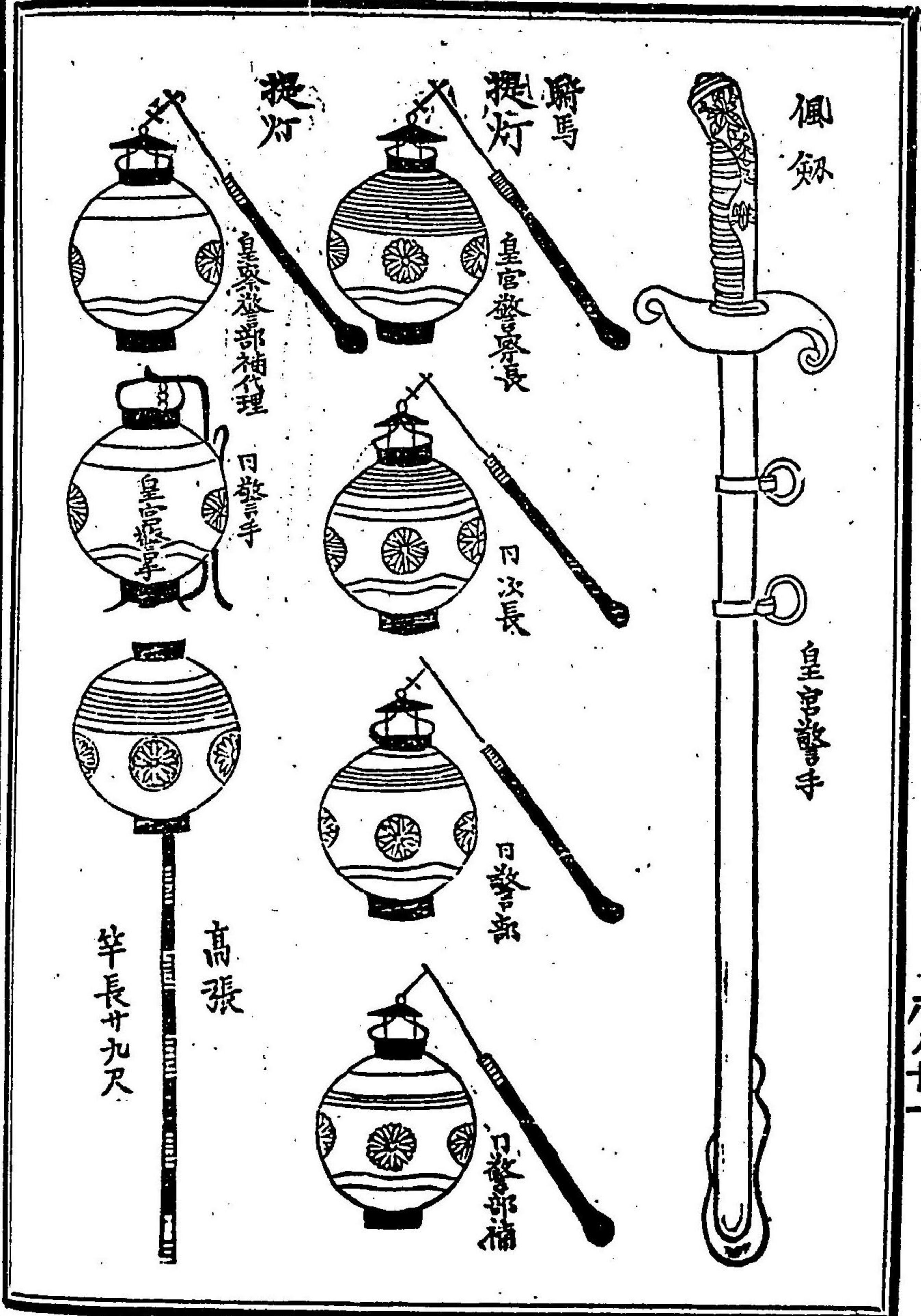


正服

皇宮御手

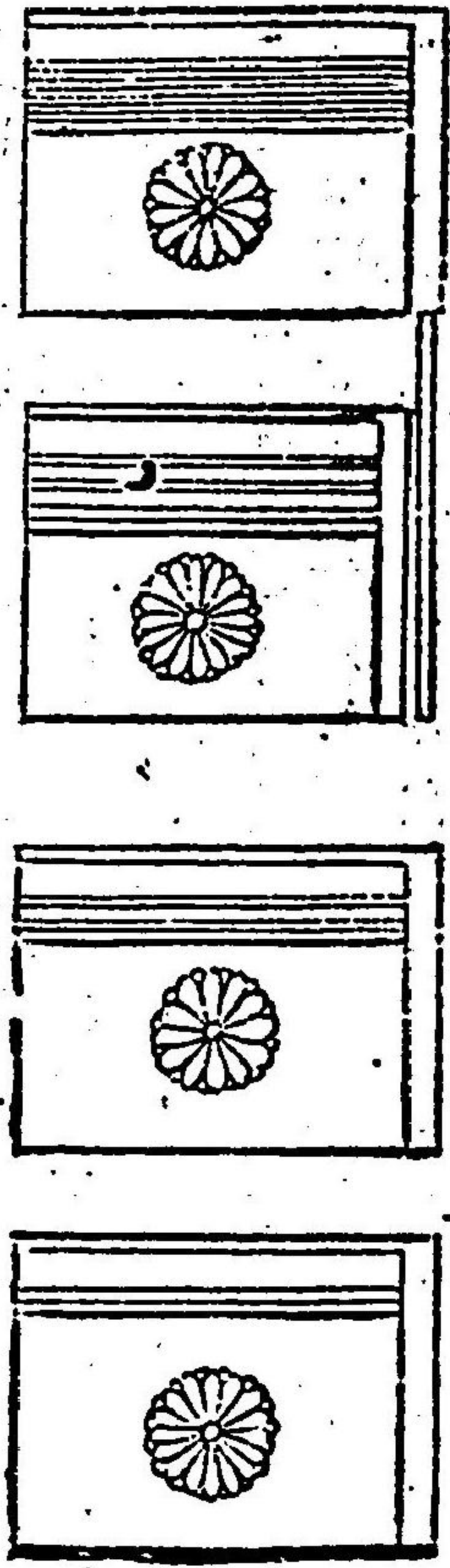


背西恩略



皇宮警察長
流レ二尺中一尺三寸
同長
同警察部
同警察部補

指揮旗



○皇宮警察官禮式 二十二年二月 宮内省通

第一條 皇宮警察官制定ノ服裝ヲナシタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フ可シ

第二條 禮式ヲ分チテ最敬禮敬禮ノ二トス

第三條 室内ノ最敬禮ハ六歩前ニ於テ正面ノ方向ヲ取り直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニテ帽ノ前庇ヲ捕ミ之ヲ垂直ニ提ケ裏面ヲ袴ノ縫目ニ附着シ劔ヲ垂下シ左手ヲ以テ柄頭ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

但シ佩劔セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第四條 室外ノ最敬禮ハ^{行幸啓儀仗兵アレハ}六歩前ニ於テ正面ノ方向ヲ取り直立シテ兩足ヲ整ヘ佩劔ヲ垂下シ左手ヲ以テ劔ノ柄ヲ頭握リ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ敬スヘキ人ニ注目

第六類 警察及取締

シ通過了ルノ間其姿勢ヲ保ツヘシ

第五條 馬上ニ在ルトキハ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取り馬ヲ駐メテ禮式ヲ行フヘシ

第六條 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

第七條 外國皇帝皇后皇太子及皇族ニ對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

第八條 室内ノ敬禮ハ五步前ニ於テ姿勢ヲ正シ右手ニテ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ裏面ヲ袴ノ縫目ニ附着シ左手ヲ以テ劍ノ柄頭ヲ握リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

但シ佩劍セサルトキハ左手ヲ垂下スヘシ

第九條 室外ノ敬禮ハ五步前ニ於テ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ五指ヲ整接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍ヤ外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ受禮者ニ注目スヘシ

第十條 馬上ニ在ルトキ敬禮ハ通過ノ際禮式ヲ行フヘシ

第十一條 宮城並青山御所明宮御殿及雜宮禁苑御料地内ニ於テハ親任官以下高等官並有爵者タルコトヲ認知シタルトキハ凡テ敬禮ヲ行フヘシ

第十二條 本邦駐在各國公使及書記官書記生等ニ對シテハ又前條ニ同シ

第十三條 凡ソ禮式ハ下班ノ者ヨリ之ヲ行ヒ同僚ハ相互ニ敬禮ヲナスヘシ

第十四條 駐立スル際受禮者ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ

第十五條 本條ニ所謂室内トハ官殿及居室事務室應接所等ニシテ廊下庭窟等ハ室外ト

ナス

第十六條 凡ソ居室ニ入ルトキハ脱帽スヘシ

但シ上班ノ者下班ノ者ノ居室ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ケナシ

第十七條 官位記勳記辭令書等ヲ受クルトキハ第六條ノ禮式ヲ行ヒ適宜前進シ劍ヲ垂下シ帽ヲ左掖ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副ヘテ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十八條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ進行スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第十九條 途上上官ヘ申告セントスルトキハ定式ノ禮ヲ行ヒ適宜前進シテ申告スヘシ上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルトコトヲ示シタルトキハ下班ノ者ハ上官ノ左側ニ副ヒ同歩シテ申告スヘシ

但シ下班ノ者上官ト同行スルトキハ三歩後ニ從フヘシ

第二十條 狹隘ノ道路及橋梁廊下階子段等ニ於テ上官ニ出會シタルトキハ立止リ上官ノ通行ヲ待ツヘシ若シ下班ノ者既ニ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上官ヲシテ已ノ通過ヲ待タシメサル様注意スヘシ

第二十一條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮式ヲ行フ能ハサル場合ニ於テハ物品携帶ノ儘停立シテ受禮者ヘ注目スヘシ

第二十二條 特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ從事スルトキハ禮式ヲ行フノ限リニアラス

○皇宮警手採用規則

十九年六月九日
皇宮警察局長

警手採用規則

- 第一條 皇宮警手ハ志願ノ者ヲ以テ検査合格ノ上採用スヘシ其格ハ左ノ如シ
 - 一 年齢滿二十年以上滿三十五年以下ニシテ徵兵ニ相當セサル者
 - 一 身幹曲尺五尺以上ノ者
 - 一 體質強壯ニシテ職務上ニ害アル疾病ナキ者
 - 一 讀書普通ノ文書ヲ讀得ル者
 - 一 作文通俗往復文ヲ級リ得ル者
- 第二條 身幹曲尺五尺以上ノ者ニシテ管テ巡查看守又ハ陸軍海軍兵役ニアリ性質強壯警手ニ適スル見込アル者ハ例ニ照シ試験ノ上特別採用具申スル者トス
- 第三條 二十年未滿三十年以上ト雖モ體質強壯職務ニ堪ユル見込アル者ハ例ニ照シ特別ニ試験ノ上採用具申スルヲモアルヘシ
但十八年未滿ハ此限ニアラス
- 第四條 當省奉職ノ者警手ヘ轉用スルハ例ニ照シ試験ヲナスモノトス
但前ニ試験ヲ經タ者ハ此限ニアラス
- 第五條 前條合格ノ者ト雖モ左ノ事故アル者ハ採用スヘカラス
 - 一 公權剝奪停止ニ係ルハ勿論 皇室ニ對スル輕罪其他廉耻ヲ破リシ罪ヲ以テ處刑セラレタル者

但復權若クハ期滿免刑ノ者ト雖モ尙採用ヲナサス

- 一 懲戒ニヨリ免職後二箇年ヲ經サル者
 - 一 當省元門部消防手警視廳并各府縣巡查或ハ等外雇吏奉職誓約年限ノ内外ヲ問ハズ職務怠惰又ハ不都合等アリテ諭旨解職ニ係ル者
 - 一 皇宮警手ニシテ正當ノ事由ナク奉職年期内ニ退職シ未タ二年ヲ經サル者
 - 一 酒癖アル者
 - 一 身代限リノ處分ヲ受ケ其義務ヲ終ヘサル者
- 第六條 皇宮警手志願ノ者ハ該薦舉書ニ誓約書履歷書身分證書ヲ添ヘ直チニ皇宮警察本署ニ出願セシム
- 第七條 身元引受人ハ東京在籍并寄留ニシテ相當ノ資財所有者ニ名トス
- 第八條 左ニ掲クルモノハ身元引受人タルヲ得セシメス
- 一 陸海軍下士兵卒及ヒ巡查警手奉職中ノ者
 - 一 止宿同居及ヒ他ノ附籍ニアル者但判任(陸海軍下士ヲ除ク)以上奉職中ノ者ハ此限ニアラス
 - 一 公權剝奪及公權停止中ノ者
 - 一 年齢二十年未滿ノ者
- 身元引受人タル者前項ニ該當セルハ更ニ引受人ヲ立サシム
- 第九條 當省警手誓約年限中ト雖モ不得止情實アリ證據明確ニシテ辭職ヲ聽サレシ者

ハ尙二箇年ヲ經スト雖ニ採用スルコトアルヘシ

- 第十條 後備軍豫備軍中ト雖ニ東京鎮臺所管ノ者ニ限り照會ノ上差岡ナキ者ハ採用ス
- 第十一條 皇宮警手ハ薦擧手續ニ依リ皇宮警部ニ於テ薦擧スヘシ
- 第十二條 試験官ハ其時々警察長ニ於テ警部警部補ノ内ヨリ選定スヘシ
- 第十三條 體格ノ強弱并疾病ノ有無等ハ醫員ニ於テシ其他ハ其試験官ニ於テ検査スヘシ

第十四條 試験官ハ右ニ掲クル所ノ外本人ノ志向及ヒ從來ノ經歷又ハ技術學術等精細調査シ合格ノ者ハ試験表ヲ製シ皇宮警察長ニ具申シ警察長ハ意見ヲ付シテ主殿頭ニ上申スヘシ

試験法科目

- 第一條 警手志願人試験科目試験法其優劣概子左ノ例ニ因リ上中下ノ三等ニ別ツテ其等差ヲ定ム下等ノ部ハ再驗スルコトアルヘシ其他ハ零トス
- 第二條 讀書ハ有點ノ漢文普通假名交リ文等ヲ差支ナク誦讀シ作文ハ問題ニ適シ字體法ヲ得文意明瞭ナル者ヲ上等ノ部トス
- 第三條 讀書ハ有點ノ漢文ヲ讀得スト雖モ普通假名交リ文等ヲ讀得作文ハ稍字體法ヲ得文意問題ニ適スル者ヲ中等ノ部トス
- 第四條 讀書普通假名交リ文等誦讀不審多ク作文ハ稍問題ニ適スト雖モ文意明瞭ナラズ運筆尤モ遲ナル者ヲ下等ノ部トス

但書籍ハ試験ニ臨ミ貸與ス自己携ルヲ許サス有點ノ漢文ハ日本外史等假名交リ文ハ規則達等(警史須知、警察主眼等ノ如キ者)ヲ用ユ作文ノ料紙ハ半紙罫ヲ用ユ問題ハ警手ニ管スル事件即席ニ之ヲ與フ(火ノ元取締法、失火消留、惡漢捕縛等ノ如キ者)概子半枚ヨリ少カラス綴ラシメ三十分間ヲ限リトス

體格検査規則

- 第一條 警手志願人體格検査ノ要ハ身體壯健精神完全ニシテ定年間ノ職務ニ堪ユヘキト疾病畸形アリテ之ニ堪ユヘカラサル者トナ區別スルニアリ而シテ其職務ニ堪ユヘキ者ヲ以テ合格トシ更ニ體格ノ最モ強實ナル者ヲ甲種トナシ尋常ノ者ヲ乙種トナス其職務ニ堪ユヘカラサル者ヲ以テ不合格トシ丙種トス
- 第二條 嘗テ重病ニ罹リシモ再發ノ患ナキ者又現ニ輕微ノ疾病ヲ帶フルモ直ニ職務ニ服シテ害ナキ者皆之ヲ合格トスヘシ
- 第三條 身體ノ發育未タ十全ノ度ニ達セサル者或ハ疾病傷疾畸形ニ論ナク三十日以内全治ノ目途ナキ者皆之ヲ不合格トスヘシ
- 第四條 急性及慢性病其他外傷或ハ病後衰弱復セサル者等ニシテ三十日以内完全恢復ノ目途アル者ハ皆之ヲ再検査ニ回スヘキ者トス
- 第五條 疾病ノ輕重虛實ヲ診斷センカ爲メニ可及的綿密ノ検査ヲ遂ク可シ
- 第六條 前諸條ニ基キ身體ヲ検査シ其合不合ヲ判決スヘキモ殊ニ年齢身長量力視官聽官ノ感覺及胸廓ノ構造ハ左格ニ適スルモノヲ撰フヘシ

- 一 年齢ハ二十歳以上三十五歳以下ノ者
- 一 身長ハ五尺以上ノ者
- 一 力量ハ左右ノ手各檢力器二十五「キログラム」以上ヲ示ス者
- 一 視官ノ感覺ハ二十尺ノ距離ニ於テスズルレン氏試視力表ノ二十號ヲ明視シ得ル者
- 一 聽官ノ感覺ハ六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽取シ得ル者
- 一 胸廓ノ構造ハ靜息時ニ於テ其周圍身長ノ半ヨリ大ニシテ呼吸縮張ノ差一寸五分以上ノ者又フツチンソン氏「スピロメートル」ヲ用ユルニ於テハ二千五百立方「センチメートル」以上ノ者

○皇宮警手採用諸願書式 明治十九年六月十五日

(第一號)

薦舉書式

何府縣士族(平民)

何ノ誰

右ハ皇宮警手志願ノ者ニ有之詳細取調候處相當ノ人物ニ付薦舉仕候御檢査ノ上御採用相成度別紙書類相添此段上申候也

皇宮警察分署

皇宮警部同補

何某

(第二號)

志願書式(用紙美濃界紙)

皇宮警察本署御中

氏名

當何年何箇月

右今般皇宮警手奉職志願ニ候間御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ別紙誓約條目ノ旨確守可致萬一不都合ノ虞有之節ハ何事ニヨラス身元引受人一同ニ於テ一切負擔可仕候依テ引受人兩名連署ノ上此段奉願候以上

追テ身元引受ノ内他府縣轉住其他事故アリテ缺員相成候節ハ更ニ代人相立可申候

何府縣何國何郡何町何番地 士族
 或ハ何ノ誰何男兄弟義子伯叔甥附籍
 當時東京府何郡何町何番地(何某方寄留)
 氏名實印

當何年何箇月

右身元引受人

何府縣何國何郡何町何番地 士族
 當時東京府何郡何町何番地(何某方寄留)

皇宮警察本署御中

誓約書式(用紙美濃界紙)

誓約書

肩書前同斷

官名又ハ職業 氏

當何年何箇月

前同斷

氏

名實印

當何年何箇月

- 第一 職務規則及ヒ上官ノ命令謹テ遵守スル事
- 第二 正當ノ事由ナク奉職五箇年未滿ニシテ決シテ辭職セサル事
- 第三 公務ノ傍「ボンブ」及ヒ文武技ヲ講習スル事
- 第四 職務上權外ノ事ヲ論議セサル事
- 第五 濫リニ金錢ヲ借用シ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ義決シテ爲サ、ル事
但從前ノ借財滞リ等一切コレナキ
- 第六 飲酒ヲ爲シ又ハ遊惰放蕩決シテ爲サ、ル事
右之條々確守可致事

何府縣何國何區何町何番地「何某方」寄留
或ハ何ノ誰何男兄弟養子伯叔甥附籍
士族
平民

年月日

(第三號)

履歷書式(用紙美濃界紙)二通

履歷書

- 一 明治何年何月日官院省府縣警視廳何々(官名月俸何掛等)拜命
- 一 同何年月日何々へ轉任又ハ掛替
- 一 同何年月日何々ノ廉ヲ以テ何賞下賜
- 一 同何年月日何々ノ廉ヲ以テ何罰ヲ被ル
- 一 同何年月日何々ニ付依願免職或ハ被免以下之ヲ做フ

右相違無之候也

當時東京何區何町何番地「何某方」寄留
氏 止宿
名實印

年月日

(第四號)

引受代人届書式(用紙美濃界紙)

何府縣何國何區何町何番地 士族
或ハ何ノ誰何男兄弟養子伯叔甥附籍 平民
氏 名實印

氏

名實印

私儀

第六類 警察及取締

身元引受人何府縣士族何ノ誰何府縣へ移轉(或ハ死亡)致候ニ付何府縣士族何ノ誰ヲ身元引受人ニ相立申候依テ此段御届申上候以上

皇宮警察本署詰

皇宮警手

氏

名實印

年月日

(第五號)

引受人立替證書式(用紙美濃界紙)

何府縣士族

氏

名

右ノ者身元引受人何府縣士族何ノ誰ニ有之候處今般何府縣へ移轉(或ハ死亡)致候ニ付私義右引受人ニ相立申候然ル上ハ同人奉職中誓約ノ趣謹テ可相守備保証仕候萬一本人不都合ノ儀有之節ハ何事ニヨラス私引受相辨シ可申若シ旅行或ハ他府縣へ移住ノ節ハ更ニ引受人相立可申候以上

右身元引受人

何府縣何國何區何町何番地士族

氏

名

當時東京府何區何町何番地何某方寄留

氏

名實印

官名又ハ職業

當何年何箇月

年月日

殘壹名ノ受人連署ノ事

皇宮警察本署御中

(第六號)

他向奉職ノ者皇宮警手へ採用ノ節引受人證書式(用紙美濃界紙)

何府縣士族

氏

名

右ハ今般皇宮警手へ御採用ニ付テハ別紙誓約ノ趣謹テ確守可致萬一本人不都合ノ儀有之節ハ何事ニヨラス身元引受人ニ於テ一切相辨シ可申若シ旅行或ハ他府縣へ移住等致候節ハ更ニ引受人相立可申候以上

何府縣何國何區何町何番地士族

氏

名

或ハ何ノ誰何男兄弟養子伯叔甥附籍

當時東京府何區何町何番地何某方寄留

氏

名

皇宮警察本署詰

皇宮警手

氏

名實印

右身元引受人

同上

當時東京府以下同上

官名又ハ職業

氏

名實印

當何年何ヶ月

肩書前同職

同上

氏

名實印

當何年何ヶ月

皇宮警察本署御中

誓約書履歷書共前書式ニ準ス

(第七號)

陸海軍兵役ニ服セシ者履歷書式(用紙美濃界紙)ニ通

履歷

何府縣何族或ハ平民

元(近衛)(何鎮臺) 何兵第何隊付

(教導團) 官名(兵卒)兵卒中何營所詰

改名ノ者
何某事

氏

名

元何現兵隊等
何

一明治何年月日第何軍營徵兵教導團生徒元何番第何徵集或ハ何々トシテ

元何現兵隊等
何

兵第何隊へ編入

一同何年何月日何隊へ轉ス或ハ任何官

一同何年何月日滿期解除或ハ何々ニ依リ

免本官
除隊

但後備軍へ編入ノ有無

右相違無之候也

何府縣何國何區何町何番地
或ハ何ノ誰何男兄弟養子伯叔甥附籍

士族
平民

氏

名實印

當何年何ヶ月

(第八號)

履歷ナキ書式(用紙美濃界紙)

私 談

是迄奉職仕候儀一切無之候事

何府縣
士族
平民

氏

名實印

當何年何ヶ月

年 月 日

(第九號)

本籍身分證書式

何府縣何區何町何番地族籍

戸主(又ハ)二三男養子

何

某

當何年何ヶ月

生年月日

年號

支何年何月何日生

第六類 警察及取締

兵 役	有アル片ハ徵兵令及ハ豫備後備等ノ兵役ヲ記スヘシ
罰 科	同アル片ハ其罪名等ヲ記スヘシ
身代限	同アル片ハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヲ記スヘシ

年月日 右何 其實印
右ノ通相違無之ニ付與印候也

○皇宮警手志願人薦舉手續

何府縣何郡區長 何 某印
十九年六月十五日
宮内省達

- 第一條 皇宮警手志願ノ者アル片ハ皇宮警部ハ第二第三第九號書式ノ書面ヲ出サシメ第一號書式ノ薦舉書ヲ添ヘ皇宮警察本署ニ差出スヘシ(書式總テ略ス)
- 第二條 身元引受人ノ内轉住其他事故アリ缺員ノ節ハ更ニ相當ノ者ヲ代補セシメ直ニ第四號第五號書式ノ書面ヲ徵收シ之ヲ該所ニ保存スヘシ
- 第三條 他向奉職ノ者ヲ採用ノ節ハ第六號書式ノ書面ニ誓約書履歷書ヲ副ヘ差出サシムヘシ
- 第四條 陸海軍兵役ニ服セシ者ハ別ニ第七號書式ニ照シ履歷書差出サシムヘシ
- 第五條 曾テ官衙ニ奉職セシナキ者ハ第八號書式ノ書面ヲ差出サシムヘシ

○皇宮警手辭職及親看護歸省願手續

十九年六月九日
皇宮警察局長達

皇宮警手辭職及親看護歸省願手續左ノ通定メタル旨皇宮警察長官内盛高ミリ皇宮警察分署ニ達シタリ

- 一 皇宮警手ハ五年奉職ノ誓約ヲ遵守スヘキ規程ニ付罹病勤務ニ堪ヘス又ハ官ヨリ免職スル者ノ外ハ右年限内ニ辭職スルヲ許サス若シ萬止ムヲ得サル場合ニ於テハ親族且身元引受人連署シ郡區戶長ノ與書ヲ受ケ出願スヘシ
- 一 親看護歸省願モ郡區戶長ノ與書ヲ請クヘシ
- 但當府下ニ於テ看護出願ノ向ニシテ申實明白ナル者ハ郡區戶長ノ與書ヲ要セス

第二十六章

警視廳官制

明治十九年五月四日
勅令第四十二號

- 第一條 警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク
警視總監 一等警視 二等警視 三等警視
四等警視 五等警視 風 警部 警部補
- 第二條 警視廳ニ左ノ警務官ヲ置ク
警察局長 警察副局長 警察醫
- 第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク
消防司令長 消防司令副長 消防司令 消防司令補 消防機四士
- 第四條 警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置ク
典獄 副典獄 書記 看守長 看守副長
- 第五條 總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ東京府下ノ警察

二十二年
四月四日
勅令第二十號
改正

消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス

第六條 總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ内閣總理大臣ノ指揮ヲ受ケ其各大臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ受ケ

第七條 總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事所掌ノ事務ト交渉スルモノハ府知事ト協議ヲ經連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條 總監ハ署部ノ官ニテ監督シ委任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第九條 總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及戶長ヲ指揮ス

第十條 總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ局本署部及方面ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ委任官ヲ増加スルコトヲ得ス

本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其應限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十二條 總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 總監ハ每會計年度末ニ於テ判任官以上使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ依リ使

用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 總監ハ一周年末ニ其應ノ豫算定額内ニ於テ委任官以下特別ノ勳勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其委任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行スヘシ

第十五條 總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ署部官吏ヲ懲戒ス其委任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ職務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 副總監ハ一人委任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルハ内務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條 警視ハ委任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ受ケ局又ハ署ニ就キ其主務ヲ掌理ス

第十九條 屬ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル上官ノ指揮ヲ受ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條 警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ受ケ所屬ノ警部補及巡查ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ從事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條 警察局長ハ委任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ受ケ警察ニ關スル警務ヲ掌理ス

第二十二條 警察副局長ハ委任五等又ハ六等トス局長ノ職掌ヲ佐ク局長事故アルハ

總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條 警察醫ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル醫長ノ命ヲ受ケ診療分解剖等ニ從事ス

第二十四條 消防司令長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ受ケ消防本署ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス

第二十五條 消防司令副長ハ奏任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ佐ク司令長事故アルルハ總督ノ命ヲ受ケ之ヲ代理ス

第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ受ケ消防組ヲ指揮監督ス
消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク

消防機關士ハ判任トス蒸氣唧筒ノ運用ヲ掌ル

第二十七條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ受ケ未決已決各囚監獄ヲ管理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス

第二十八條 副典獄ハ判任トス三等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故アルルハ總監ノ命ヲ受ケ之ヲ代理ス

第二十九條 書記ハ判任トス六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ書記簿記及計畫ニ從事ス

第三十條 看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ受ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス
看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

本條全上

第三十一條 警部警部補消防司令消防司令補看守長消防機關士看守副長ノ官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ増減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別増俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依ル

第三十二條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計局警察本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク

第三十四條 各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

第三十五條 局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ事務ヲ指揮ス課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ受ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ受ケ主務ニ従事ス

局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルルハ總監ノ命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス

第三十六條 各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ本署長事故アルルハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第六編 警察及取締
二十九

第三十七條 部ニ部長副部長一人ヲ置キ醫務官ヲ以テ之ニ充テ但部長アレハ副部長ヲ置カス副部長アレハ部長ヲ置カサルコトアルヘシ
 部長及副部長ハ總監ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルルハ總監ノ命ニ依リ副部長其職務ヲ代理ス
 第三十八條 局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部ニ就テ之ヲ定ム
 第三十九條 書記局ニ職員課文書課往復課及記録課ヲ置キ本局ノ庶務ヲ分掌セシム
 一、職員課ハ本局職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル
 二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スル事ヲ掌ル
 三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌ル
 四、記録課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル
 第四十條 書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム
 第四十一條 第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム
 一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル
 二、第二課ハ演藝遊藝場遊藝場遊藝場章祭典葬儀賭博官職其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル
 三、第三課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採礦

ニ關スル事ヲ掌ル
 第四課ハ人命損傷群集喧嘩銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船流遺失物埋藏物ニ關スル事ヲ掌ル
 五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫料藥品家畜屠場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル
 第四十二條 第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム
 一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル
 二、第二課ハ失踪者風癩者癩兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル
 第四十三條 第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル
 第四十四條 會計局ニ出納課檢査課及用度課ヲ置キ本局及所轄局ノ會計營繕用度ニ關スル事務ヲ分掌セシム
 一、出納課ハ本局及所轄局ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整理及計簿表調整ノ事ヲ掌ル
 二、檢査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ檢査スル事ヲ掌ル
 三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切需用品ニ關スル事ヲ掌ル
 第四十五條 警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏查察警備及警備ノ事ヲ掌ル

第六類 警察及取締

警察本署ニ事務員ヲ置ク警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ
 事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス
 第四十六條 府下警察事務ヲ監督スル爲メ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分子須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク
 第四十七條 各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ
 第四十八條 方面監督ハ總監又ハ本署長ノ命ヲ承ケ主任方面内ヲ巡廻シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下ヲ指揮スルコトヲ得
 第四十九條 警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ事務ノ繁簡ニ從ヒ三等以下ノ警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
 第五十條 署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ受ク署長事務アル片ハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス
 第五十一條 醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分拆其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル
 第五十二條 消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル
 各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム
 分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ
 第五十三條 監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置キ其管轄ニ屬セシム
 分署ニ長一人ヲ置キ典獄又ハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

○警視廳官月俸表并ニ服制徽章

列 任 官

官	一	等	一	等	二	等	三	等	四	等	五	等	六	等	七	等	八	等	九	等	十	等
警部	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓
消防司令	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓
看守長	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓
消防機關士	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓
警部補	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓	三拾五圓
消防司令補	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓	二拾五圓
看守副長	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓	一拾五圓

○太政官達第五十八號明治十八年十月十九日
 明治十四年(十二月)第百六號達警視總監以下正帽正服制表申巡査長以下左ノ通改正ス

帽	章	襟	章	袖	章	袴	章	鈕	卸	地	色
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第六類 警察及取締

二十二年九月十四日
 警部令第十一號
 五月二十一日
 追加
 字號又ハ以テ

警部	前軍日章 銀三分一條 五分一條 銀五分一條 金日章紺 里
警部補	同 同 同 同 同 同
消防司令	警部ニ同シ
消防司令補	警部補ニ同シ

雛形總テ畧ス

○警視廳巡查服制

明治十四年
 太政官第百七號通改正

警視局巡查從前ノ禮服ヲ廢シ當冬季ヨリ制帽制服左ノ通改定禮服ニ兼用セシム

巡查制帽制服表

帽	同	徽章	服	ト	衣	袴	同	地	卸
紺 紗 羅	前日章白銅 橫線黃一分 四條	無	無	無	無	無	冬紺羅紗又 ハ小倉夏白 雲齋	同	同
									具 餘 日 章

雛形畧ス

第二十七章

地方警察官職制並服制徽章

明治十九年七月十二日
 敕令第五十四號ノ内

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人委任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ受ケ左ノ職務ヲ掌ル

一 管内高等警察ノ事

二 管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事

三 管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事

四 管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事

第二十九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ受ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一、部トシ警部長ヲシテ其長ニ充テ部中課ヲ設ケ第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム

第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ

- 配置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ履行ヲ監督ス其項目左ノ如シ
- 一、諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項
 - 二、演藝遊觀場遊藝場遊藝場徵章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項
 - 三、船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田圃漁獵深藻ニ關スル事項
 - 四、人命瘡傷群集喧嘩銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺失物埋藏物ニ關スル事項
 - 五、傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫藥藥品家畜場屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項
 - 六、諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スル等ニ關スル事項
 - 七、失踪者瘋癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項
 - 八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關スル事項
- 第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長叔稅長郡區戶長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ受ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ス片ハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

○服制徽章

十八年十月二十日 內務省第三十四號

警部長警部警部補制服ノ義ニ付明治十五年(四月)乙第二十四號達相應シ更ニ製式左ノ通相定ム

但明治十九年十二月迄ハ従前ノ制服ヲ用ユルモ苦シカラス 右相達候事


警服表圖

警部長	金日章徑 一寸五分	帽	章	袖章	袴章	鈕	卸服	色	服質
	橫線黑毛絨 五分一條 二分二條								

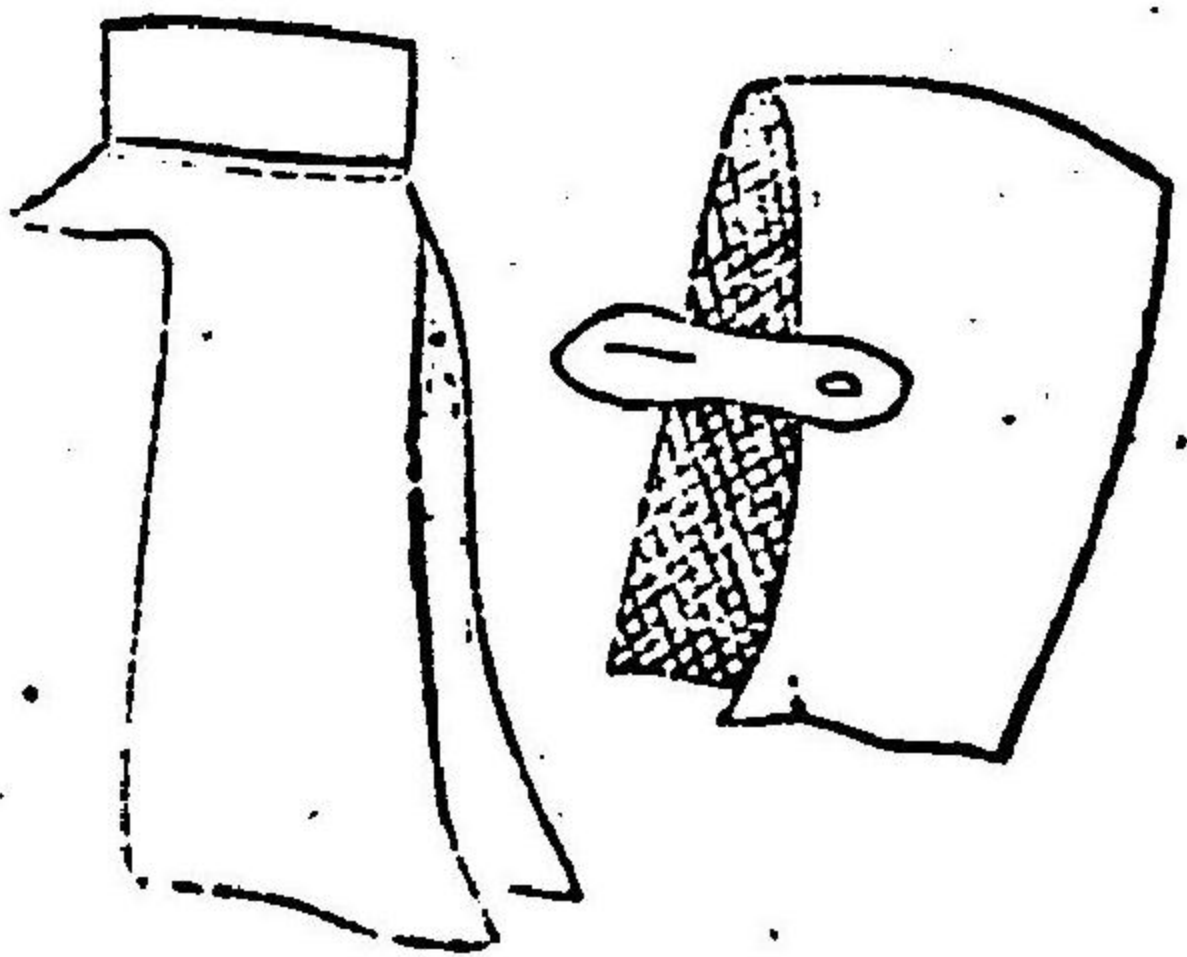
後 面



帽




白 覆 日 覆 雨



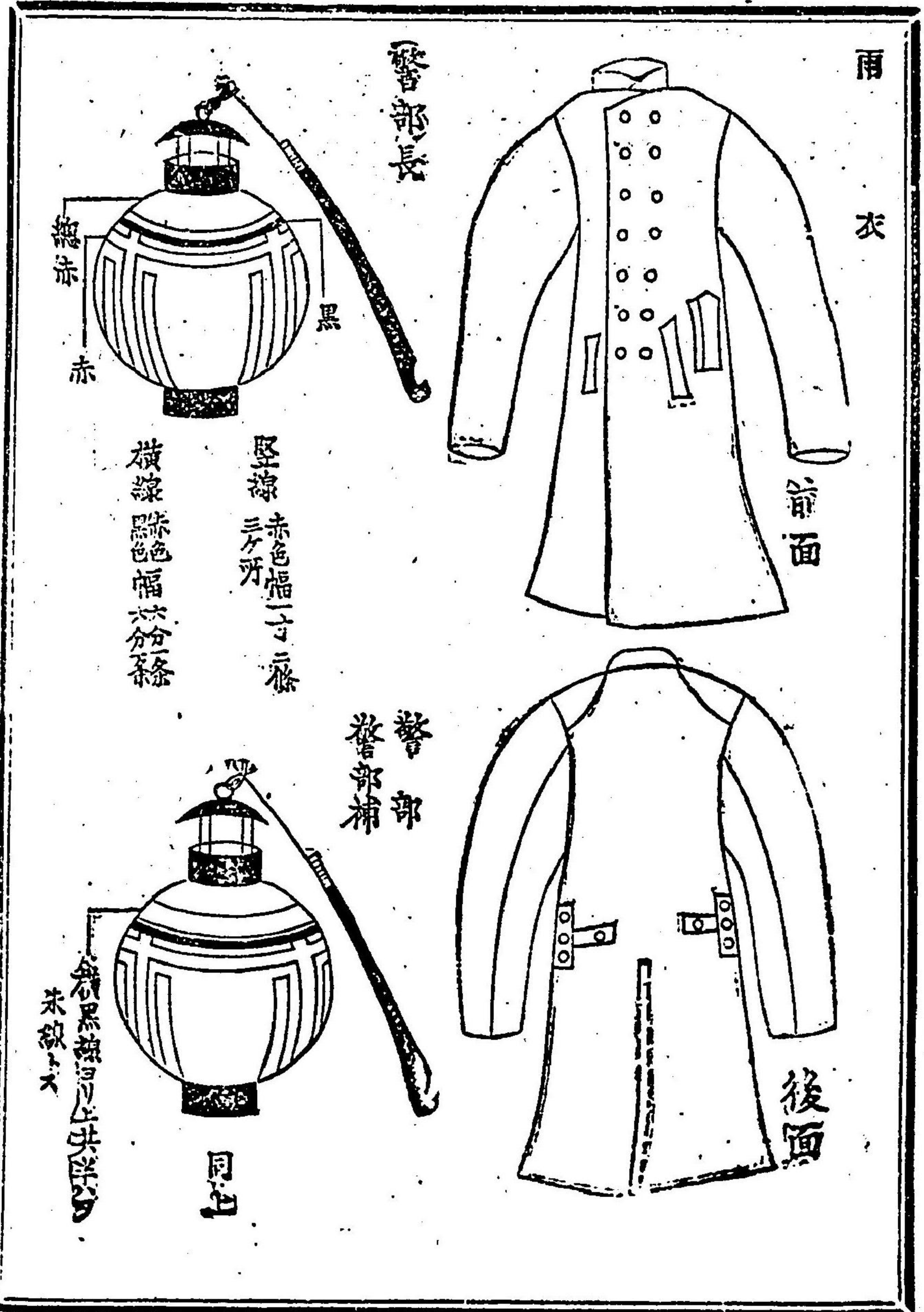
凡 例	無 徽 章	外 套	同	卸	同 地 質	帽	日 雨 覆	同 地 質
外 套 ハ 丈 ケ 踵 上 五 寸 後 袷 ケ 股 上 二 寸 止 ル 但 シ 便 宜 黒 紺 地 引 廻 シ 合 羽 子 以 テ 之 ニ 代 用 ス ル ナ 得 其 丈 ケ ハ 手 ナ 垂 下 シ テ 手 根 ニ 至 ル ナ 度 ト ス	金 日 章 <small>但 其 數 圖 ノ 如 シ</small>	同	同	紺 黒 絨	無 徽 章	日 覆	雨 覆 紺 黒 絨	同
	警 部 長 警 部 外 套 并 帽 雨 覆 表 同 圖							

前 面 雜 形



袴

凡 例	警 部 補	警 部	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同
一 警 服 ハ 總 テ 平 常 執 務 ノ 際 着 用 ス ル モ ノ ト ス 一 通 常 着 服 ニ 換 用 ス ル ナ 得	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同	同 同
	同 二 條	同 二 條	同 二 條	同 二 條	同 二 條	同 二 條	同 二 條	同 二 條
				黒 毛 線 但 線 數 總 テ 帽 章 ニ 同 シ	ナ シ	金 日 章	紺 黒 但 夏 季 ニ 限 リ 白 地	絨
							モ シ 且 袖 章 ス 同 色 ト	



第二十八章 行政警察規則

明治八年三月七日 警部補

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕口吏取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ巡查ト改稱可致此旨相達候事八年四月十三號公達ヲ以テ但捕口費ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所並吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行致事情之有向ハ其段内務省ヘ可申出事

(別冊) 行政警察規則

第一章 警察職務之事

- 第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ
- 第二條 各府東京府ヲ除ク縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム八年第二百六號公達ヲ以テ全條改正
- 第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
 - 第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
 - 第二 健康ヲ看護スル事
 - 第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
 - 第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索豫防スル事
- 第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルハ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フハ掄事章程並司法警察規則ニ照ス

ヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ覆ク可ラス且一巳ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可ラス八年第二百六號公達ヲ以テ第五條六條七條ヲ削除シ第八條ヲ第五條トス

第二章 警部勤務ノ事全上本章ヲ增補ス

第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保順ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルヲ得ヘシ

第六條 達又ハ訊問等ノアルニ付テハ勅諭官及ヒ華族有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方之事全上第二章ヲ三章トス

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フルハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持區内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戶長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持區内ノ戶口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無產體ノ者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルルハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持區内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ

但シ右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若已ムヲ得サルアルハ自ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ通知スヘシ全上員トアルハ(警部)ト改ム以下皆全シ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ニ報知スヘシ

第九條 非番タリテ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルルハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

- 第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ
- 第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルハ警部ニ報告スヘシ
- 第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラル、ハ丁寧ニ教示スヘシ
- 第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之ヲ警部ヘ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持區内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ
- 第十五條 芝居其他群衆ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ
- 第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ヘシ
- 第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其他ノ戸長ニ引渡スヘシ
- 第十八條 路上狂瀨人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ
- 第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ
- 第二十條 道路河渠ニ死屍アルハ其模樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ
- 第二十一條 獸畜ノ死骸アルハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ
- 第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ贗造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ検査スヘシ

- シ
- 第廿三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ
- 第廿四條 怪キ者ヲ見認ルハ取糺シテ様子ニ依リ持區内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラス
- 第廿五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勸ムヘシ消防人ハ已ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ
- 第廿六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ
- 第四章 巡查心得之事全上第三章ヲ四章トス
 - 第一條 専ラ行儀作法ヲ正クシ威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケザル様可心掛事
 - 第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決ノ職外ノ事ヲ議スヘカヲサル事
 - 第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事
 - 第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事
 - 第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ
八年第四十七號公達ヲ以テ(往來)ナ加ヘ手荒キ處置致間敷事(上(市中)ノ二字ヲ刪除)

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル領ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レタ
 ヲ敷儀決テ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持區内ニテ金銀等贖入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又婦女ヘ對シ戯ケ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ箇ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ警部ヘ具申スヘキ
 事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大
 切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人アリテ手
 ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコトアリト雖モ必ス恥辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ
 相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ争鬭ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシ金銀物品ヲ受ルコト有可ラサ

二十二年九月
 月令第三
 十五號ヲ以
 テ抄又ハ以
 テ四字追加

ル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜踏スヘカラ
 サル事

第十九條 毎朝衣服冠物其他器械ヲ検査シ常ニ見苦シカラザル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

○巡查服制徽章

明治十八年十月十九日
 太政官第五十九號達

明治十七年(一月)第十二號達警部長以下正帽正服制表中警部以下徽章及ヒ明治十三年
 (十二月)第六十五號達府縣巡查制帽制服表中左ノ通改正ス

巡查制帽制服表

帽	同	徽章	服	衣	袴	同	地	卸
一分線	黃	前日章	白銅	無	徽章	冬紺羅紗又ハ 小倉夏白小倉 又ハ雲霧	具餘	日章

○太政官第三十三號 明治十年三月六日達
 巡查用小丸提燈記載方
 別紙ノ通改正候

巡査用燈



地名發音警察署或地警察署地名令集有

○警察上外國人取扱規則設施スヘキモノ稟議方

明治十四年一月三十一日
内務省乙第五號警視廳府縣東京府・除クヘ

警察上外國人取扱規則設施ノ次第有之ニ付將來設施スヘキモノハ勿論既ニ設施ノ分ト雖モ至急取調更ニ當省ヘ稟議可致此旨相達候事

○巡查召募方

明治十六年三月十七日
内務省乙第拾壹號警視廳府縣(東京府ヲ除クヘ)

明治八年(十二月)當省乙第百六拾八號達中巡查召募規則並檢査表名簿式相應候條巡查召募方ハ各廳ニ於テ適宜ノ方法ヲ設ケ將來警察上ニ障害ヲ生セサル様注意取計ヘシ此旨相達候事

但本文適宜ノ方法ヲ取設ケタル節ハ當省ヘ届出ヘシ

○警察賞與規則

二十一年十月十二日
内務省訓令第二十一號府縣

警察賞與規則左ノ通相定ム

警察賞與規則

第一條 警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス

第二條 警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 金三圓以上拾五圓以下

乙種 金五圓以下

特別賞 金拾五圓以上三拾圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ殊ニ著明ナルモノニ限り之ヲ給スルコトヲ得

第三條 犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 左ノ罪犯ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一 國事ニ關スル重罪犯 二 兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三 貨幣偽造變造ニ關スル重罪犯 四 人命ニ關スル重罪犯

五 放火ニ關スル重罪犯 六 強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一 貨幣偽造變造ニ關スル輕罪犯 二 竊盜ニ關スル罪犯

第二項 前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項 第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一項ニ掲クル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上拾圓以下甲種ハ五圓以上貳拾圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項 前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコトヲ得

第五項 前數項ニ該當スルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ甚キモノ若クハ金圓ヲ賞與シ難キ事情アル者ハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條 水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條 罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條 賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條 本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一罪犯ニ付テノ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキハ之ヲ賞與スルニハ一事件若クハ一罪犯ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當給與スヘシ

第八條 功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナキトキハ戸長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ其所在不分明ナルトキハ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ三十六ヶ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ施行セス

第九條 公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞ヲ與ヘス

第十條 自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條 罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得ス

第十二條 第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ云フ

第十三條 巡查ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞ヲ與フルコトヲ得

第一項 第三條ニ掲クル罪犯ヲ捜査シ又ハ捕獲シ功勞著シキ者

第二項 前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項 第四條ニ掲クル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項 自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第六類 警察及取締

ノハ賞與スルコトヲ得ス
 護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ
 第十五條 巡查私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ
 第十六條 巡查ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡查ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ
 第十七條 本則第七條乃至第十一條ハ巡查ノ賞與ニ付テハ亦之ヲ適用ス
 第十八條 巡查ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ施行スヘシ
 第一項 訴ヲ受タル地ノ管轄廳
 第二項 罪犯ヲ最初ニ受取タル他ノ管轄廳
 第三項 犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳
 第十九條 賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ經シ其金額ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其廳ニ於テ賞與スヘシ
 第二十條 警部其他警察事務ニ從事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡查ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得
 第二十一條 特別賞與ヲ行フタルトキハ其都度狀ヲ具シ報告スヘシ(二十二年一月十六日內務省訓令第二號ヲ以本條改正)

第二十二條 賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

○甲乙兩縣ノ巡查戮力犯人ヲ捕拿ノトキ賞與處分方

明治八年十一月十五日
內務省乙第百五拾號府廳へ達

甲縣ニ於テ犯人ヲ捕拿スルニ其連累乙縣ニ潛匿ス依テ乙へ依頼シ乙ノ巡查之ヲ探偵捕拿セハ其功勞ハ乙縣廳ニ於テ賞與スヘク若シ甲乙兩縣ノ巡查戮力捕拿スルトキハ其本犯甲乙ノ關係ヲ不論各自ノ廳ニ於テ賞與可致此旨相達候事

○巡查持區內巡回ノ節旅籠料賚賄料定方

明治九年(三月)當省乙第三十九號達巡查持區內巡回ノ節旅籠料賚賄料ノ金額ハ自今各地方ノ適宜ニ相定不苦候條此旨更ニ相達候事

○巡查看守給助例

明治十五年七月十七日第四拾號府廳
府廳(東京府)神戶府廳(神戶府)四縣ヲ除クヘ達
巡查看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年(一月)第三號達并九年(八月)第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候儀ト相心得ヘシ

(別紙)

巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助傷殘給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ

- 一 退職給助 勤続^{過半ヨリ}看守^ニ看守^{ヨリ}滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス
- 二 傷痍給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス
- 三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痍ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 四 療治料 職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者之ヲ給ス
- 五 祭祀料 奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條 退職給助ノ額

- 一 勤続滿五年ノ者ハ一時金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
- 二 勤続滿十年ノ者ハ年金貳拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

第四條 傷痍給助ノ額

- 一 一等傷^{終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者}ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 二 二等傷^{終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者}ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セス
 - 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
 - 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第六條 療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス
- 第七條 祭祀料
- 一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
 - 二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス
- 一 公權ヲ剝奪セラレタル者
 - 二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

○憲兵職掌中行政警察事務規程

明治十四年十月二十五日內務省乙第五拾貳號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

別紙

憲兵本部

行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相達候事

明治十四年十月二十二日

內務卿山田顯義

別紙

行政警察事務規程

第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ其事務ヲ大別シテ左ノ

四項トス

一 人民ノ妨害ヲ防護スル

二 法章ノ遵奉ヲ觀察スル

三 健康ヲ看護スル

四 國事ニ關スル犯罪ヲ未萌ニ搜索警防スル

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス

可ラス

第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察專務官吏其場ニ臨ミタルハ其處

分ヲ專務官吏ニ讓ルヘシ

○司法警察ニ關スル細則ヲ設ントスルトキ檢事ニ協

議セシム

十九年四月三十日
司法省訓令第一號警視廳北海道府縣(東京府ヲ除ク)

爾後各地方ノ便宜ニ基キ司法警察ニ關スル細則ヲ設ケントスルトキハ其地始審裁判所
檢事ト協議ノ上告達スヘシ
右訓令ス

○警察官吏禮式

十九年九月二十七日
內務省令第十八號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察官吏禮式

第一條 警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第二條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ正シ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第三條 禮式ヲ別ツコト左ノ如シ

一 最敬禮 二 敬禮

第四條 最敬禮ハ五步前ニ於テ正面ノ方向ヲ取りテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩手ヲ垂下シ首
ヲ禮式ヲ受クヘキ人ニ對向シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ注目スヘシ

警部補以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クヘキ人ノ正面ニ來リタルトキ右手ヲ舉
テ帽ニ當ツヘシ

第五條 敬禮ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ對シ五步前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ
整閉シ其第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ニ注目スヘシ

第六條 警部補以上ハ 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フヘシ
馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取り馬ヲ駐メ禮式ヲ行フヘシ道路狹隘ニシテ之ヲ爲

シ得ヘカヲサルトキハ極ヲ縮メテ馬首ヲ擧ケ通過ノ際右手ヲ擧ケ帽ニ當ツヘシ
 内閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニテ
 ハ所屬ノ知事並ニ上班ノ警察官ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ
 第七條 巡查ハ 天皇三皇后皇太子皇族内閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テ
 ハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事ニ對シテ最敬禮ヲ行ヒ其他上班
 ノ警察官ニハ敬禮ヲ行フヘシ
 第八條 本邦駐在ノ各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ警部補以上ニ在テハ敬禮ヲ
 行ヒ巡查ハ最敬禮ヲ行フヘシ
 第九條 物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人ニ行達フタル
 際之ニ注目シ若シ一手ニ携帶スルトキハ他ノ一手ハ之ヲ垂下スヘシ
 第十條 駐立スル際禮式ヲ受クヘキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取り其儘兩手ヲ
 垂下シ直立スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ
 第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ
 禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ
 第十二條 同班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ
 第十三條 警備消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ從事スルトキハ禮式ヲ
 行フノ限ニアラス

○警察官吏禮式心得

十九年九月二十七日
内務省訓令第十九號

第一 警察官吏タル者ハ其上官ニ對シテ從順ナル可キハ勿論之ニ對シテ禮讓ヲ盡サ、ル可
 カラス上官タル者亦言語ハ勿論舉動ニ於テモ決シテ下級ノ者ヲ凌侮シ又ハ之ト狎暱
 スヘカラス
 第二 一般ノ官吏ニシテ公務ヲ帶ヒ其管内ヲ巡回スル等ノ事アルハ場合ニヨリ適宜
 之ニ對シテ禮式ヲ行フアルヘシ
 第三 禮式ヲ行フニハ如何ナル場合ト雖モ其禮式ヲ受クヘキ人ヲシテ其禮ヲ轉回スル
 等ノ勞ナカシメ之ニ對シテ常ニ便利ヲ讓ルハ下班ノ者ノ上官ニ對シテ從順ナル義務ナ
 ルヲ以テ途上上官ニ出會シタルハ其宜シキニ應シ右又ハ左ニ避クヘシ殊ニ狹隘ノ
 道路及橋梁廊下階子段等ニ於テハ立止マリ上官ノ通行ヲ待ツヘシ若シ如斯場所ニ於
 テ下班ノ者既ニ進行中ナルハ立戻リ上官ヲシテ已カ通過ヲ待タシメサル様注意ス
 ヘシ
 第四 禮式ヲ行フ際ハ決シテ喫煙又ハ談笑等ヲ爲スヘカラス
 第五 城門橋梁及狹隘ノ道路ニ於テ最敬禮ヲ行ハントスルニ方リ通行人ノ妨トナルノ
 恐レアルハ敬禮ヲ行ヒ最敬禮ヲ行フニ及ハス其他樣式ヲ受ク可キ人合圖ヲ爲シ又
 ハ其他ノ擧作ニ由リ最敬禮ヲ停メタルハ亦同様タルヘシ
 第六 下班ノ者上官ト同行スルハ常ニ二三歩ノ後ニ從フヘシ上官若シ已レニ對シテ談
 話セルハ其左側ニ副ヒ上官ト足並ノ違ハサル様注意ス可シ

但左側ニ副フ片ハ上官ヲシテ不便利ナラシメ又ハ危険ナラシムルノ恐レアル片ハ其宜シキニ應シ右側ニ副フヘキモノトス

第七 下班ノ者途上ニ於テ上官ニ出會シ申告ヲ爲サントスル片ハ凡ソ其三步前ニ進ミ直立シテ申告スヘシ上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルコトヲ示シタル片ハ下班ノ者ハ上官ノ左側ニ副ヒ同歩シテ其申告ヲ爲スヘシ

但左側ニ副ヒ上官ヲ不便利又ハ危険ナラシムルノ恐レアル片ハ前項但書ノ例ニ同シ

第八 上官他人ト談話スル片ハ成ル可ク之ヲ妨ケサル様注意シ此際自ラ申告セント欲スルコトアルモ先ツ暫ク差シ扣ヘ談話ノ終ルヲ待テ申告スヘシ

第九 上官ト同歩スル際家屋若クハ室内ニ入ラントスル片ハ下班ノ者其戸ヲ開キ先ツ上官ヲシテ之ニ入ラシムルハ勿論ナリトス

第十 警部補以上ニ在テ官署室内ニ入ル片ハ帽ヲ脱スヘシ但下班ノ者ノ室内ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ケナシ

第十一 巡查帶劍シテ室内ニ入ル片ハ帽ヲ脱ス可カラズ其劍ヲ帶セサル片ハ脱帽スヘシ

第十二 下班ノ者上官ノ室内ニ入ル片ハ其入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ

第十三 室内ニ於テ上官ニ申告ヲ爲ス片ハ其三步前ニ進ミ警部補以上ニ在テハ劍ヲ左手ニ握シ帽ヲ右手ニ持テ帽ノ裏面ヲ體ニ着ケ徽章ヲ前面ニ向ケ直立ス可シ巡查ニ在

テハ劍ヲ左手ニ握シ右手ハ垂下スヘシ申告終リタル片ハ徐ロニ左回シ舊席ニ復ス可シ上官ノ招呼ニ應シタル片亦同シ

第十四 室内ニ於テ公務ヲ談スル片ハ下班ノ者上官ノ許可ヲ得ル片ハ着席スルヲ得ヘシ第十五 上官物品ヲ下班ノ者ニ交附スルニ際シテハ二歩前ニ進ミ右手ヲ以テ之ヲ受クヘシ下班ノ者上官ノ物品ヲ呈スル片亦同シ

第十六 途上ニ於テ上官ノ答禮ハ舉手スヘキモノトス下班ノ者ハ假令上官ノ答禮ナシト雖モ決シテ已テ輕侮シタリトノ念ヲ懷ク可カラス

第十七 凡ソ禮式ニ上班ト稱スルハ巡查ノ警部警部補以上ニ於ケル警部補ノ警視以上若クハ警部長ニ於ケルカ如シ

第十八 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタル片之ニ答禮スルハ勿論ナリトス

○巡查ニ帶劍セシム 十五年十二月二日 第六十三號府令ニ依リ

○巡查帶劍心得

十五年十二月二十二日

今般第六十三號ヲ以テ巡查ニ帶劍セシムル義公達相成候ニ付テハ左ノ二項可心得此旨相達候事

但調製費用ハ警察費ヲ以テ支辨ス可シ

一 劍ハ日本刀ニシテ製作及ヒ革帶ハ圖ノ如シ

一 帶劍者ハ明治八年第二十九號公達行政警察規則第四章第十五條ノ旨趣ニ基キ尙ホ一

層慎重シ兇賊逮捕ノ際ト雖モ不得已場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得ス
(圖略ス)

○更ニ巡查帶劍心得方ヲ達ス 十七年一月二十一日
内務省乙第三號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達
明治十五年當省乙第七十一號ヲ以テ巡查帶劍者不得已場合ニ非サレハ拔劍スルヲ得サ
ル旨相達置候處尙ホ左ノ各條ノ通可相心得此旨更ニ相達候事

但第一條ノ場合ニ非ラスシテ傷害スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ法衙ノ處分ニ
付スヘシ

巡查帶劍心得方

第一條 帶劍ハ左ノ場合ノ外拔劍スルヲ得ス

一 兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲シ拔劍スルニ非サレハ保護スルニ備ナ
キ

一 暴行人兇器ヲ持シ拔劍スルニ非サレハ防禦スルニ備ナキ

一 犯罪人逮捕ノ片又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非サレハ防
禦スルニ備ナキ

第二條 前各項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ摸樣アルニ於テハ穩ニ取押
フヘシ

第三條 不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ關係ナキ者ニ負傷セサル様深ク注意スヘシ

第四條 拔劍シタル片ハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ハラズ其景況ヲ速ニ所屬長ニ具申ス

ヘシ

○巡查看守給助例施行規則

十九年二月二十六日
内務省甲第七號府縣(東京府及沖繩縣ヲ除ク)へ達

明治十五年(七月)第四十一號公達巡查看守給助例ノ儀未タ施行セサル地方モ有之候處
明治二十年度ヨリ施行スヘシ

○巡查看守休暇概則

十八年七月三十日
内務省番外警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相達候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事

巡查看守休暇概則

第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サ、ルヘキモノナレバ其
勤務上差支ナキニ於テハ省勤者ニ限り特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與ルコトヲ得

第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ
休暇日數

一ヶ年間省勤ノ者

三週間

半ヶ年間省勤ノ者

壹週間

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス

第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

○警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員内國旅費概則

十九年六月二十六日
内務省令第十一號警視廳府縣集治監留置監

警察官吏司獄官吏神官及等外庶雇員其他内國旅費概則左ノ通相定ム
但來七月一日ヨリ施行スヘシ

警察官吏其他内國旅費概則

第一條 警視警部長警部補ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ支給スヘシ但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅費月俸四拾圓未満及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條 警視及警部警部補ノ持區内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

警視 日當 金壹圓貳拾錢

警部補 日當 金八拾錢

第一項 十二里以上ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 六里以上十二里未満ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當半額ヲ支給スヘシ

第三項 六里以上ニ渉ル巡廻中滞在スルトキハ其滞在ノ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項 六里未満ノ巡廻ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ派出シ又ハ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ但里程六

里未満ノトキハ第四項ニ依ル

第六項 水上警察署ノ區内ハ里數ニ拘ハラス一泊毎ニ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第三條 巡査ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 巡査ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 召募旅費及免職歸國旅費給助例施行ノ時迄ハ一里毎ニ金五錢ヲ支給スヘシ但里程三里未満ハ給與セス

第三項 免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ職務上重傷ヲ受ケ又ハ官ノ都合ニヨリ免職スルモノハ支給スヘシ

第四項 職務上ニ死シ及奉職中病死スル者ハ奉職期限ニ拘ハラス歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第四條 巡査持區内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡査日當 金三拾錢

第一項 巡廻中宿泊スルトキハ其泊數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ傭入ヲ許可シタルトキハ該實費ヲ支拂フヘシ但此場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條 集治監及假留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 典獄ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ同五等旅費ヲ支給スヘシ

第六類 警察及取締

第二項 書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未満ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條 官社神官ノ旅費祭主ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ三等旅費官司權官司ハ同五等旅費彌宜主典宮掌ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第七條 看守等外吏等外御用掛雇員等ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 看守等外吏等外御用掛及雇員ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ

第三項 押丁給仕小使職工等ハ乙號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第四項 華族及從六位勳六等以上ノ士民ヲ公務ニテ旅行セシムルキハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費其他有位帶勳ノ士民同上ノ節ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第五項 一般ノ人民同上ノ節ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條 支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除クノ外總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條 地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲號表

海車	貨車	海	外車馬賃	管内車馬賃	管内日當	管内日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五拾錢	金三拾錢	金三拾錢

乙號表

海車	貨車	海	陸路	雜費	日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金三錢	金三錢	金四錢	金三拾錢	金三拾錢	金三拾錢

○北海道廳警察官吏及神官旅費 十九年六月廿六日 内務省閣令第九號北海道廳

其廳警察官吏及神官ノ旅費ハ當省令第十一號ニ據リ支給スヘシ

○巡查懲罰例改正ス 九年八月五日 内務省乙第十二號廳府廳(東京府ヲ除ク)ノ邊

巡查懲罰例別紙之通改正候條此旨相違候事 別紙

巡查懲罰例

第一條 凡職務之規則ニ違背シ及ヒ怠慢過誤アル者ハ其情狀ヲ審按シ俸給一分月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス

第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス

第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

但月俸ノ三分一ヲ過クルヲ得ス

第五條 凡官物ヲ遺失及毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

警察巡閱規則 二十年六月十一日 內務省訓令第三十六號 警察廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察巡閱規則左ノ通之ヲ定ム

警察巡閱規則

第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル紀律ノ張弛、服務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ觀察シ警察ノ實効ヲ收メシムルカ爲メニ設クルモノトス

第二條 巡閱ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在ハテ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ

第三條 巡閱官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ查閱スヘキモノトス

- 一 執行事務及其報告ノ方法
- 二 執行官吏ノ配置及警邏
- 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督
- 四 非常召集ノ方法
- 五 司法警察即チ被告人ノ搜查、逮捕、訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等
- 六 匪匪人取扱及遞傳護送
- 七 諸願伺書等ニ關スル諸文書ノ取扱
- 八 違警罪及諸規則違犯者處分
- 九 戶口調査及監視人ノ取扱
- 十 文書統計記錄ノ整理
- 十一 服裝姿勢及禮式
- 十二 教習及訓授
- 十三 會計經理及被服給與
- 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造裝置
- 十五 火災消防及器具ノ使用
- 十六 警察上緊要ノ器具

十七 集會ニ關スル取締

十八 衛生警察殊ニ傳染病撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締

十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等

二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商賣商及危險物賣買商等

第四條 巡閱官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ對スル關係若クハ過度ナル浪費ヲナスヤチ觀察スルモノトス

第五條 警察處務ニ關スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ關スル意見ヲ巡閱官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受理査閱スヘシ

第六條 巡閱官巡閱ヲ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閱中ニ係ル日誌ヲ添ヘ警視總監又ハ知事ニ復命シ警視總監又ハ知事ハ其概況ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

○巡查看守給助例中年金支給方 二十年四月七日內務省訓令 第二十三號 府縣警察廳治警備官

- 一 巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ
- 一 年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六ヶ月 六ヶ月ニ滿タサルモノハ現月數ヲ以テ計算ス 分チ支給スヘシ
- 一 年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷病ノ翌月ヨリ支給スヘシ
- 一 年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スル片ハ日割ヲ以テ支給スヘシ
- 一 年金ヲ受ケタル者死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給スヘシ

○警察官吏持區內巡回日當支給方 二十年四月十三日 內務省訓令第二十五號 府縣警察官吏ニシテ其持區内ヲ巡回スルトキ給與スベキ日當ハ特ニ其月額ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ支給スルコトヲ得

○警察及監獄備員職務上死傷セシモノノ吊祭扶助療治

料支給及支辨方

二十年九月七日 內務省訓令第四十二號 府縣集治監獄留監

警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公通ニ照準支給スヘシ

但警察備員ハ警察備監獄備員ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

○勅使参向警備方

十二年十一月十二日 內務省訓令外通

勅使参向ノ節内規別紙ノ通り候條自今宮内省ヨリ通報次第警備方可取計此旨相達候事 正式勅使参向内規

第一條 此内規ノ管スル期限ハ詔書祭文ヲ受ケ 皇居ヲ出ルヨリ復命迄ノ時間又各地方ニ於テハ其當日旅館ヲ出ルヨリ旅館ニ歸ル迄ノ時間トス

第二條 勅使并ニ隨員大禮服ヲ着用ス

第三條 詔書祭文ハ錦ノ袋ニ納テ隨員首ニ掛ケ若シ隨員ナケレハ勅使自ラ之ヲ捧持スル等ハ總テ時宜ニヨル

第四條 下乗ハ皇族下乗所ニ於テス

第五條 乗用ハ馬車又ハ騎馬タルヘシ

第六條 警備トシテ警部四騎ヲ付スニ騎前ニアリニ騎後ニアリ

第七條 途上常備ノ巡查ヲシテ一層注意セシム

○公務ニテ往復スル警察官吏及囚徒護送ノ官吏ニ瀧

車賃支拂方

二十一年二月七日 內務省訓令第二號 府縣集治監獄留監

明治二十年(五月)勅令第十二號和設鐵道條例第廿一條公務ヲ以テ往復スル警察官吏及第廿二條囚徒護送ノ官吏ニシテ半價ヲ以テ乗車スル場合ニ於テハ明治十九年(六月)閣令第十四號及同年(八月)內務省令第十一號内國旅費ニ属スル瀧車賃半額ヲ支給スヘシ

○警察及監獄報告表調製心得

十九年五月十五日 內務省令第七號

明治十六年(十二月)乙第四十八號達監獄報告表様式別紙ノ通改定ス本年一月分ヨリ本表ニ準シ報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム

(別紙) 警察及監獄報告表調製心得

第一條 第二表ヨリ第七表迄三府五港及人口五万以上ノ市街アル地方ニ於テハ府縣總數表ノ外別ニ一表ヲ製シ各港若クハ市街内ノ事項ヲ登記シテ申報スヘシ

第二條 數位ハ千位ト百万位トニ於テ各、ヲ點スヘシ

第三條 登記スヘキ事實ナキ空欄アレハ「」ヲ填寫シテ脱漏ニアラサルヲ證スヘシ

第四條 様式ニハ凡テ横線ノミヲ示スト雖モ進達ノ表ニハ縦線ヲ施スヘシ

第五條 憲兵ヲ置レタル地方廳ニ於テハ事實ヲ登記スルニ當リ憲兵本部ノ方ト重複ヲ

防クカ爲憲兵ヨリ引續キテ受タル事實ノミヲ登記シ憲兵ヘ引繼タル事實ハ登記ヲ要
 セス但引繼ヲ受タル事實ハ各其欄内ニ「X」符號ヲ付スルモノトス
 第六條 拘留ノ刑ニ處セラレタル囚徒ハ便宜警察署ニ於テ執行セシ者ト雖モ第十九、
 二十二、二十三、二十四、二十五、三十、三十一ノ七表ヘハ合記スルモノトス

第一 警察區畫及配置官吏

明治 年十二月三十一日現在

署名	所在		距離	所轄	派出	官	員	現	口
	町	村							
警察本署									
某警察署									
某分署									
某分署									
合計									

一本表各署ニ配置セル人員ノ内警視警部長警部警部補及巡查ノ數ノミヲ記入シ御用掛
 雇等ノ人員ハ記入ヲ要セス

第二 盜難及盜難物

明治 年

目次	月											
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
強盜ニ遭ヒシ家												
強盜ニ遭ヒシ人												
窃盜ニ遭ヒシ家												
窃盜ニ遭ヒシ人												
擄奪ニ遭ヒシ人												
貨幣												
衣服												
其他												
貨幣合計												
合計												

一強盜ニ遭ヒシ家又ハ船ノ欄ニハ住家又ハ航行碇泊中ノ船舶ニ在テ強盜ニ遭ヒタル數
 ナ記入シ強盜ニ遭ヒシ人ノ欄ニハ途上等ニテ財物ヲ強奪セラレシ人即チ追劍ニ遭ヒ
 シ數ヲ記入ス可シ
 一竊盜ニ遭ヒシ船ノ欄ニハ船中又家ノ欄ニ住家ハ勿論田野山林若クハ屋外ニ置キタル
 物品ヲ竊盜セラレシ數ヲ登記シ竊盜ニ遭ヒシ人ノ欄ニハ拘摸ニ遭ヒシ人及旅店停車
 場若クハ渡船等ニ於テ財物ヲ盜マレシ人ヲ登記ス可シ

一貨幣ノ欄ニ舊貨幣金銀塊モ實價ニヨリ其代價ヲ算出シテ合記ス可シ
 一數類衣類其他ノ物ハ品數量或ハ箇數ト代價トヲ記載ス可シ但數量或ハ箇數ノミ詳カ
 ナル者又ハ代價ノミ詳カナル者ハ各其欄ニ別掲シ符號ヲ付ス可シ
 一數量及代價ハ進達ノ表ニ登記ノ際數量ハ石位ニ代價ハ圓位ニ止ム可シ次表モ亦同シ

第三 盜贓物發見ノ事由及品目 明治 年

事 由	件 數	品 目				
		貨 幣	衣 類	其 他	貨 幣	合 計
例ハハ						
古物商ノ販出ニヨリ						
胡亂者ヲ取糺セシニ						
ヨリ						
家宅搜索ニヨリ						
犯人ノ隠匿及棄置タ						
ルニヨリ						
拾物ノ届出ニヨリ						
現時取押ニヨリ						
盜ヲ取糺セシニヨリ						
自首セシニヨリ						
例々ニヨリ						
合 計						

第四 火災 明治 年

月 次	失火ノ度數	放火ノ度數	雷火及不審	合 計		燒失及延燒セシ
				延燒セシ	延燒セサ	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十 二						
合 計						

一軒數ハ住家ナレハ一竈ヲ以テ一軒ト算シ學校病院寺院等ナレハ一構ヲ以テ一軒ト算
 ス可シ但一構ノ内一棟又ハ二棟燒失セシキハ尙一軒ニ算ス可シ

第六類 警察及取締

第五

變死及棄兒

明治 年

月次	變		死		棄兒	
	自殺	誤殺	謀殺	故殺	其外合計	合計
一月						
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						
合計						

一 故殺ノ内ノ其他トアル欄ニハ怨恨等ニテ故殺サレタル人ノ數ヲ掲ケ下欄ノ其外ニハ自殺誤殺謀殺及故殺ノ目ニ依ラサル變死即天災或ハ獸畜等ノ害ニ罹テ死セシ人ノ數ヲ掲ケ可シ

第六

自殺者ノ年齢及因由

明治 年

例ハ	十六年未滿		十六年以上二十年未滿		二十年以上三十年未滿		三十年以上四十年未滿		四十年以上五十年未滿		五十年以上		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計		
前非ヲ悔ヒテ親族ノ不和ニ由テ													
活計ノ困難ニ由テ													
痴情ニ由テ													
精神ノ錯亂ニ由テ													
何々ニ由テ													
合計													

一 自殺ノ因由ハ成ヘク詳カニスルヲ要ス故ニ精神錯亂セシ者ノ如キモ其原因ヲ推知シ得タル片ハ或ハ發狂等ト掲ケスシテ其推究セシ事柄ヲ記載スヘシ

第六類 發狂及取締

第九 賭博犯處罰人ノ懲罰及過料 明治 年

懲罰過料	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料		
	男	女	合計
一年以上 五十圓以上			
一年以上 四十圓以上			
一年以上 三十圓以上			
一年以上 二十圓以上			
一年以上 十圓以上			
一年以上 五圓以上			
一年以上 三圓以上			
一年以上 一圓以上			
合計			

懲罰過料	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料		
	男	女	合計
一年以上 五十圓以上			
一年以上 四十圓以上			
一年以上 三十圓以上			
一年以上 二十圓以上			
一年以上 十圓以上			
一年以上 五圓以上			
一年以上 三圓以上			
一年以上 一圓以上			
合計			

過料不納ニシテ身代限ノ處分ヲ受ケシモノ

過料不納ニシテ身代限ノ處分ヲ受ケシモノ

第十 賭博犯處罰人ノ犯數及年齡 明治 年

年 齡	賭博犯處罰人ノ犯數及年齡					
	初犯	再犯	三犯	四犯以上	合計	合計
二十年以上三十 年未滿						
二十年以上四十 年未滿						
二十年以上五十 年未滿						
二十年以上六十 年未滿						
六十一年以上						
合計						

第十一 就捕犯罪人員

明治年

罪 状	現行犯		非現行犯		計	自首合計
	男	女	男	女		
國事ニ關スル者						
人ヲ殺傷セシ者						
強盜セシ者						
窃盜セシ者						
拘摸セシ者						
詐欺騙取セシ者						
放火セシ者						
貨幣偽造ニ關スル者						
違背罪ヲ犯セシ者						
需稅規則ヲ犯セシ者						
需稅ニ係ル						
犯則者						
其他						
其外ノ犯罪者						
總 計	全	全	全	全	全	全

一本表ハ逮捕上甲乙ノ地方ニ相承連スル場合ハ犯人ノ捕ニ就キシ地方ニ於テ登記スルモノトス

一二罪以上俱發ノ者アルモ一罪ノ方ニノミ登記ス可シ

第十二 救護

明治年

種 目	警察官吏	人 民	吏民協力合	計
盜難ニ罹ラントセシ				
殺傷セラレントセシ人				
變死傷セントセシ人				
失火放火及延燒ヲ消止メシ家				
迷兒				
途上ニテ發病セシ人				
合 計				

一本表ハ此ニ設ケタル種目ノ外ハ登記ヲ要セス

第六類 警察及取締

第十三 監視人員

明治年

移動	刑罰		特別監視	合計
	重罪	輕罪		
前年末日ノ現員	男	女	男	女
新ニ執行セシ	男	女	男	女
本年間	男	女	男	女
他府縣ヨリ入	男	女	男	女
住セシ者	男	女	男	女
其他	男	女	男	女
合計	男	女	男	女
本年間	男	女	男	女
滿期ニナリシ	男	女	男	女
他府縣へ出住	男	女	男	女
セシ者	男	女	男	女
執行中犯罪ニ	男	女	男	女
ヨリ刑ヲ受ケ	男	女	男	女
シ者	男	女	男	女
監視規則ニ違	男	女	男	女
犯セシ者(逃	男	女	男	女
亡セシ者ヲ除	男	女	男	女
ク)逃亡セシ	男	女	男	女
者	男	女	男	女
死亡セシ者	男	女	男	女
其他	男	女	男	女
合計	男	女	男	女
本年末日ノ現員	男	女	男	女

第十四

取締ニ關スル諸營業

明治年

業名	本年間		業名	本年間	
	開業	閉業		開業	閉業
例へば			角全併		
旅人宿			行		
貸座敷			同		
雇人宿			優		
寄席			妓		
湯茶屋			々		
待合茶屋			枝		
劇場			々		
全茶場					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
茶屋					
合計					

第十五

娼妓貸坐敷業及密賣淫者ノ處罰

明治年

種目	過料	苦使	過料苦使並科	合計	過料不納ニシテ苦使ニ換ヘシ者	營業	
						停止	禁止
娼妓							
貸坐敷							
引手茶屋							
私娼							
同寓主							
同煤合							
同容止							
合計							

一過料ニ處セラレシ者ハ總テ過料ノ欄ニ記入スヘシ但其内無資力者ハ過料不納ニシテ苦使ニ換ヘシ者ノ欄ニ複記ス可シ

第十六

警察上ニ死傷セシ人員

明治年

種目	死		傷	
	警部警部補及巡査	警部警部補及巡査	警部警部補及巡査	警部警部補及巡査
例ハハ				
盜賊ノ拒捕ニ由リ				
脱監人逮捕ニ由リ				
人命救助ニ由リ				
火災消防ニ由リ				
何々ニ由リ				
合計				

一本表ハ變死表ニ登記シタル中ニ竊キ盜賊ニ殺サレシ者若クハ水火災消防等ノ事故ニ依テ死傷セシ人員ヲ登記ス可シ

第六類 警察及取締

第二十一 未決者ノ出入及在監罹病延人員				明治年	
類	別	男	女	合	計
前年末日ノ現員	新入者				
本年間ノ入	再入者				
	他管ヨリ押送者				
	計				
本年間ノ出	放還者				
	死刑以下受刑者				
	逃走者				
	死亡者				
	賣付及保釋者				
	他管へ押送者				
	計				
本年末日ノ現員	在監延人員				
	罹病延人員				
	計				
合	計				

第二十二 已決囚ノ出入及在監罹病延人員				明治年	
類	別	男	女	合	計
前年末日ノ現員	新ニ刑ヲ受ケシ者				
本年間ノ入	再入者				
	他管ヨリ押送者				
	計				
本年間ノ出	満期放免者				
	特放ヲ得シ者				
	假出獄者				
	免幽閉者				
	他へ押送者				
	逃走者				
	死亡者				
	計				
本年末日ノ現員	在監延人員				
	罹病延人員				
	計				
合	計				

第二十四 已決囚出監時遷善ノ狀況及年齡等ノ關係 明治 年

類 別	遷善備置ノ關係アリキ者				遷善備置ノ關係アリキ者			
	初犯	再犯以上	合計	割合	初犯	再犯以上	合計	割合
年齡								
十六年未満								
十六年以上二十年未満								
二十年以上三十年未満								
三十年以上四十年未満								
四十年以上五十年未満								
五十年以上								
合計								
父母ノ有無								
父母存生								
父又ハ母ノミ存生								
父母共ニ死亡								
棄兒								
合計								

本表年齡、父母其他ノ關係ハ渾テ出監時現況ニ從テ區別ス可シ不詳ノ箇條アラハ各其合計ノ前ニ不詳ノ一項ヲ設ケテ登記ス可シ

類 別	遷善備置ノ關係アリキ者				遷善備置ノ關係アリキ者			
	初犯	再犯以上	合計	割合	初犯	再犯以上	合計	割合
婚姻ノ關係								
未婚者								
有配偶者								
無配偶者								
合計								
貧富								
資産アル者								
資産ナキ者								
合計								
教育								
文字ノ識ミ得キ者								
得ル者								
全無學ノ者								
合計								

第二十七 新入懲治者ノ入場枚數及年齡等ノ關係 明治 年

類 別	初 入		再 入		合 計
	男	女	男	女	
年 齡	十二年未滿				合 計
	十二年以上十六年未滿				
	十六年以上二十年未滿				
	二十年以上				
	合 計				
父母ノ有無					
父母存生					
父又ハ母ノ一存生					
父母共ニ死セ					
棄兒					
合 計					

生 育	初 入		再 入		合 計
	男	女	男	女	
養父母ノ手ニテ	養父母又ハ繼父母ノ手ニテ				合 計
	孤獨ノ手ニテ				
	他人ノ手ニテ				
	收容所等ニテ				
	合 計				
貧 富					
資産アル者					
資産ナキ者					
合 計					
教育ノ度					
文字ノ識ミ得キヲ爲シ得ル者					
全無學ノ者					
合 計					

第六類 警察及取締

第二十八

懲治者ノ出場時遷善ノ狀況及工技學藝ノ進否 明治 年

入場ノ因由	遷善ノ徴効		工		技		學	
	有	無	進	否	進	否	進	否
例へハ	男	女	男	女	男	女	男	女
公益ニ關ス								
身體ニ關ス								
財産ニ關ス								
何ル罪ナキ								
何ル罪ナキ								
懶惰								
放蕩								
何事ナキ								
計								
合								
計								

第二十九

別房留置者及携帶乳兒ノ出入延人員 明治 年

類別	別房留置者		携帶乳兒	
	男	女	男	女
前年末日ノ現員				
満期後頼ルヘキ處ナキ者				
監視ニ付セラレ居住及引取人等ナキ者				
本年間ノ入				
假出獄ヲ免シ居住及引取人等ナキ者				
計				
本年間ノ出				
出房及出監者				
逃走者				
死亡者				
計				
本年末日ノ現員				
在房在監ノ延人員				
合				
計				

第三十一

在監人ノ死亡

明治 年

病症類別	已決囚未決者		懲治者		刑房監置者		携帶乳兒		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
傳染性病									
發育及營養的病									
皮膚及筋病									
骨及關節病									
血行器病									
神經及五管病									
呼吸器病									
消化器病									
泌尿及生殖器病									
外因性死亡 (自他)									
中 毒 病									
原因不詳									
合計									

第三十二

在監人工錢ノ收入及給與

明治 年

監若クハ署	定役ニ服スル囚		未決者及守役ニ服ヒタル囚		懲治者及情		別房留置者		合計
	收入	給與	收入	給與	收入	給與	收入	給與	
某監獄本署									
某監獄支署									
合計									

○警察本分署門票

十年一月二十六日
内務省乙第五號

各地方ニ於テ從來取設有之候警察出張所并屯所等ノ名義ヲ廢シ更ニ出張所ヲ警察署屯所ヲ分署ト改稱シ各設置スル所ノ地名ヲ冠唱可致候事

但警察署門牌左ノ通掲示可致尤モ改正ノ上其地名警署等詳細可届出奉
門票雛形用木
適宜

竪五尺 横一尺

竪四尺五寸 横九寸

曲	何地名 警察署	何地名
尺	何地名 警察署	何地名 分署

○巡查訓授例并表式

十九年四月八日
内務省訓令第百二十五號

新ニ召募スル巡查訓練ノ儀今回及訓令候處右ノ案ヨリ警察ノ大要ヲ領得セシムルニ止
マルモノニ付其教習ヲ經テ現職ニ服シタル者ヲシテ仍實務ニ熟練セシムル爲メ別紙標
準ニ據リ訓授ヲ爲スヘシ
右訓令ス

巡查訓授例

第一條 警察署警察分署長若クハ代理官ハ巡查ヲシテ其事務ヲ習熟セシムル爲メ警察
ニ關スル法律命令及該縣ノ取締規則其他ノ執務方法中緊要ナル訓授ヲナスヘキモノ
トス

第二條 訓授ハ毎朝點檢交代ノ際之ヲ爲スヘシ其時間ハ三十分間ヨリ少カル可カラズ

第三條 訓授ノ財料ハ別表記識ノ條件ヲ標準トシ之ヲ定ムヘキモノトス

別表

明治	年	月	調	何々縣	警部氏	名	印
一日	警察事務之要旨						
二日	巡邏查察之際最注意スヘキ條件						
三日	行狀及心得之事						
四日	注意申報之心得						
五日	帶劍心得之要領						
六日	該地方長官ノ告達ニ係ル取締規則中緊要ナル條項 <small>「自何條 至何條」</small>						
七日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達中 <small>緊要ノ條件 應開</small>						
八日	集會條例及之ニ關スル告達中緊要ノ條項 <small>「自何條至何條或ハ何年第 號ノ布告若シクハ通」</small>						
九日	嘯聚暴動及群集喧嘩ノ警防方心得ノ事						
十日	流行病豫防規則中ノ要項及檢疫心得 <small>「自何條 至何條」</small>						
十一日	藥品取締規則及之ニ關スル告達中緊要ノ條項 <small>「自何條 至何條」</small>						

十二日	爆發物取締規則中ノ要項 <small>「自何條」至何條</small>
十三日	火藥取締規則中主要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
十四日	銃砲取締規則中ノ要項 <small>「自何條」至何條</small>
十五日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中 <small>主及ノ件</small>
十六日	賭博犯處分規則中緊要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
十七日	古物商及質屋條例並其細則中緊要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
十八日	出版條例寫真條例新聞條例中緊要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
十九日	度量衡取締規則及米商會社條例中ノ要項 <small>「自何條」至何條</small>
二十日	諸印紙稅規則中緊要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
廿一日	鳥獸獵規則中ノ要項 <small>「自何條」至何條</small>
廿二日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ要件 <small>同</small>
廿三日	墓地及埋葬取締規則中ノ要項
廿四日	水火風震等ノ變災ニ關スル心得方ノ要旨

廿五日	人命急變救援方心得ノ事
廿六日	難破船及漂流物取扱規則中緊要ノ條項 <small>「自何條」至何條</small>
廿七日	遺失物取扱規則中ノ要項 <small>「自何條」至何條</small>
廿八日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ要件 <small>同</small>
廿九日	治罪法中巡查必要ナル條項 <small>同</small>
三十日	刑法中最注意ヲ要スヘキ條項 <small>同</small>
卅一日	教會講社祭典葬儀等取締要件

○注意報告規則

明治十二年一月 內務省達無號

警察之精力素ヨリ雖無限衆庶ノ民情モ亦無窮故ニ苟モ職ヲ警察上ニ奉スルモノハ精神ヲ注キ凡ソ警察ノ耳目達セサルナキナ期シ注意スヘキニ付テハ各自之目擊耳聞スルモノ事細大トナク別紙注意報規則ニ據リ注意報呈可致事

注意報規則

第一條 注意報ハ各自當然ノ職務ヲ行フニ付上官ヘ申告スヘキ事ノ外平常篇ク注意シ其見聞スル珍奇異常ノ事細大トナク怠タラス報呈スルヲ要スルモノトス
但休暇旅行中ト雖モ同然タルヘシ

第二條 警察本署長并該署長又ハ其代理ハ所屬各員ノ報告書ヲ集メ其儘之ヲ進呈スヘシ或ハ本人ノ都合ニ依リ直ニ郵便等ヲ以テ送呈スルモ勝手タルヘシ
但郵便税ハ自費タルヘシ

第三條 此報告ヲ爲スニ不得已ノ外決シテ事主物件ヲ響カサルヲ要スヘシ

第四條 此報告ハ各自開見スル所ノ事實ヲ悉スヘシ決シテ他人ニ見做フヘカラス

第五條 不文惡筆ノ者ト雖モ決シテ備書スルヲ不得必ラス自ラ之ヲ作ルヘシ尤モ用紙并ニ書式等定例ナシトス

但紙筆等ハ自費タルヘシ

第六條 警察本署長等ニ該署長ハ此報告ニ怠タル者ヲ督促スルノ權ヲ有スト雖モ之ヲ可否シ又ハ中止スルヲ得ス

第七條 國事犯等ニ係リ隱密神速ヲ要スル事件ハ直ニ長官及署長等ニ面遞シ或ハ報告スルモ妨ケナシトス

第八條 警察上最モ注意報告スヘキ事項ハ國事權利衛生風俗トス其目左ノ條々ノ如シ

第九條 國事國安ニ關スル件々小別スル左ノ如シ
○乘輿及ヒ皇族ニ關スル事、○百官有司總テ官途ニ關スル事、○隱謀未發、○管下屬ヲ糾察シ、○政治上ノ動靜、○諸聚會、○國安ニ關スル未發、○國計ニ關スル得失、○國家ノ榮譽得失、○官卜人民トノ爭訟、○新聞紙、○學校、○官園公舍存廢保護

第十條 權利 民權ニ關スル件々小別スル左ノ如シ

○戶籍上ニ關スル事、○婚姻ノ事、○動産不動産所有物件ニ關スル事、○諸般營業、○假遺商品、○詐偽、○強談、○局騙、

第十一條 衛生 健全ニ關スル件々小別スル左ノ如シ

○諸食物、○賣藥、○不潔惡臭腐敗物、○下水物捨場、○寒暑適否、○諸病及ヒ傳染病、○種痘、○梅毒検査、○狂氣癲癇、○變死、○乳母、○捨子、○醫者、○産婆、○諸物品及ヒ家屋牆壁樹木等ノ危害又ハ健康ヲ害スル事、○發聲騒鬧

第十二條 風俗 風習ニ關スル件々小別スル左ノ如シ、

○孝子義僕、○不孝不義、○卑屈雇人へ不慈殘酷、○家族ノ不和熟、○諸祭禮、○俳優歌舞妓、○劇場寄セ席、○玉突等各種ノ遊戯、○博奕、○遊惰放逸、

○巡查看守精勤證書授與規則

廿二年五月廿五日
內務省訓令第廿一號 總務府(東京府)

巡查看守精勤證書授與規則左ノ通相定ム

巡查看守精勤證書授與規則

第一條 精勤證書ハ巡查看守ノ精勤ヲ證シ其名譽ヲ表スルモノトス

第二條 精勤證書ハ警察署長若クハ典獄ノ具狀ニ依リ廳府縣長官審査ノ上之ヲ授與スルモノトス

第三條 精勤證書ハ左ノ諸項ニ適スルモノニ授與スヘシ
一 行狀方正